

# PRTG NETWORK MONITOR

## PRTG v25 簡易マニュアル

Rev. 2.5

2025/07/31

## 目次

1	はじめに	1
1.1	この資料について	1
1.2	PRTG Network Monitor とは	1
1.3	ライセンスについて	2
2	システム要件	4
2.1	対応オペレーティングシステム (PRTG コアサーバー、リモートプローブ用)	4
2.2	ほとんどの PRTG ユーザー向けの推奨設定	5
2.3	リモートプローブの推奨設定	6
2.4	仮想環境での PRTG の実行	6
2.5	PRTG Web インターフェイスのシステム要件	7
2.6	監視対象デバイスの要件	7
3	インストール	8
3.1	プログラムの入手	8
3.1.1	ソフトウェアダウンロードページへのアクセス	8
	正規ライセンス版の入手	9
	フリーウェア版または評価版の入手	9
3.1.2	ソフトウェアのダウンロード	10
3.2	ライセンスキーの準備	11
3.2.1	トライアルライセンスキーの入手	11
3.2.2	トライアルライセンスキーが届かない場合または正規ライセンス版を利用される場合	12
3.3	インストール (v21.4.73.1656 以降のバージョンの場合)	13
3.4	インストール (v21.1.66.1664 以前のバージョンの場合)	25
3.5	アンインストール	33
4	初期セットアップ	37
4.1	位置情報の入力	38
4.2	資格情報の設定	39
4.3	管理アカウントのパスワード変更	42
4.4	メールアドレスの確認	44
4.5	SSL 接続への切り替え	44
5	Web GUI の起動とログイン	48
5.1	PRTG コアサーバーからの起動とログイン	48
5.2	リモートマシンからの起動とログイン	48
6	監視登録	51
6.1	グループの追加 (任意)	51
6.2	デバイスの追加	56
6.3	グループまたはデバイス設定の変更	58
6.4	センサーの追加	59
6.5	デバイスのクローン (コピー)	67
7	監視結果の確認	72
7.1	デバイスツリー画面	72
7.2	デバイス画面	75
7.3	センサー画面	76
8	監視の削除	77
8.1	センサーの削除	77
8.1.1	センサー画面で削除する場合	77
8.1.2	デバイス画面で削除する場合	78
8.2	デバイスの削除	79
8.2.1	単一デバイスの削除	79
	デバイス画面で削除する場合	79
	デバイスツリー画面で削除する場合	79

8.2.2	複数のデバイスを削除する場合	80
9	閾値の設定	81
10	アラート通知設定	84
11	通知設定	87
12	メール配信設定	91
13	基本概念の理解	93
13.1	コアサーバー	94
13.2	プローブ(複数可)	94
13.3	クラスター	95
13.3.1	PRTG クラスターの動作	95
13.4	オブジェクト階層	97
13.4.1	ルートグループ	98
13.4.2	プローブ	98
13.4.3	グループ	98
13.4.4	デバイス	99
13.4.5	センサー	99
13.4.6	チャンネル	100
13.5	設定の継承	100
13.5.1	子オブジェクトへの設定の継承	100
13.5.2	ルートグループでのデフォルト値設定	101
13.5.3	通知トリガーの継承	101
13.6	監視データのレポート	102
13.6.1	履歴データの参照	102
13.6.2	レポートの生成	106
14	センサーステータス	110
14.1	警告及びダウン状態でのセンサーの動作	111
15	ライセンスアクティベーション(ライセンスの有効化)	112
15.1	自動ライセンスアクティベーションが失敗した場合	112
15.1.1	プロキシサーバーを経由してライセンスを有効化する	113
15.1.2	オフライン環境でライセンスを有効化する	115
15.2	ライセンスステータスの確認	120
15.3	ライセンスの差し替え	121
15.3.1	インストールしたソフトウェアの確認	121
15.3.2	ライセンスキーの変更	121
16	バックアップと復元	125
16.1	設定のバックアップ	125
16.1.1	自動バックアップ	125
16.1.2	手動バックアップ	125
16.2	設定の復元	126
	お問い合わせ	129

PRTG は Paessler 社の登録商標です。

この文書に書かれている製品は、それぞれ所有者のトレードマークまたは登録済みトレードマークです。

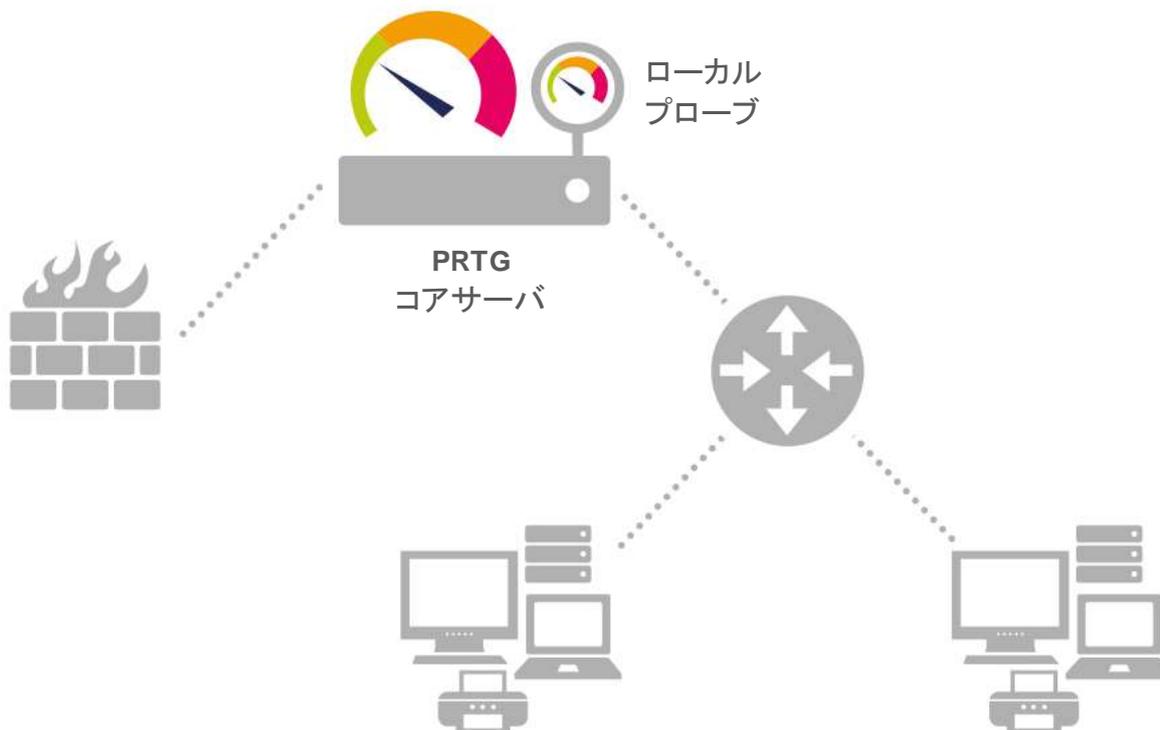
**変更履歴**

版	発行日	変更内容
第 1.0 版	2016/10/	新規作成 (v.16.3.25)
第 1.1 版	2016/12/	ライセンスアクティベーション方式の変更に伴う変更 (v.16.4.28)
第 1.2 版	2017/04/	更新
第 1.3 版	2018/09/	更新(v18 化)
第 1.4 版	2020/01/	更新(v19 化)
第 1.5 版	2021/04/	更新(v21 化)
第 1.6 版	2021/05/	v21.2.67.1562 のインストール手順に変更
第 1.7 版	2021/12/	v21.4.73.1656 のインストール手順に変更
第 1.8 版	2022/04/	システム要件 Windows Server 2022 と Windows 11 を追加 Google Chrome※推奨ブラウザと表記
第 1.81 版	2022/09/	問い合わせ先住所の変更
第 1.9 版	2023/04/	システム要件を更新
第 1.9.1 版	2023/08/	誤字、脱字の修正
第 2.0 版	2023/09/	Web インターフェイスのシステム要件を更新
第 2.0 版	2023/12/	問い合わせ先メールアドレスの変更
第 2.1 版	2024/02/	システム要件から Windows Server 2012/2012 R2 を削除
第 2.2 版	2024/04/	システム要件を更新
第 2.3 版	2024/06/	ライセンス体系の変更にもなう修正
第 2.4 版	2025/05/	システム要件に Windows Server 2025 を追加
第 2.5 版	2025/07/	アンインストール、レポート、バックアップ追加

## 1 はじめに

PRTG Network Monitor をお選びいただきましてありがとうございます。PRTG Network Monitor はドイツ Paessler 社の強力なネットワーク監視ソフトウェア製品です。様々な監視技術を用いてネットワークの可用性やトラフィック量、各種リソースの利用状況などを計測してデータベースに保存し、監視結果を分かりやすく表示します。優れたグラフやレポート機能を備え、ネットワークの最適化のための有効な監視ソリューションをご提供します。

PRTG Network Monitor の標準的なインストール:



### 1.1 この資料について

この資料は強力なネットワーク監視ソフトウェア PRTG Network Monitor の簡易マニュアルです。

はじめて PRTG Network Monitor をご利用いただく方を対象に、PRTG Network Monitor の概要、PRTG コアサーバーのインストール、主要機能の使い方を紹介します。

**メモ:** このガイドには PRTG Network Monitor で利用できるすべての機能の情報を網羅していません。詳しい情報については、「[PRTG ユーザーマニュアル \(英語\)](#)」を参照してください。

### 1.2 PRTG Network Monitor とは

PRTG Network Monitor は、強力なネットワーク監視アプリケーションで Windows ベースのシステムです。ネットワークの規模を問わず、LAN、WAN、WLAN、VPN 環境を監視することができます。また、物理または仮想 Web、メール、ファイルサーバー、Linux システム、Windows クライアント、ルータ、その他も監視することができます。ネットワークの可用性、帯域使用状況、リモートマシン上の QoS、メモリ負荷、CPU 使用状況、その他さまざまなネットワークパラメータも監視できます。

セットアップは非常に簡単で、Simple Network Management Protocol (SNMP)、Windows Management

Instrumentation (WMI)、xFlow (Cisco NetFlow, IPFIX, sFlow, jFlow) その他多くの業界標準プロトコルやパケットスニファといった技術を使用してネットワークを監視します。

PRTG Network Monitor は、Windows ベースのマシン上で24時間365日稼働し、ネットワーク使用パラメータやネットワークシステムの可用性を継続的に内部データベースに記録します。記録データは後で分析に使用できるので、システム管理者は使用状況の傾向を把握し最適化を行うことができます。

その他、機能特長については以下を参照してください：

弊社ホームページ (PRTG 紹介ページ)：

<https://www.jtc-i.co.jp/product/prtg/prtg.html>

PRTG 製品ガイド：

[https://www.jtc-i.co.jp/support/documents/presentation/productguide\\_prtg.pdf](https://www.jtc-i.co.jp/support/documents/presentation/productguide_prtg.pdf)

### 1.3 ライセンスについて

必要なライセンスはセンサーの数で決定します。1センサーは1監視項目に相当します。

PRTG Network Monitor には3つのエディション (版) があります：

- ・ フリーウェア版：  
個人利用や初めて使ってみる場合に適しています。

以下のような特長があります：

- 無料
- 最大100センサー
- 利用可能なすべてのセンサータイプをサポート

**注記：**フリーウェア版を使用する場合も最初はトライアル版として動作します (インストール時にフリー/トライアルキーを適用してください)。トライアル期間が終了すると、自動的にフリーウェア版になります。

- ・ トライアル版：  
商用版ご購入前の評価・検証にご利用ください。

以下のような特長があります：

- センサー数無制限
- 利用可能なすべてのセンサータイプをサポート
- トライアル期間は30日間 (30日経過後は自動でフリーウェア版になります)
- 1つのフェイルオーバーノードをもつクラスターを構成可能 (2ノード構成)。2つおよび3つのフェイルオーバーノードをもつクラスターを構成するには、追加のフリー/トライアルキーが1つ必要です。4つのフェイルオーバーノードを持つクラスターを構成するには、追加のフリー/トライアルキーが2つ必要です。

- ・ 商用版:  
複数の商用ライセンス(500, 1000, 2500, 5000, 10000)があります。
  - センサーの最大数まで監視可能
  - 利用可能なすべてのセンサータイプをサポート
  - 1つのフェイルオーバーノードをもつクラスターを構成可能(2ノード構成)。2つおよび3つのフェイルオーバーノードをもつクラスターを構成するには、同じサイズの追加ライセンスが1つ必要です。4つのフェイルオーバーノードを持つクラスターを構成するには、同じサイズの追加ライセンスが2つ必要です。

ライセンスに関してご不明な点などございましたら、弊社まで[お問い合わせ](#)ください。

## 2 システム要件

この章では、PRTG Network Monitor のシステム要件について説明します。

### 2.1 対応オペレーティングシステム（PRTG コアサーバー、リモートプローブ用）

PRTG コアサーバーサービスと PRTG プロブサービスは以下の Windows バージョンをサポートしています。64 ビット(x64)OS を推奨します。

- Microsoft Windows Server 2025
- Microsoft Windows Server 2022
- Microsoft Windows Server 2019
- Microsoft Windows Server 2016
- Microsoft Windows 11
- Microsoft Windows 10

**注記:** Windows Server の「Core モード」と「最小サーバーインターフェイス (Minimal Server Interface)」はサポートしていません。

## 2.2 ほとんどの PRTG ユーザー向けの推奨設定

PRTG のパフォーマンスや安定性に影響を与える多くの要因がありますが、ほとんどの PRTG ユーザーには以下の PRTG コアサーバーのハードウェアサイジングが推奨されます。

PRTG コアサーバーを以下の環境で実行することを推奨します。

- ・ x64 サーバーハードウェア上で直接実行する。または、適切に構成された仮想環境(詳細については 仮想環境での PRTG の実行セクションを参照してください。)で実行する。
- ・ Windows Server 2025、Windows Server 2022、Windows Server 2019、Windows Server 2016、Windows 11、または Windows 10 上で実行する。

注意: コアサーバーのシステムに .NET Framework 4.7.2 以降をインストールする必要があります。新しい PRTG コアサーバーには .NET Framework 4.8 を推奨します。

PRTG マニュアルの「General System Requirements for Remote Probes」もご確認ください。

[https://www.paessler.com/manuals/prtg/system\\_requirements#remote\\_probes](https://www.paessler.com/manuals/prtg/system_requirements#remote_probes)

センサー数 (コアサーバーごと)	CPU コア数	RAM	DISK 容量	管理者アカウントの 同時接続数	リモートプロ ーブ数	仮想環 境	クラスター	推奨ライセンス
最大 500	4	4 GB	100 GB	< 30	< 30	✓	✓	PRTG 500
最大 1,000	6	6 GB	500 GB	< 30	< 30	✓	✓	PRTG 1000
最大 2,500	8	8 GB	750 GB	< 20	< 30	✓	✓	PRTG 2500
最大 5,000	8	12 GB	1,000 GB	< 20	< 60	✓	!	PRTG 5000
最大 10,000	10- 12**	16 GB	1,500 GB	< 15	< 80	✓	!	PRTG 10000
10,000 超	コアサーバーの追加を推奨します。詳細はお問い合わせください。							PRTG Enterprise

✓ = OK    ✓ = \*OK    ! = 非推奨    ! = 公式にサポートしていません。詳細はお問い合わせください。

\* 詳細は、下記の「仮想環境での PRTG の実行」をご確認ください。

\*\*10 個以上の CPU コアを使用する場合は、Windows のレジストリで CPU 分割構成を適用する必要があります。

ほとんどの PRTG ユーザーは、デバイスあたり平均 10 個のセンサーを使用しています。そのため、例えば 100 台のデバイスを監視するには、1,000 センサーのライセンスで十分な場合がほとんどです。これらの推奨事項のいずれかを超える場合は弊社までお問い合わせください。

## 2.3 リモートプローブの推奨設定

リモートプローブを以下の環境で実行することを推奨します。

- ・ x86 互換ハードウェア上で直接、または適切に構成された仮想環境 (詳細については 仮想環境での PRTG の実行セクションを参照してください。) で実行する。
- ・ Windows Server 2025、Windows Server 2022、Windows Server 2019、Windows Server 2016、Windows 11、または Windows 10 上で実行する。

注意: プローブのシステムに .NET Framework 4.7.2 以降をインストールする必要があります。新しいプローブには .NET Framework 4.8 を推奨します。

センサー数 (リモートプローブごと)	CPU コア数	RAM	DISK 容量*
最大 200	2	2 GB	40 GB
200 ~ 2,000	4	4 GB	40 GB
2,000 ~ 5,000	6	6 GB	40 GB
5,000 超	リモートプローブの追加を推奨します。詳細はお問い合わせください。		

\*リモートプローブシステムには、特別なディスク要件はありません。通常は 40GB 以上を推奨します。

## 2.4 仮想環境での PRTG の実行

PRTG は、PRTG コアサーバーを実行しているシステムのパフォーマンスや安定性に依存するさまざまなコンポーネントを備えたオールインワンの監視ソリューションです。仮想環境ではさらに複雑なレイヤーが追加されることになるため、物理サーバーと同じレベルのパフォーマンスを実現するには、PRTG コアサーバーの設定を考慮する必要があります。

500~5,000 センサーを使用する場合、仮想環境で実行するための特定の最適化を行う必要はほとんどありません。

5,000 センサー以上の大規模の場合は、ベストプラクティスガイド「仮想環境で PRTG の大規模インストールを行う」の説明に従ってください。

※弊社ホームページにてベストプラクティスガイドの日本語訳資料をご用意しております。

## 2.5 PRTG Web インターフェイスのシステム要件

PRTG の Web インターフェイスは以下のブラウザをサポートしています。(パフォーマンスと信頼性の高い順に記載)。画面の解像度は 1024x768 以上を推奨します。

- Google Chrome 75 以降 ※推奨ブラウザ
- Mozilla Firefox 67 以降
- Microsoft Edge 79 以降
- Safari または iOS (Safari) 11 以降

注意: 他のブラウザや古いバージョンでは Web インターフェイスにアクセスできない場合があります。

## 2.6 監視対象デバイスの要件

- **SNMP (Simple Network Management Protocol) 監視:**  
監視対象デバイスが SNMP v1、v2c、また v3 に対応しており、SNMP 互換ソフトウェアがデバイスにインストールされている必要があります。デバイスで SNMP が有効になっており、PRTG を実行しているマシンからの SNMP インターフェイスへのアクセスが許可されている必要があります。  
詳細はメーカーマニュアル(英語)をご確認ください。  
[https://www.paessler.com/manuals/prtg/snmp\\_monitoring](https://www.paessler.com/manuals/prtg/snmp_monitoring)
- **WMI (Windows Management Instrumentation) 監視:** WMI 監視を使用するには Windows ネットワークが必要です。上述の Windows OS を搭載したホスト、クライアントコンピューターが公式にサポートされています。WMI のパフォーマンスに問題が生じるため、Windows Vista や Windows Server 2008 を WMI 監視のホストコンピューターに使用しないでください。  
詳細はメーカーマニュアル(英語)をご確認ください。  
[https://www.paessler.com/manuals/prtg/wmi\\_monitoring](https://www.paessler.com/manuals/prtg/wmi_monitoring)
- **Flow (NetFlow、IPFIX、sFlow、jFlow) 監視:** PRTG プローブを実行しているシステムに、NetFlow (V5、V9、または IPFIX)、sFlow (V5)、jFlow (V5) のデータパケットを送信するようにデバイスを設定する必要があります。  
詳細はメーカーマニュアル(英語)をご確認ください。  
[https://www.paessler.com/manuals/prtg/flow\\_monitoring](https://www.paessler.com/manuals/prtg/flow_monitoring)
- **パケットスニффイング監視:** ローカルマシンのネットワークカードを通過したデータパケットのみを解析できます。スイッチドネットワークでネットワーク全体の監視を行うには、いわゆる「モニターポート」を備えたスイッチが必要です。  
詳細はメーカーマニュアル(英語)をご確認ください。  
[https://www.paessler.com/manuals/prtg/packet\\_sniffer\\_monitoring](https://www.paessler.com/manuals/prtg/packet_sniffer_monitoring)

## 3 インストール

PRTG Network Monitor のインストールは非常に簡単です。PRTG Network Monitor プログラムを入手してインストールウィザードを完了させるだけです。複雑な設定は不要です！（もちろん、必要に応じて設定を調整できます。）

以下の内容を含みます：

- ・ [プログラムの入手](#)
- ・ [ライセンスキーの準備](#)
- ・ [インストール](#)

### 3.1 プログラムの入手

PRTG プログラムは以下の方法で入手できます。

- ・ [弊社「ソフトウェアダウンロード」](#)ページからダウンロードしてください。

ソフトウェアダウンロードページ：<https://www.jtc-i.co.jp/support/download/index.php>

- ・ CD メディアをお持ちの場合（オプションで CD メディアをご購入いただいている場合）：  
CD メディアにプログラムが収録されています。お手元にご準備ください。

#### 3.1.1 ソフトウェアダウンロードページへのアクセス

ソフトウェアダウンロードページへのアクセス方法は以下のとおりです。

**メモ：** CD メディアに収録されているプログラムをインストールにご利用いただく場合は、この作業は不要です。[「ライセンスキーの準備」](#)へ進んでください。

## 正規ライセンス版の入手

有効な管理番号をお持ちの場合（正規ライセンス版をご購入いただきライセンスがサポート有効期限内である場合）は、「ライセンスユーザー」セクションで「管理番号」を入力し「ダウンロードページへ進む」をクリックしてください（① -> ②）。

○ ライセンスユーザー

ライセンスをお持ちの方は、ライセンス管理番号を入力して、「ダウンロードページへ進む」ボタンをクリックしてください。

管理番号\*  -  (半角英数)

例) XYZ1234-0000 → 「XYZ1234」 - 「0000」  
 (「ライセンス証書・サポート確認書」記載のとおりご入力ください。)

## フリーウェア版または評価版の入手

有効な管理番号をお持ちでない場合（購入前の評価利用またはフリーウェア版の利用の場合）は、「トライアルおよびフリーウェアユーザー」セクションで必要な情報を入力し「プライバシーポリシーに同意して次へ進む」をクリックしてください（① -> ②）。

○ トライアルおよびフリーウェアユーザー

製品トライアル、もしくはフリーウェアをご利用の場合は、下記項目を入力して、「プライバシーポリシーに同意して次へ進む」ボタンをクリックしてください。  
 なお、\*のある項目は、必ずご入力願います。

①

貴社名\*  (全角)

ご担当者名\* 姓  名  (全角)

ご担当者名(カナ)\* 姓  名  (全角カタカナ)

メールアドレス\*  (半角英数)  
(フリーメールアドレスはご遠慮ください。)

電話番号\*  -  -  (半角数字)

貴社所在地(郵便府県)\*  郵便府県の選択

目的\*  自社導入検討  
 他社への提案

導入予定時期\*  3か月以内  
 6か月以内  
 1年以内  
 時期は未定だが導入検討  
 情報収集/調査段階

②

<お預かりする個人情報の取り扱いにつきまして>  
 ご入力いただきました個人情報につきましては、プライバシーポリシーに基づいて管理させていただきます。  
 お客様への回答、および弊社、一部関連元(\*)による営業・マーケティング活動目的以外には利用いたしません。

(\*) Paessler社。プライバシーポリシーは下記をご参照ください。  
<https://www.paessler.com/company/privacypolicy>

### 3.1.2 ソフトウェアのダウンロード

ソフトウェアの一覧で「PRTG」を選択します (①)。



下図のように最新バージョンのダウンロードボタン  をクリックしてプログラムをダウンロードします。

**メモ:** インストールには正規または評価ライセンスキーが必要です。

**PRTG**

ボタンをクリックすると、ライセンスキーを記載したメールがご登録いただいたメールアドレス宛てに届きます。インストール時はメールに記載のライセンスキーを使用してください。

名称	バージョン (弊社公開日)	OS	種類	ダウンロード
最新バージョン (*1)	25.1.102.1373 ( 2025/01/21 )	Windows		 367 MB
中間バージョン1 (*3)	22.1.75.1594 ( 2025/01/21 )	Windows		 357 MB
中間バージョン2 (*3)	16.1.21.1924 ( 2025/01/21 )	Windows		 187 MB

**メモ:**

- ・ ボタンをクリックすると、ライセンスキーを記載したメールがご登録いただいたメールアドレス宛てに届きます。インストール時はメールに記載のライセンスキーを使用してください。
- ・ ライセンスキーが届かない場合は、以下よりお申し込みください。  
[ライセンスキーお申込みページへ](#)

- ・ インストーラはフリー版/トライアル版/正規版で共通です。
- ・ インストールするにはライセンスキー(正規ライセンスキーまたはトライアルライセンスキー)が必要です。
- ・ フリー版またはトライアル版をご希望の場合は、弊社まで[ライセンスキーをお申し込み](#)ください。  
トライアルライセンスキーをメールでお送りいたします。
- ・ トライアルライセンスキーを適用するとトライアル版として動作します。
- ・ トライアル版は30日間機能制限なしでご利用頂けます。トライアル期間の30日が経過すると自動的にフリー版に切り替わります。
- ・ フリー版は機能の制限はありませんが、利用できるセンサー数は100センサーに制限されます。
- ・ v16.4.28 以降では、フリー版またはトライアル版に正規版ライセンスを適用すると正規版として動作します。(v16.4.27 以前のバージョンでは、正規版インストーラを上書きインストールする必要があります。)
- ・ インストーラを使って PRTG をアップデートする場合、作業前のバージョンによっては中間バージョンを経由する必要があります。該当するバージョンなど、詳細につきましては「[PRTG を以前のバージョンからアップデート](#)」を参照してください。

## 3.2 ライセンスキーの準備

正規ライセンス版、フリー/トライアル版ともインストール時にライセンスキーの入力が要求されます。事前にライセンスキーをご準備ください。

### 3.2.1 トライアルライセンスキーの入手

インストーラをダウンロードすると、[ソフトウェアのダウンロード](#) で登録したメールアドレス宛にトライアルライセンスキーを案内するメールが送信されます。



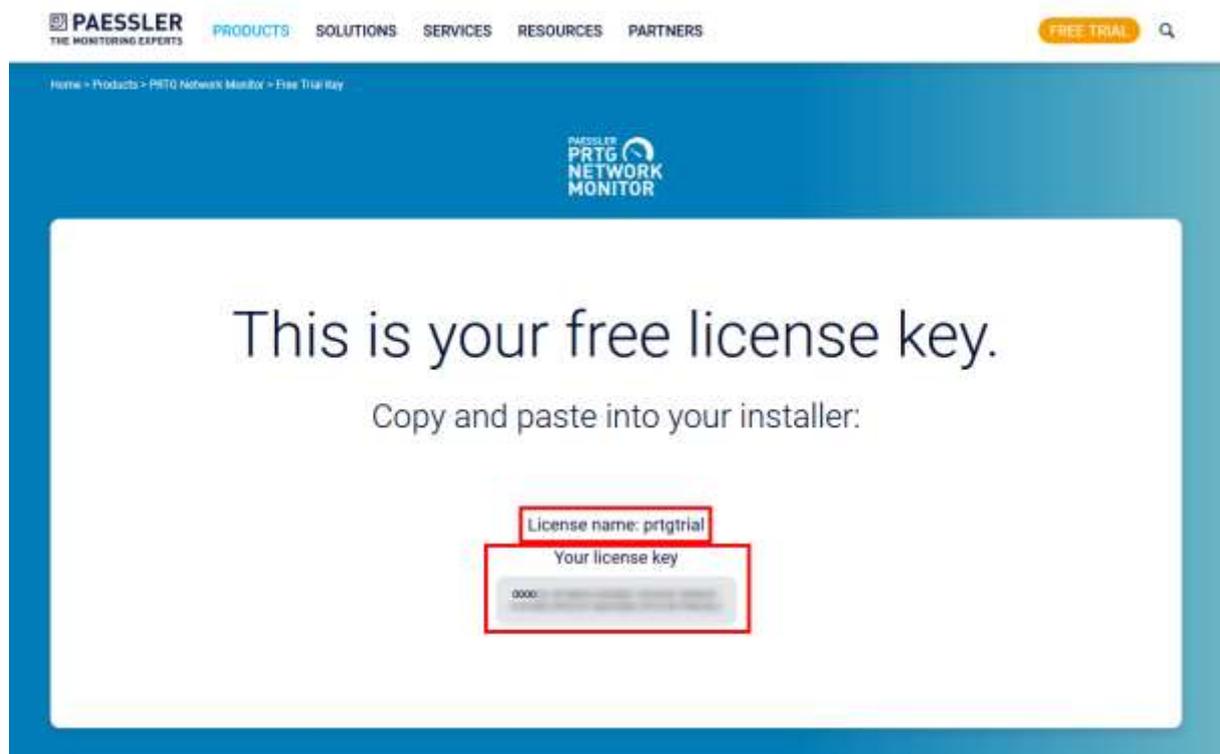
お世話になっております。  
PRTG トライアルキーをお送りいたします。  
ご検証をよろしくお願い申し上げます。

License Name:  
prtgtrial

License Key:  
以下より取得してください。  
<https://www.jtc-i.co.jp/form/>

メールに記載されているリンクをクリックして、フリー/トライアルキーの取得ページを開いてください。

開いたページの下部の[Your license key]のラベルの下にフリー/トライアルキーが表示されています。フリー/トライアルキーは、インストール時に使用します。テキストエディター等にコピー&ペーストして保管してください。



### 3.2.2 トライアルライセンスキーが届かない場合または正規ライセンス版を利用される場合

フリー/トライアルライセンス版のメール案内が届かない場合、または正規ライセンス版を評価利用される場合は、以下からライセンスキーをお申し込みください。トライアルライセンスキーをメールでお送りいたします。

トライアルライセンスキーお申し込み: <https://www.jtc-i.co.jp/contact/scontact.php>

### 3.3 インストール (v21.4.73.1656 以降のバージョンの場合)

ここでは、v21.4.73.1656 以降のバージョンでのインストール手順を説明します。

v21.2.67.1562 以降のバージョンでは、

以下の項目を設定できる「カスタム」インストールモードが選択できるようになりました。

- ・ プログラムディレクトリとデータディレクトリをインストールする場所
- ・ 自動検出(オートディスカバリー)の実行、またはスキップの選択
- ・ SNMP コミュニティ文字列(コミュニティ名)の入力
- ・ インストール完了後、PRTG Web GUI が起動します。PRTG をインストールするサーバーに[サポート対象ブラウザ](#)をインストールしておいてください(サポート対象ブラウザでない場合、正常に画面が表示できないことがあります)。
- ・ PRTG をインストールするマシンがインターネット(PRTG のライセンスアクティベーションサーバー)へ直接アクセスできる場合は、インストールが完了すると自動的にライセンスがアクティベートされます。インターネットに接続にプロキシを経由する場合やオフライン環境の場合は、手動でライセンスの有効化を行う必要があります。詳しくは「[自動ライセンスアクティベーションが失敗した場合](#)」を参照してください。

インストール手順は以下のとおりです：

Step 1 zip ファイルを任意の場所に解凍します(例： C:¥tmp¥prtg.zip)。

zip ファイル	prtg.zip
exe ファイル	PRTG Network Monitor xx.x.xx.xxxx Setup (Stable).exe

#### メモ：

- ・ xx.x.xx.xxxx はバージョン番号です。
- ・ エクスプローラーで拡張子を表示しない設定になっている場合、拡張子(.exe)は表示されません。

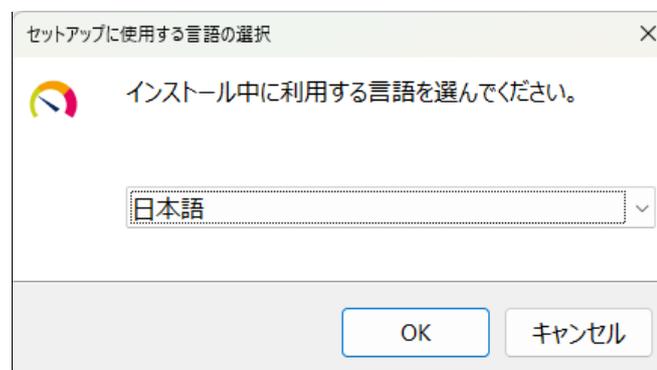
- Step 2 PRTG プログラム(.exe ファイル)を実行します。  
exe ファイルを選択し、**右クリック** > 「**管理者として実行**」を選択します。



- Step 3 ユーザーアカウント制御画面が表示された場合は、「はい」をクリックします。



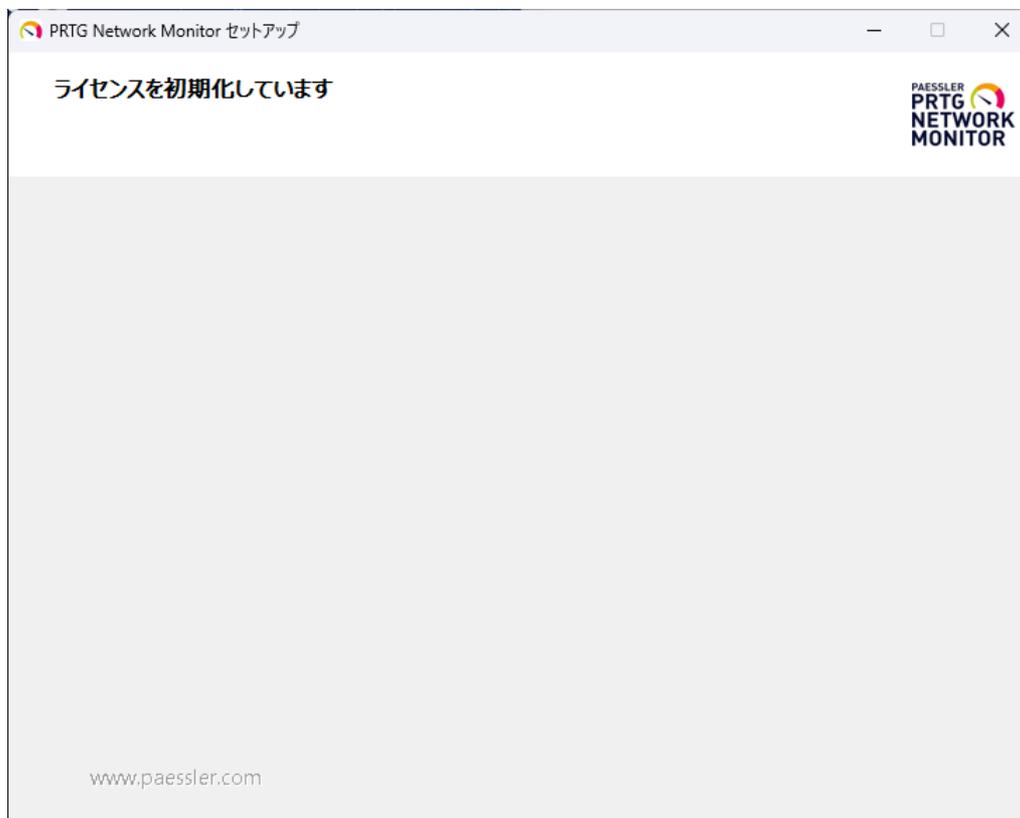
- Step 4 言語を選択して「OK」をクリックします。



Step 5 使用許諾契約書を確認して「同意する」を選択し、「次へ(N) >」をクリックします。



Step 6 「ライセンスを初期化しています」画面が表示されます。しばらく待ちます。



Step 7 「メールアドレス」に PRTG 管理者のメールアドレスを入力し、「次へ(N) >」をクリックします。

メールアドレス

インストールを続行するには、次の情報を提供してください：

メールアドレスを入力します。システム内のセンサーで停止、疑わしい値、システムのクリティカルな問題が検出されると、PRTG からこのアドレス宛に重要通知が送信され、警告されます。

メールアドレス：

Paessler は、このアドレスに当社の製品やサービスに関する有用な情報もお送りします。お客様は、[privacy@paessler.com](mailto:privacy@paessler.com) にご連絡いただくことで、いつでもこの情報配信を停止することができます。当社はお客様の個人情報を保護します。

[詳細は個人情報保護方針をご覧ください。](#)

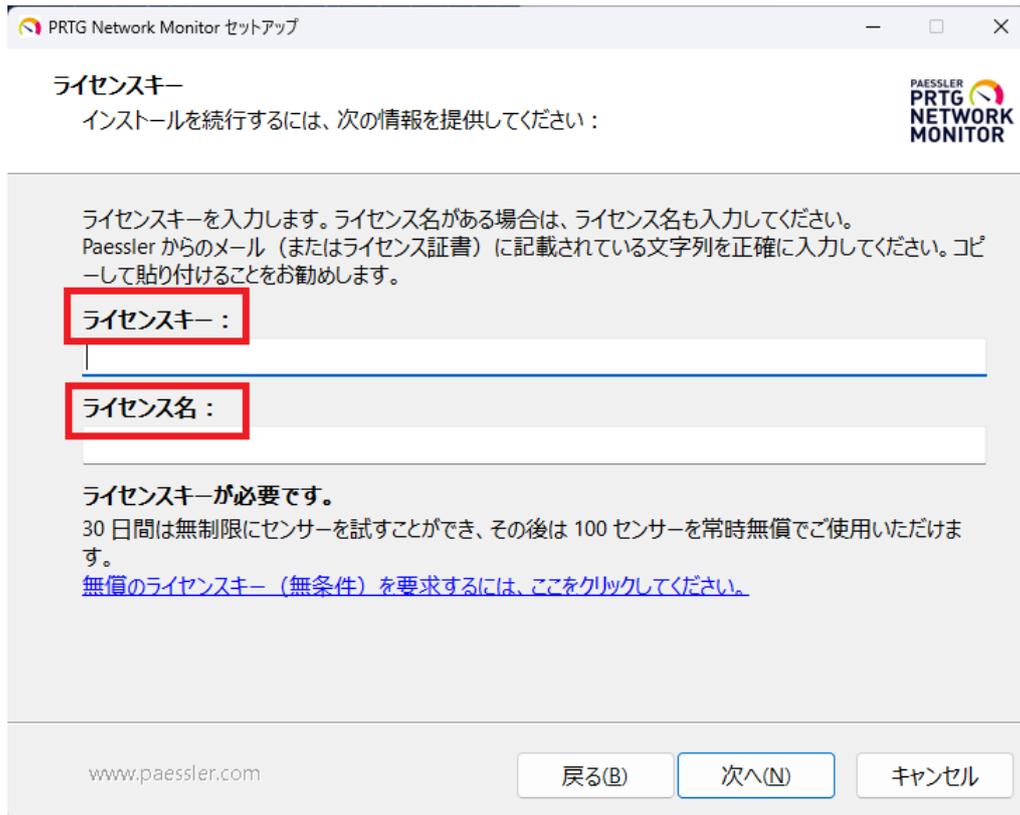
[www.paessler.com](http://www.paessler.com) 戻る(B) 次へ(N) キャンセル

Step 8 ライセンス情報を入力します。  
ライセンスキーの準備で取得したライセンス情報を準備します。  
入力ミスを防ぐため、ライセンスキーの情報をコピー & ペーストしておくことをお勧めします。

ライセンス情報ファイルをメモ帳などのエディタで開きます。

「Key」をコピーして「ライセンスキー」欄にペーストします。  
「Name」をコピーして「ライセンス名」欄にペーストします。

※JTC注釈: トライアル/フリー版のライセンス名は「prtgttrial」です。



PRTG Network Monitor セットアップ

ライセンスキー

インストールを続行するには、次の情報を提供してください：

ライセンスキーを入力します。ライセンス名がある場合は、ライセンス名も入力してください。Paessler からのメール（またはライセンス証書）に記載されている文字列を正確に入力してください。コピーして貼り付けることをお勧めします。

ライセンスキー：

ライセンス名：

ライセンスキーが必要です。  
30 日間は無制限にセンサーを試すことができ、その後は 100 センサーを常時無償でご使用いただけます。  
[無償のライセンスキー（無条件）を要求するには、ここをクリックしてください。](#)

www.paessler.com

戻る(B) 次へ(N) キャンセル

Step 9 「次へ(N) >」をクリックします。

Step 10 「ライセンスを初期化しています」画面が表示されます。しばらく待ちます。



PRTG Network Monitor セットアップ

ライセンスを初期化しています

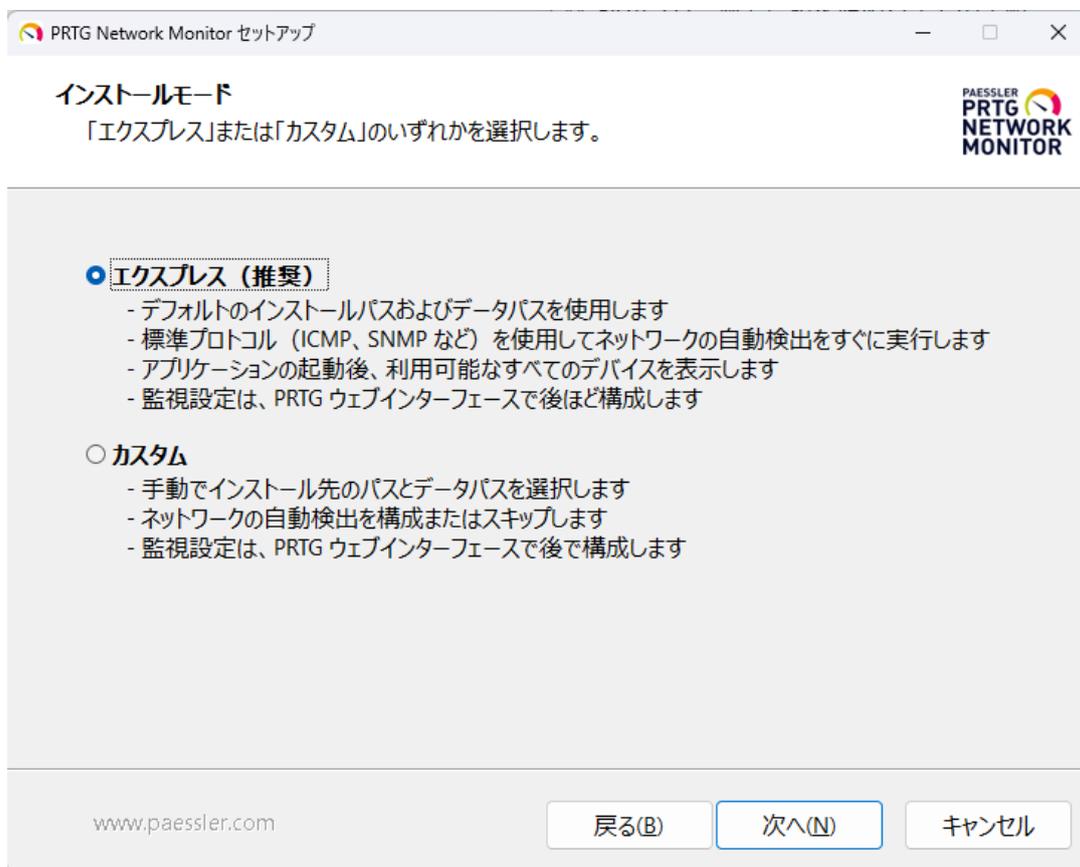
www.paessler.com

Step 11 「インストールモード」画面が表示されます。「**エクスプレス(推奨)**」または「**カスタム**」を選択し、「**次へ**」をクリックします。

※インストールモードの説明

エクスプレス	<ul style="list-style-type: none"> <li>プログラムディレクトリとデータディレクトリはデフォルトのパスを使用</li> <li>自動検出(オートディスカバリー)を実行</li> </ul>
カスタム	<ul style="list-style-type: none"> <li>プログラムディレクトリとデータディレクトリのパスを変更可能</li> <li>自動検出(オートディスカバリー)の実行、またはスキップを選択可能</li> <li>自動検出で使用する SNMP 資格情報(コミュニティ文字列)を入力可能</li> </ul>

エクスプレス(推奨)を選択して、「次へ(N) >」をクリックすると [Step15 のインストールが開始します。](#)



- Step 12 **カスタム**を選択して「次へ(N) >」をクリックすると「場所」画面が表示されます。  
「インストール先のパス」(プログラムディレクトリ)と「データパス」(データディレクトリ)の場所を選択することができます。  
デフォルトのパスが予め選択されています。必要に応じて変更し、「次へ(N) >」をクリックします。

PRTG Network Monitor セットアップ

**場所**  
インストール先およびデータストレージの場所を選択します。

**インストール先のパス**  
必要に応じて、インストール先のパスを変更します。

参照

**データパス**  
データパスは、必要に応じて後から変更できます。

参照

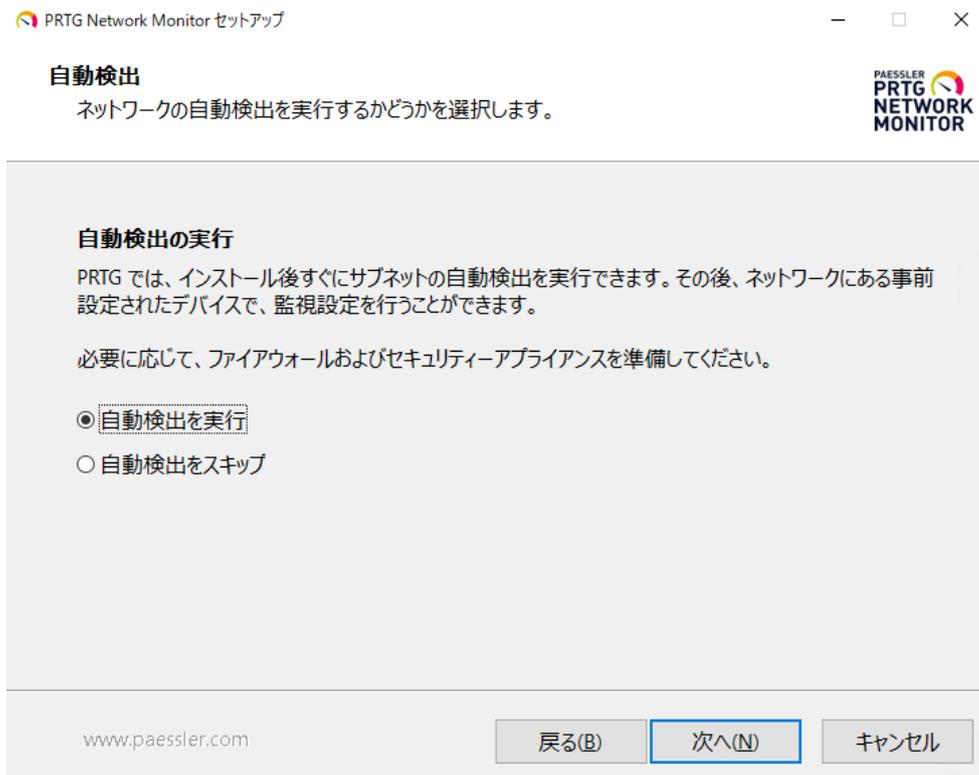
www.paessler.com

戻る(B) 次へ(N) キャンセル

- Step 13 「自動検出」画面が表示されます。  
「自動検出を実行」、または「自動検出をスキップ」を選択します。  
「次へ(N) >」をクリックします。

\*自動検出(オートディスカバリー):

PRTG は PRTG システムと同一サブネット内の IP アドレスに Ping を実行してネットワークをスキャンし、到達できたデバイスに適切なネットワーク監視構造を追加します。



- 「自動検出をスキップ」を選択した場合は、[Step15 のインストールが開始します。](#)  
自動検出(オートディスカバリー)は実行されません。

- Step 14 「自動検出を実行」を選択した場合は、「自動検出の構成」画面に遷移します。  
自動検出で使用する「SNMP コミュニティ文字列」(SNMP のコミュニティ名)を入力します。  
デフォルトでは「public」が入力されています。必要に応じて変更し「次へ(N) >」をクリックします。

※JTC 注釈:入力した「SNMP コミュニティ文字列」はインストール後の「Root」オブジェクト設定「SNMP デバイスの資格情報」に反映されます。

PRTG Network Monitor セットアップ

**自動検出の構成**  
SNMP コミュニティ文字列を入力します。

**自動検出**

- 最大で 254 台のデバイスのサブネットをスキャン
- 資格情報は後から PRTG インターフェースで追加

**SNMP コミュニティ文字列**

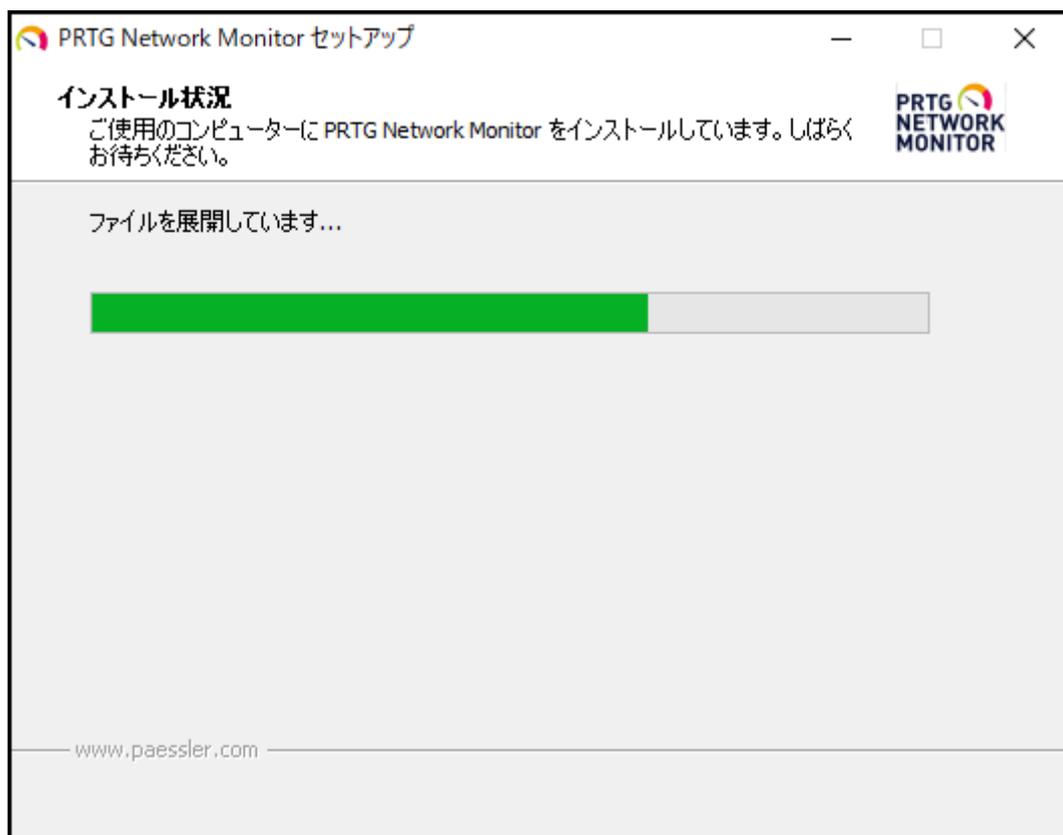
自動検出は、次のコミュニティ文字列を使用して、SNMP v1 および v2により動作します:

public

www.paessler.com

< 戻る(B)   次へ(N) >   キャンセル

Step 15 インストールが開始します。インストールが完了するまでお待ちください。



例：インストールが完了すると、自動的に Web ブラウザーが起動し、PRTG Web GUI のログイン画面が表示されます。  
デフォルト ログイン名/パスワード： prtadmin/prtadmin

## PRTG Network Monitor (WIN-2E9B6ON0PC2)



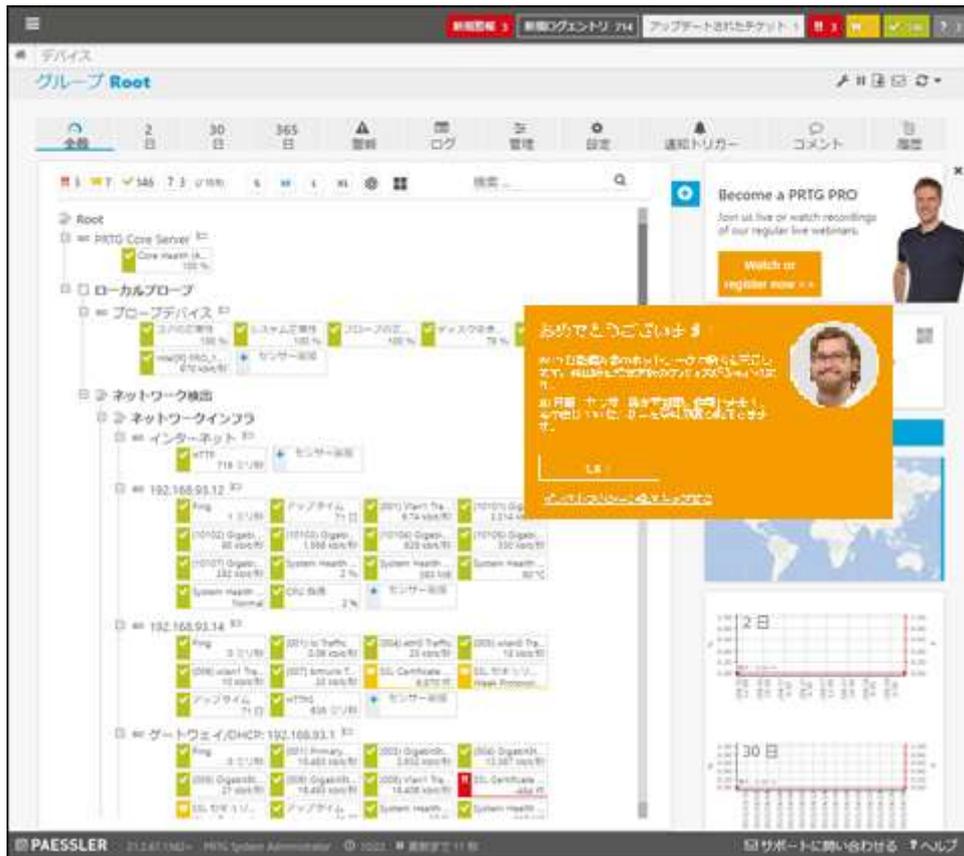
**ログイン名**

**パスワード**

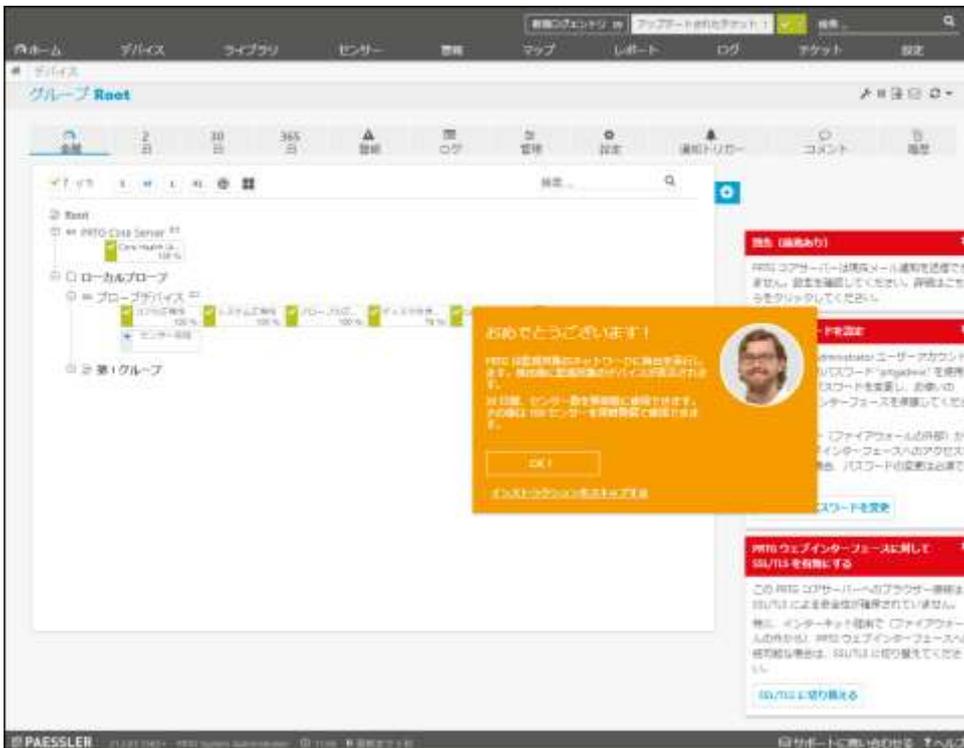
[ログイン](#)

> Windows/macOS/iOS/Android (オプション) 用アプリをダウンロードしてください  
> パスワードを忘れた場合 > ヘルプが必要ですか？

例：インストール時に自動検出を実行した場合



例：インストール時に自動検出を実行しなかった場合



**例：ライセンスアクティベーションに失敗した場合（オフライン環境でインストールした場合）**  
インストール時に自動のライセンスアクティベーションに失敗すると、下のような画面が表示されます。

**ライセンスを有効にする**

**ライセンスステータス:**  
有効になっていません。 (Failed to establish secure connection Socket Error # 11001  
Host not found.)

PRTGを開始するには、まずライセンスを有効化する必要があります。

アクティベーションタイプ（自動または手動設定）を選択し、ライセンス名とキーを照合してください。  
もし PRTG サーバーが Paessler アクティベーションサーバー（activation.paessler.com）に接続できない場合は、  
手動設定を選択してください。

**ステップ1: アクティベーションタイプを選択する**

アクティベーションタイプ

自動（オプションのHTTPプロキシを伴うオンラインアクティベーション）

手動設定（オフラインでのアクティベーション）

「[自動ライセンスアクティベーションが失敗した場合](#)」を参照し、ライセンスを有効にしてください。

続けて初期セットアップを行います。

### 3.4 インストール (v21.1.66.1664 以前のバージョンの場合)

ここでは、v21.1.66.1664 以前のバージョンでのインストール手順を説明します。

#### 以下の点にご注意ください！

- ・ インストールすると自動的にネットワーク上のデバイスおよびセンサーを検出しデバイスツリーを表示します(インストール中に自動検出(\*)が自動実行されます)。インストール中に自動検出を実行したくない場合は、初期の自動検出を無効化して(NoInitialAutoDisco=1 オプション付きで)プログラムを実行してください。

#### \*自動検出(オートディスカバリー):

PRTG は PRTG システムと同一サブネット内の IP アドレスに Ping を実行してネットワークをスキャンし、到達できたデバイスを適切なネットワーク監視構造に追加します。

- ・ インストール完了後、PRTG Web GUI が起動します。PRTG をインストールするサーバーに[サポート対象ブラウザ](#)をインストールしておいてください(サポート対象ブラウザでない場合、正常に画面が表示できないことがあります)。
- ・ PRTG をインストールするマシンがインターネット(PRTG のライセンスアクティベーションサーバー)へ直接アクセスできる場合は、インストールが完了すると自動的にライセンスがアクティベートされます。インターネットに接続にプロキシを経由する場合やオフライン環境の場合は、手動でライセンスの有効化を行う必要があります。詳しくは「[自動ライセンスアクティベーションが失敗した場合](#)」を参照してください。

インストール手順は以下のとおりです:

Step 1. zip ファイルを任意の場所に解凍します(例: C:¥tmp¥prtg.zip)。

zip ファイル	prtg.zip
exe ファイル	PRTG Network Monitor xx.x.xx.xxxx Setup (Stable)

#### メモ:

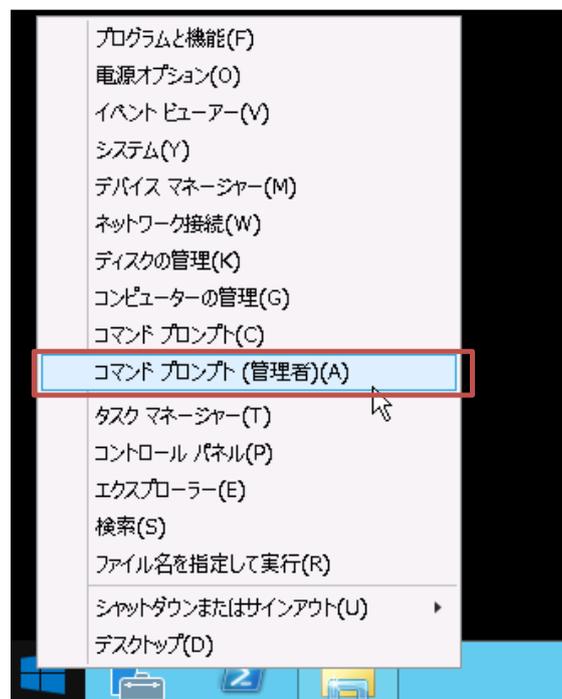
- ・ xx.x.xx.xxxx はバージョン番号です。
- ・ エクスプローラーで拡張子を表示しない設定になっている場合、拡張子(.exe)は表示されません。

Step 2. PRTG プログラム(.exe ファイル)を実行します。

- ・ インストール時に自動検出を実行する(標準インストール)場合:  
exe ファイルを選択し、**右クリック** > 「**管理者として実行**」を選択します。



- ・ インストール時に自動検出(オートディスカバリー)を実行しない場合:  
「コマンドプロンプト(管理者)」を起動します。



cd コマンドで PRTG プログラムの場所へ移動します(例: cd C:¥tmp¥prtg)。

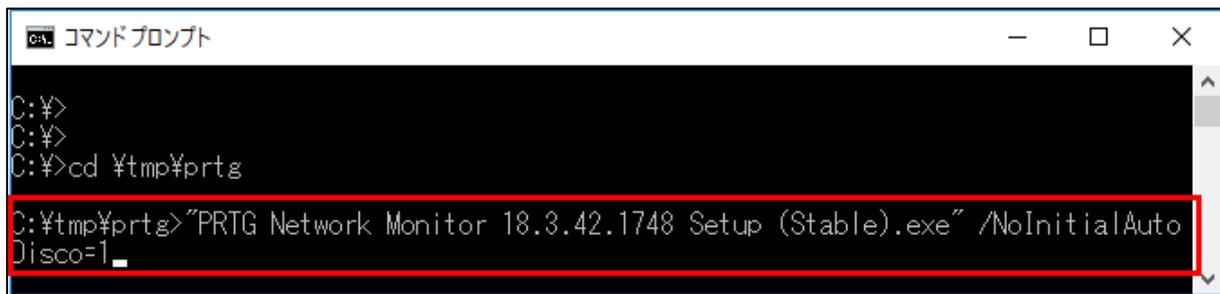


**メモ:** 移動先は実際のパスで置換してください。

/NoInitialAutoDisco=1 オプション付きで .exe ファイルを実行します。

例:

"PRTG Network Monitor 18.3.42.1748 Setup (Stable).exe" /NoInitialAutoDisco=1



```
cmd コマンドプロンプト
C:¥>
C:¥>
C:¥>cd ¥tmp¥prtg
C:¥tmp¥prtg>"PRTG Network Monitor 18.3.42.1748 Setup (Stable).exe" /NoInitialAutoDisco=1
```

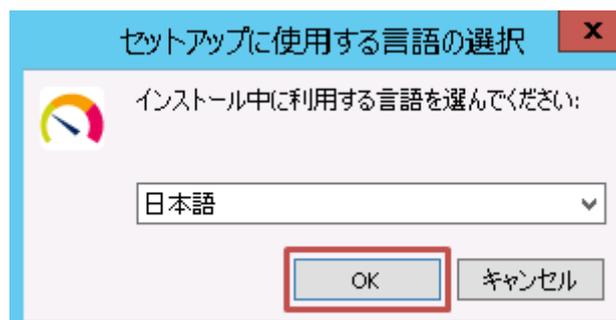
**メモ:** ファイル名は実際の名前で置換してください。

インストーラが起動します。

Step 3. ユーザーアカウント制御画面が表示された場合は、「はい」をクリックします。



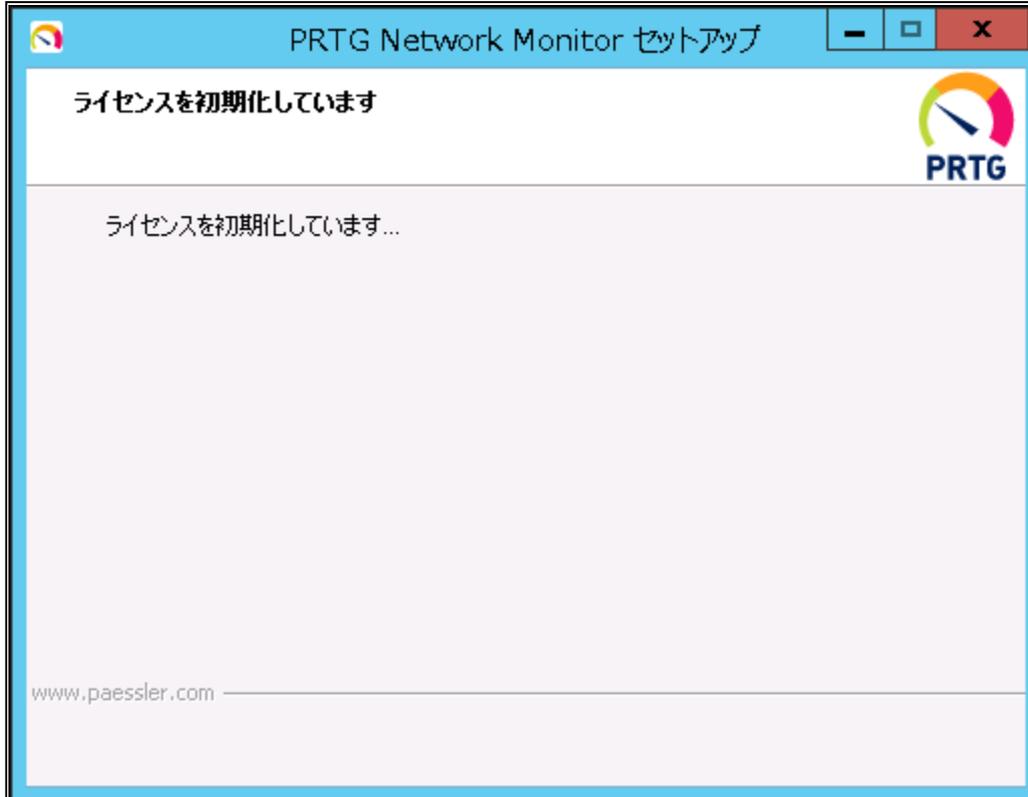
Step 4. 言語を選択して「OK」をクリックします。



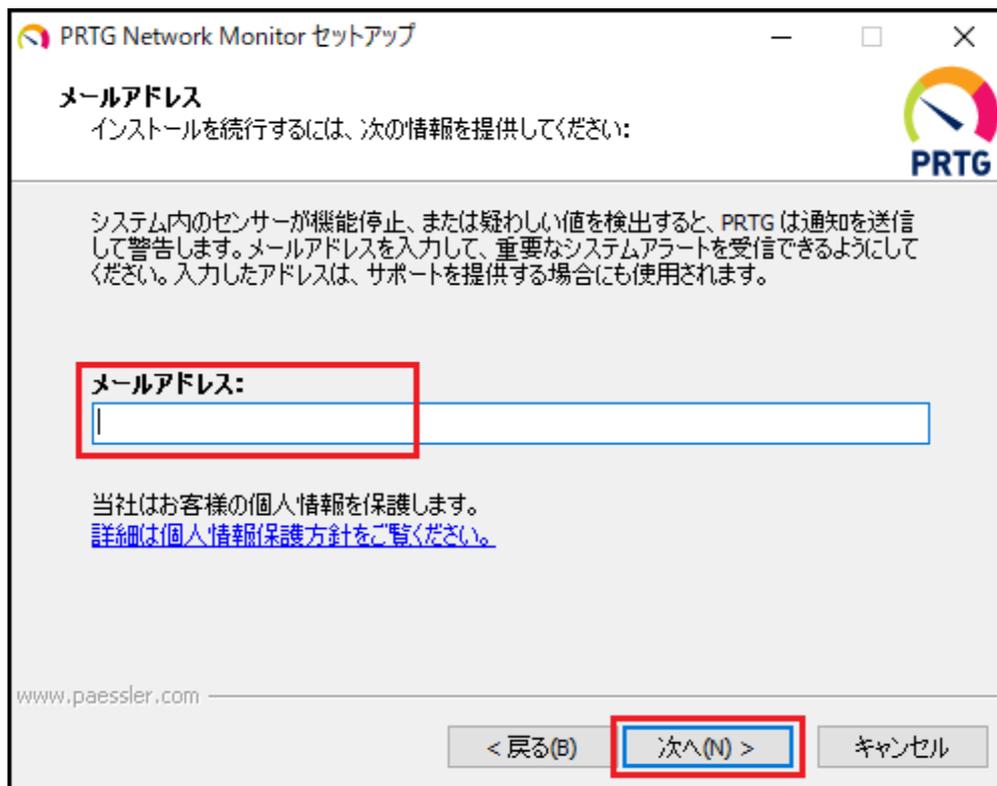
Step 5. 使用許諾契約書を確認して「同意する」を選択し、「次へ(N) >」をクリックします。



Step 6. 「ライセンスを初期化しています」画面が表示されます。しばらく待ちます。



Step 7. 「メールアドレス」に PRTG 管理者のメールアドレスを入力し、「次へ(N) >」をクリックします。



The screenshot shows the 'PRTG Network Monitor セットアップ' (Setup) window. The title bar includes the PRTG logo and window controls. The main content area is titled 'メールアドレス' (Email Address) and contains the following text: 'インストールを続行するには、次の情報を提供してください:' (To continue the installation, please provide the following information:). Below this is a paragraph explaining that the system will send notifications if sensors stop or detect suspicious values, and that the entered email address will be used for important system alerts and support. A text input field for the email address is highlighted with a red box. Below the input field is a privacy notice: '当社はお客様の個人情報を保護します。詳細は個人情報保護方針をご覧ください。' (We protect your personal information. See our privacy policy for details.). At the bottom, there are three buttons: '< 戻る(B)' (Back), '次へ(N) >' (Next), and 'キャンセル' (Cancel). The '次へ(N) >' button is highlighted with a red box.

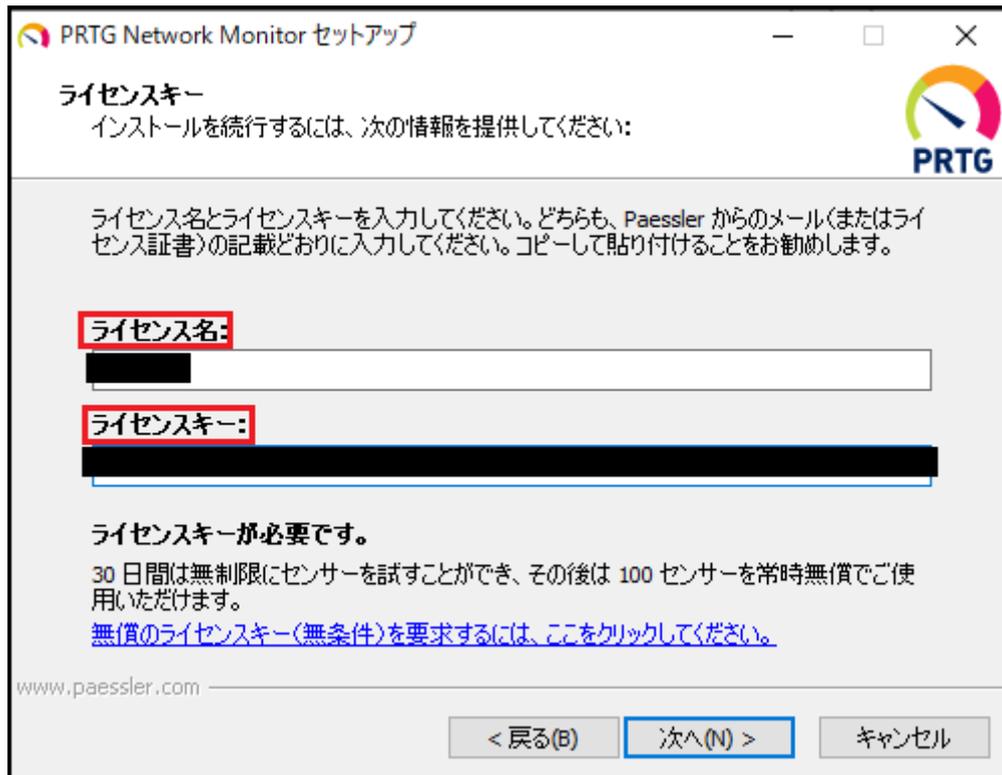
Step 8. ライセンス情報を入力します。

入カミスを防ぐため、ライセンスキーの情報をコピー & ペーストしていただくことをお勧めします。

ライセンス情報ファイルをメモ帳などのエディタで開きます。

「Name」をコピーして「ライセンス名」欄にペーストします。

「Key」をコピーして「ライセンスキー」欄にペーストします。

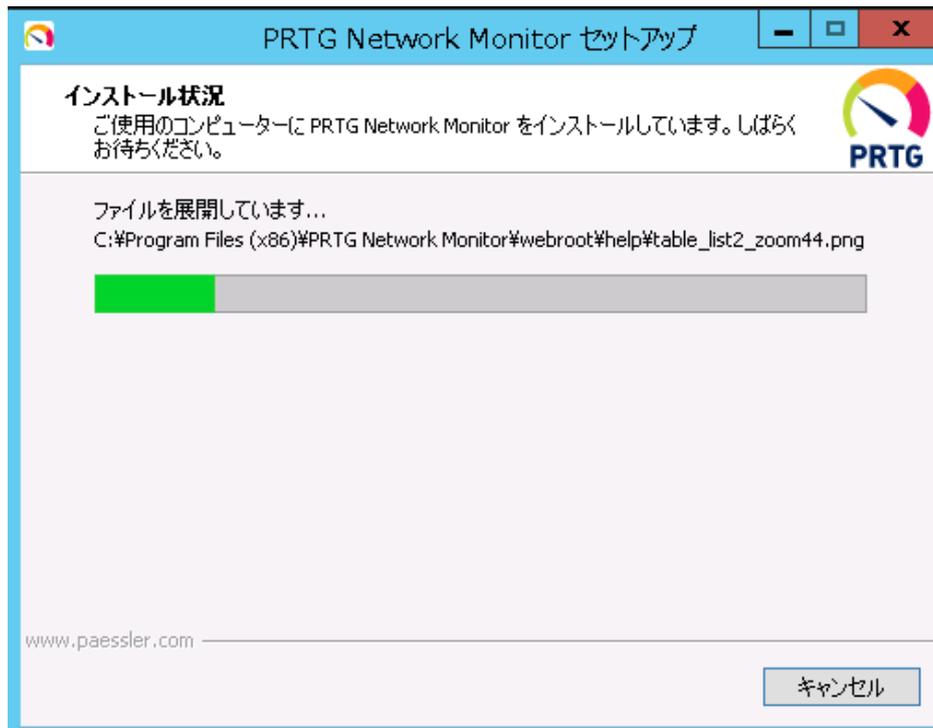


Step 9. 「次へ(N) >」をクリックします。

Step 10. 「ライセンスを初期化しています」画面が表示されます。しばらく待ちます。



Step 11. インストールが開始します。インストールが完了するまでお待ちください。



例: インストールが完了すると、自動的に Web ブラウザーが起動し、PRTG Web GUI のログイン画面が表示されます。

デフォルト ログイン名/パスワード: prtgadmin/prtgadmin

## PRTG Network Monitor (WIN-2E9B6ON0PC2)



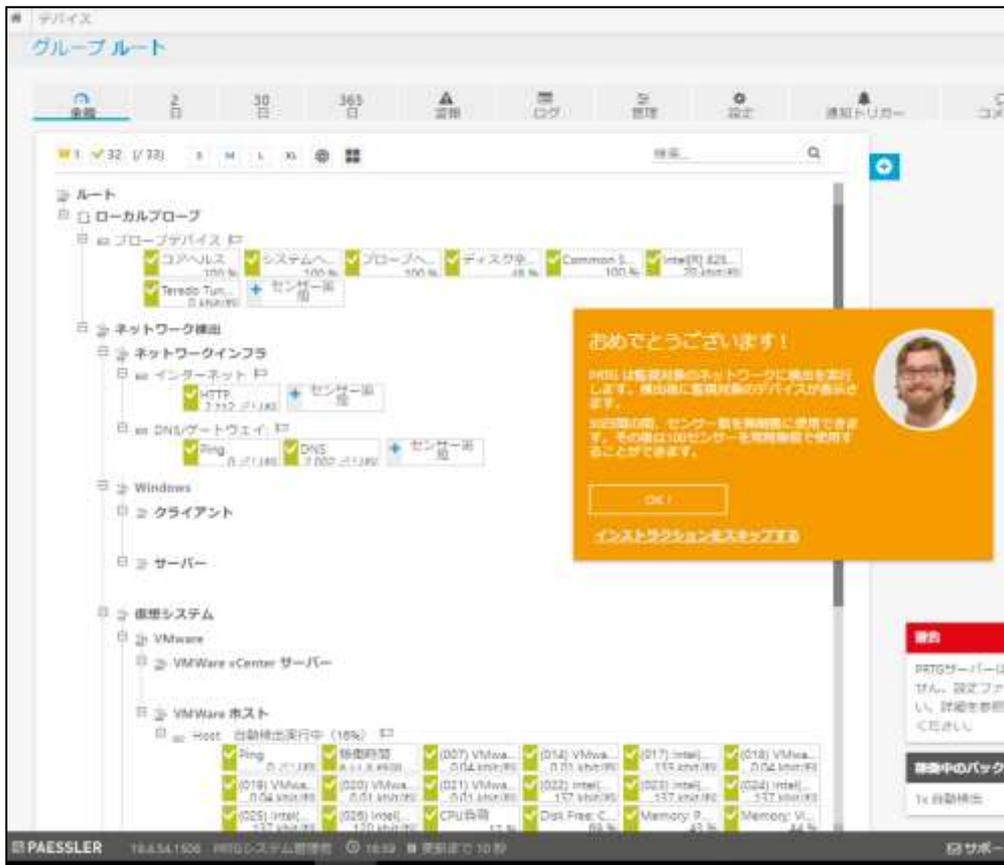
**ログイン名** prtgadmin

**パスワード** prtgadmin

**ログイン**

> Windows/macOS/iOS/Android (オプション) 用アプリをダウンロードしてください  
> パスワードを忘れた場合 > ヘルプが必要ですか?

例：インストール時に自動検出を実行した(標準インストール)場合



例：インストール時に自動検出を実行しなかった場合



例：ライセンスアクティベーションに失敗した場合（オフライン環境でインストールした場合）  
インストール時に自動のライセンスアクティベーションに失敗すると、下のような画面が表示されます。



「[自動ライセンスアクティベーションが失敗した場合](#)」を参照し、ライセンスを有効にしてください。

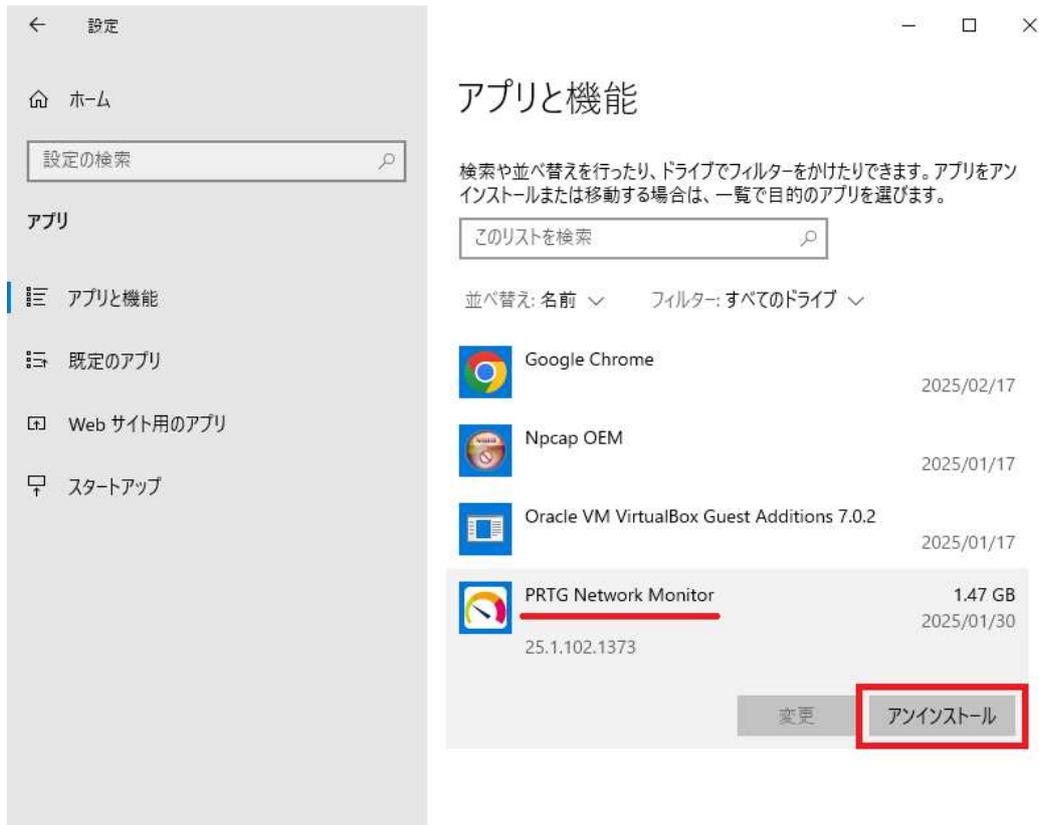
次の章で初期セットアップを行います。

### 3.5 アンインストール

この節では、PRTG やリモートプローブをアンインストールする手順を説明します。Windows のアンインストール機能を使用して、システムからソフトウェアを削除します。

Step 1.

Windows のスタートメニューから、PRTG Network Monitor のアンインストールを実行するか、Windows の「設定」を開いて、「アプリ」セクションで「アプリと機能」で目的の項目を選択します。リモートプローブをアンインストールする場合は、「設定」からアンインストールすることのみが可能です。

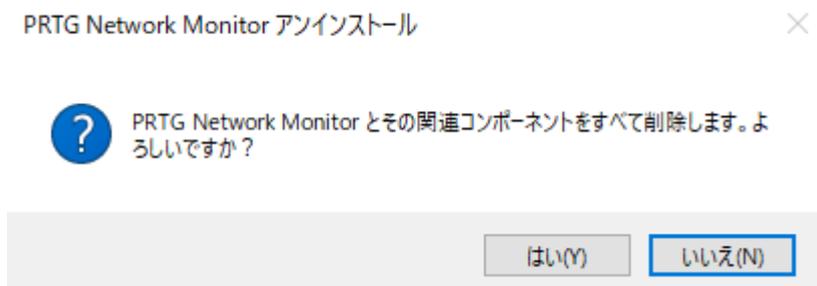


#### Step 2.

Windows の「ユーザーアカウント制御」からデバイスへの変更の許可を求められた場合は、「はい」をクリックして、プログラムのアンインストールを許可します。ソフトウェアのアンインストールダイアログに従ってアンインストールの手順を実行します。

#### Step 3.

[はい]をクリックしてソフトウェアの削除を確認します。



#### Step 4.

ソフトウェアが削除されるまで待ちます。

PRTG Network Monitor アンインストール

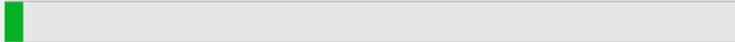
✕

**アンインストール状況**

ご使用のコンピューターから PRTG Network Monitor を削除しています。しばらくお待ちください。



サービスの停止とアンインストールの完了には、数分かかる場合があります。



www.paessler.com

キャンセル

## Step 5.

[はい] をクリックしてシステムを再起動します。

PRTG Network Monitor アンインストール

✕



1. データファイルは自動的に削除されません。手動で削除してください。
2. PRTG Network Monitor を完全にアンインストールするには、コンピューターの再起動が必要です。今すぐ再起動しますか？

はい(Y)

いいえ(N)

## Step 6.

システムを再起動するとソフトウェア本体は削除されますが、PRTG のプログラムディレクトリにはカスタム設定などのデータが残っています。また、PRTG のデータディレクトリには監視データが残っています。PRTG に関するすべてのデータを完全に削除したい場合は、以下のフォルダーを手動で削除してください。

- ・ プログラムディレクトリ: デフォルトでは、C:\Program Files (x86)\PRTG Network Monitor
- ・ データディレクトリ: デフォルトでは、C:\ProgramData\Paessler\PRTG Network Monitor

■ 詳しい情報は [Data Storage](#) のセクションを参照してください。

## Step 7.

PRTG のインストール中に、Npcap という機能もシステムにインストールされます。PRTG をアンインストールした後、この機能を手動でアンインストールする必要があります。この機能を Windows から削除する手

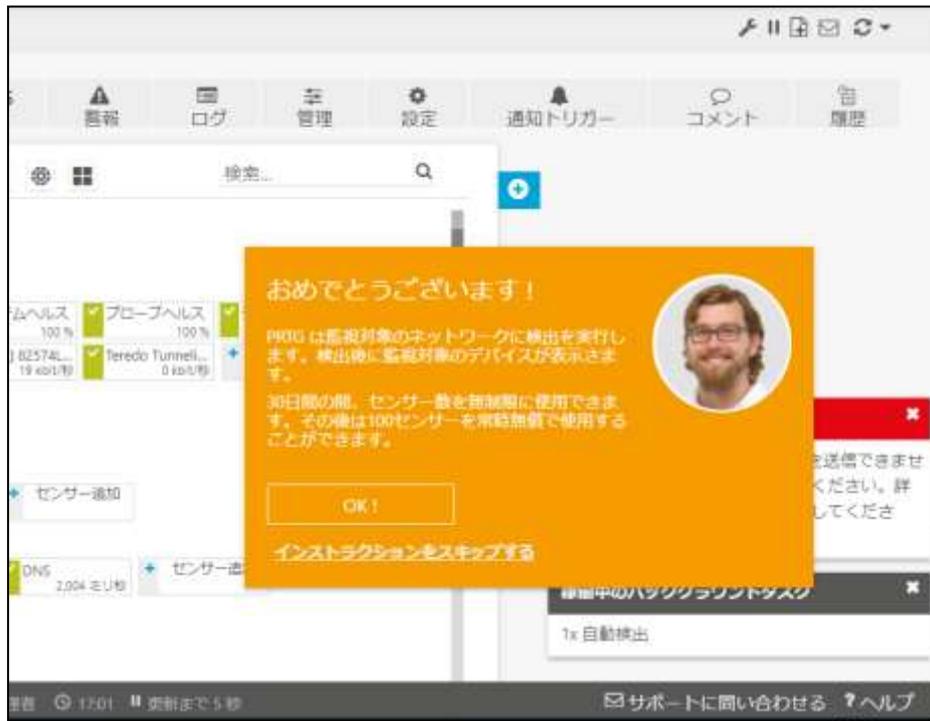
順は以下の通りです。

1. Windows の「設定」を開き、[アプリ] の[アプリと機能] セクションで[Npcap OEM] を選択する。
2. [アンインストール] ボタンをクリックする。

❗ PRTG 19.2.50 をアンインストールする場合は、Npcap ループバックアダプターも手動でアンインストールする必要があります。詳細については、ナレッジベース「[I have issues with additional services after updating to PRTG 19.2.50. What can I do?](#)」を参照してください。

## 4 初期セットアップ

インストールが完了すると、PRTG は自動的に「スマートセットアップ」(セットアップアシスタント)を開始します。Paessler 社の社員が初期セットアップ作業(5つの簡単な作業)をガイドします。



### スマートセットアップは…

- すべてのステップが完了するまで繰り返し表示されます。
- プライベートネットワーク範囲内にある IP アドレスを持つデバイスのみが「スマートセットアップ」の対象となります。他のサブネットについては手動で自動検出(オートディスカバリー)を開始して追加してください。
- 「インストラクションをスキップする」をクリックするとスマートセットアップアシスタントが表示されなくなります。はじめて PRTG をお使いいただく場合は、「OK!」をクリックし、ガイドに従って設定作業を行っていただくことが推奨されています。

PRTG プログラムをダブルクリックしてインストール(標準的なインストール)を行った場合は、インストール中に自動検出(オートディスカバリー)が実行されるため、いくつかのデバイスがセンサー付きで表示されます。何も設定しなくても PRTG を開始するだけでネットワーク上のさまざまなデバイスの監視結果をすぐに確認することができます！

この資料では「インストラクションをスキップする」をクリックしてガイドを非表示にした場合の作業手順を説明します(誤ってセットアップアシスタントを非表示に設定してしまった場合の作業手順を説明します)。

「OK!」をクリックした場合は、ガイドの指示に従って設定を行ってください。

「インストラクションをスキップする」と、セットアップ作業中に自動検出(オートディスカバリー)は再実行されません

スマートセットアップ作業中(「資格情報」設定後)に自動検出(オートディスカバリー)を再実行させたい

場合は「OK!」をクリックし、ガイド指示に従って設定を行ってください。  
この資料では「インストラクションをスキップする」をクリックします。



PRTG の使用を開始するために必要な初期セットアップ作業は以下のとおりです：

- ・ [位置情報の入力](#)
- ・ [資格情報の設定](#)
- ・ [管理アカウントのパスワード変更](#)
- ・ [メールアドレスの確認](#)
- ・ [SSL 接続への切り替え](#)

#### 4.1 位置情報の入力

ルートグループに PRTG サーバーの位置情報を入力します。この情報をもとに PRTG ジオマップが表示されます。

Step 1. デバイスグループルートの「設定」タブをクリックします。



Step 1. 「位置情報(ジオマップ用)」に設定されている PRTG サーバーの所在地が正しいか確認し、正しくない場合は変更します。



## 4.2 資格情報の設定

ルートグループに資格情報(監視対象のシステムにログインするために必要な情報)を設定します。

Step 1. それぞれの管理者資格情報を入力します。

- **Windows システムの資格情報:**

Windows Management Instrumentation (WMI)で Windows クライアントおよびサーバーを監視する場合に Windows 管理者のログイン情報を入力してください。Active Directory を使用している場合は、ドメイン管理者のログイン情報を使用することをお勧めします。

Windows システムの資格情報	
ドメイン/コンピューター名	Windowsユーザーアカウントのドメイン名またはコンピューター名
ユーザー名	Windowsにアクセスするためのユーザー名
パスワード	Windowsにアクセスするためのパスワード

- Linux / Solaris / Mac OS (SSH / WBEM) システムの資格情報:  
これらのシステムのアクセス認証情報を入力してください。

Linux/Solaris/macOS (SSH/WBEM) システムの資格情報

ユーザー名  SSH/WBEM へ接続するためのユーザー名

認証方法  パスワード (デフォルト)  秘密鍵  
ログインで使用する認証方法を選択

パスワード

WBEM プロトコル  HTTP  HTTPS (デフォルト)  
WBEM サーバーに接続するためのプロトコルを選択

WBEM ポート  デフォルト  カスタム  
WBEM サーバーに接続するためのポート番号

SSH ポート番号 22  
SSH 接続に使用するポート番号

SSH 権限の昇格  接続したユーザーとしてコマンドを実行する (デフォルト)  
 「sudo」 (パスワード有り) を使用して別のユーザーとしてコマンドを実行する  
 「sudo」 (パスワードなし) を使用して別のユーザーとしてコマンドを実行する  
 「su」 コマンドを使用して別のユーザーとしてコマンドを実行する  
SSH 接続を確立したユーザーの権限でコマンドを実行するか、昇格した権限もしくは指定したユーザーの権限でコマンドを実行するかを選択

SSH 接続モード  デフォルト  互換モード (廃止)  
通常は「デフォルト (推奨)」を選択してください。  
「デフォルト」が使用できない場合に「互換性モード」を試してください。

- VMware / XenServer の資格情報:  
これらのシステムのアクセス認証情報を入力してください。

VMware/XenServer の資格情報

ユーザー名  VMware ESX/vCenter、XenServer へアクセスするためのユーザー名

パスワード  VMware ESX/vCenter、XenServer へアクセスするためのパスワード

VMware プロトコル  HTTPS (デフォルト)  HTTP  
VMware ESX/vCenter、XenServer へアクセスするためのプロトコル

セッションの処理  複数のスキャンでセッションを再利用する (デフォルト)  スキャンのたびに新規セッションを生成する  
VMware センサーについて、1 セッションでスキャンするか、スキャンごとに新規のセッションを生成するかを選択

● **SNMP デバイスの資格情報:**

ハードウェア (ルータ、スイッチなど) を監視する場合は Simple Network Management Protocol (SNMP) を使用するのが一般的です。通常、すべての SNMP 有効デバイスはデフォルトで同じ設定になっています (SNMP バージョン = v2c, コミュニティ文字列 = public, SNMP ポート = 161)。

### SNMP デバイスの資格情報

SNMP バージョン  SNMP v1  
 SNMP v2c (デフォルト)  
 SNMP v3

コミュニティ文字列

SNMP ポート

タイムアウト (秒)

対象デバイスでサポートされている SNMP バージョンを選択

対象デバイスのコミュニティ文字列

対象デバイスの SNMP ポート

SNMP タイムアウト値  
応答時間がこの値を超過すると、リクエストは中断され、エラーメッセージが表示されます。2回連続してリクエストが失敗すると、センサーは「ダウン」状態になります。

● **データベース管理システムの資格情報**

データベースにアクセスするための資格情報を入力します。

### データベース管理システムの資格情報

ポート  デフォルト  
 すべてのデータベースセンサーのカスタムポート

認証方法  インパーソネーションを使用している Windows 認証 (デフォルト)  
 SQL サーバー認証

タイムアウト (秒)

PRTG はデータベース種類を自動的に判断して対応するデフォルトポートを設定できます。データベース管理システムのデフォルトポートを使用しない場合にのみ手動でポートを定義します。

PRTG は以下のデフォルトポートを使用します:  
 ・Microsoft SQL: 1433  
 ・MySQL: 3306  
 ・Oracle SQL: 1521  
 ・PostgreSQL: 5432

Windows 認証か SQL サーバー認証を選択

DB 接続のタイムアウト

● **AWS の資格情報**

AWS にアクセスするための資格情報を入力します。

### AWS の資格情報

アクセスキー

秘密鍵

AWS のアクセスキー

AWS の秘密鍵

● **Microsoft365 の資格情報**

Microsoft365 にアクセスするための資格情報を入力します。

Step 2. 「保存」をクリックします。

PRTG はこれらの資格情報をデバイスツリーの「ルート」グループに保存し、監視対象デバイスはすべて「ルート」グループの配下に置かれます。「ルート」グループの設定は自動的に配下デバイスに継承されます（デフォルト設定として使用できます）。

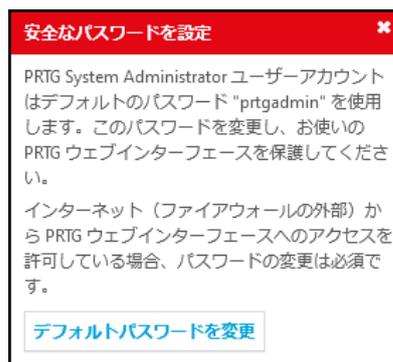
**メモ:** 設定を継承させず任意のレベルで固有の情報を設定することもできます。

#### 4.3 管理アカウントのパスワード変更

次に安全のために PRTG 管理アカウント(prtgadmin)のデフォルトパスワードを変更します。インストール直後は、管理アカウントにデフォルトパスワードとして prtadmin が設定されています。

**重要な注記:** インターネット(ファイアウォールの外部)から Web GUI にアクセス可能な場合は、必ず管理アカウントのパスワードを変更してください！

Step 1. 画面上の以下のメッセージウインドウで、「デフォルトパスワードを変更」をクリックします。



ユーザーアカウント画面へ遷移します。

Step 2. 以下を変更します：

Step a. 「パスワード」で「新たなパスワードを設定する」を選択します。

Step b. 「旧パスワード」に現在のパスワード prtadmin を入力します。



## 4.4 メールアドレスの確認

続けてインストール時に入力したメールアドレスが正しいことを確認します。

メール通知、アラート、その他メッセージをメールで受信するには、正しいメールアドレスが設定されていなければなりません！

Step 1. 「プライマリメールアドレス」に設定されているメールアドレスが正しいことを確認します。必要に応じて変更します。

The screenshot shows the 'ユーザーアカウント設定' (User Account Settings) page in the PRTG web interface. The 'プライマリメールアドレス' (Primary Email Address) field is highlighted with a red box and contains the value 'prtadmin@company.co.jp'. Other visible fields include 'ログイン名' (Login Name) set to 'prtadmin', '表示名' (Display Name) set to 'PRTGシステム管理者', 'パスワード' (Password) set to '変更しない' (Do not change), and 'パスワードハッシュ' (Password Hash) with a '表示' (Show) button. A '保存' (Save) button is located on the right side of the form.

Step 2. 「保存」をクリックします。

「システム管理 > ユーザーアカウント」タブページが表示されます。

The screenshot shows the 'システム管理' (System Management) page with the 'ユーザーアカウント' (User Accounts) tab selected. A table displays the details for the user 'PRTGシステム管理者' (PRTG System Administrator). The table has columns for 'タイプ' (Type), 'Eメール' (Email), 'プライマリグループ' (Primary Group), and 'グループメンバー' (Group Member). The user is listed as 'アクティブ / 一時停止' (Active / Suspended) and 'アクティブ' (Active).

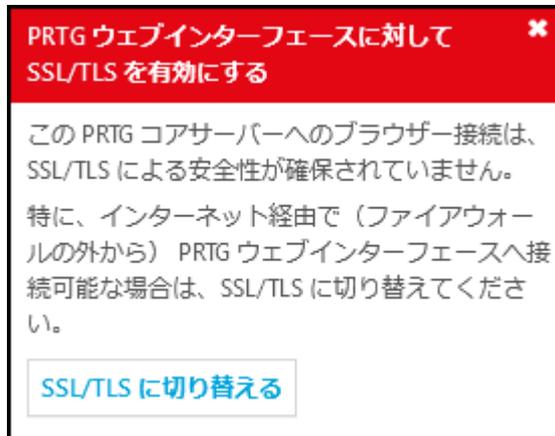
タイプ	Eメール	プライマリグループ	グループメンバー
PRTG (管理者)	prtadmin@company.co.jp	PRTG 管理者	PRTG 管理者

## 4.5 SSL 接続への切り替え

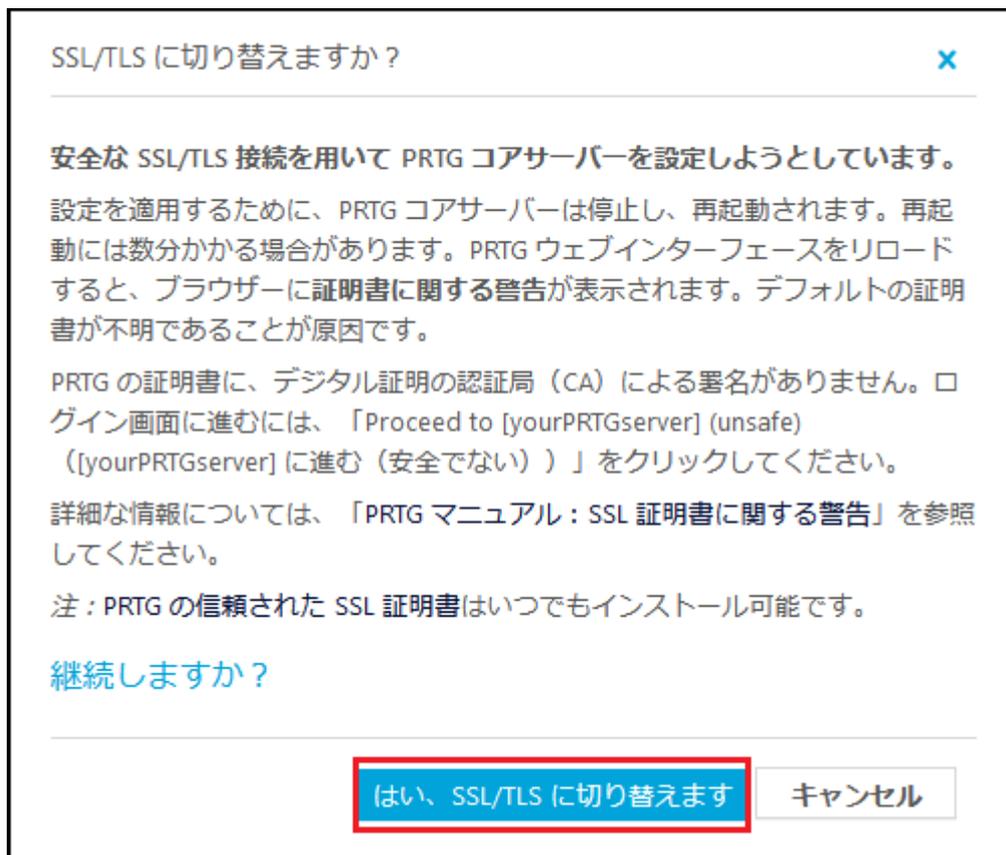
次に PRTG Web サーバーへのアクセスに SSL/TLS 暗号化接続を使用するように変更します。

**重要な注記:** インストール直後は PRTG サーバーへの接続に、SSL/TLS 暗号化接続が使用されていません。インターネット(ファイアウォールの外部)から Web GUI にアクセスする場合は、SSL による暗号化接続を使用することをお勧めします。

Step 1. 画面上の以下のメッセージウインドウで、「SSL/TLS に切り替える」をクリックします。



Step 2. 「SSL/TLS に切り替えますか？」画面で「はい、SSL/TLS に切り替えます」をクリックします。



クリックすると、PRTG コアサーバーサービスが再起動されます。完了するまでお待ちください。



Step 3. Web ブラウザーが再読み込まれると、通常は警告メッセージが表示されます。

例えば、Google Chrome の場合は「この接続ではプライバシーが保護されません」ページが表示されます。

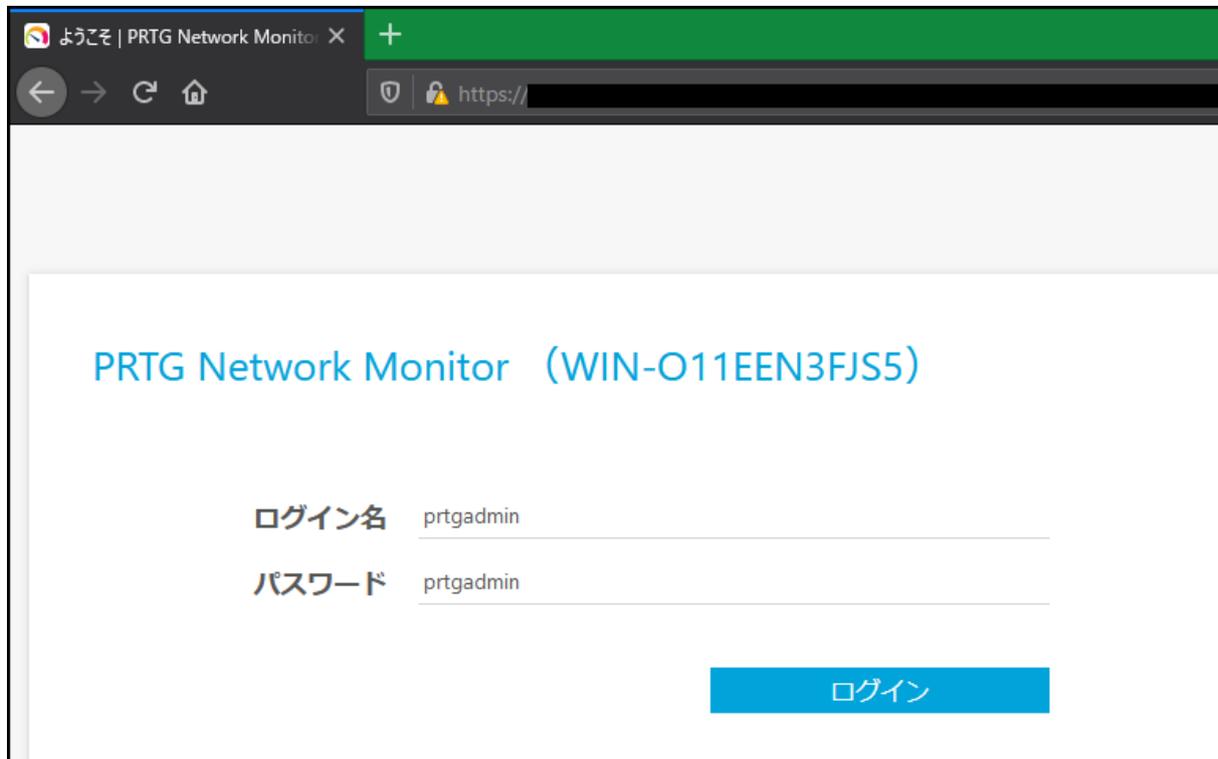


Step 4. 「詳細設定 -> 127.0.0.1 にアクセスする(安全ではありません)」をクリックします。



**メモ:** Mozilla Firefox の場合は、「詳細情報 → 危険性を承知で続行」をクリックします。  
(この手順は各 Firefox と PRTG コアサーバーに対して一度だけ必要です。)

- Step 5. PRTG Web GUI が開きます。  
PRTG Web GUI へ https で接続できるようになりました。



## 5 Web GUI の起動とログイン

PRTG Web GUI へは[サポート対象ブラウザ](#)を使用してアクセスしてください。

### 5.1 PRTG コアサーバーからの起動とログイン

PRTG のインストールが完了すると、デスクトップに「PRTG Network Monitor」ショートカットアイコンが作成されます。

「PRTG Network Monitor」をクリックすると、PRTG Web GUI が起動します。



「ログイン名」と「パスワード」を入力して「ログイン」をクリックします。

### 5.2 リモートマシンからの起動とログイン

リモートマシンから PRTG Web GUI にアクセスする場合は、Web ブラウザーを起動し、以下の URL にアクセスします。

`http://<PRTG サーバー名または IP アドレス>:<ポート番号>/`

または

`https://<PRTG サーバー名または IP アドレス>:<ポート番号>/`



「ログイン名」と「パスワード」を入力し、「ログイン」をクリックします。

ログインすると、「ようこそ」画面が表示されます。

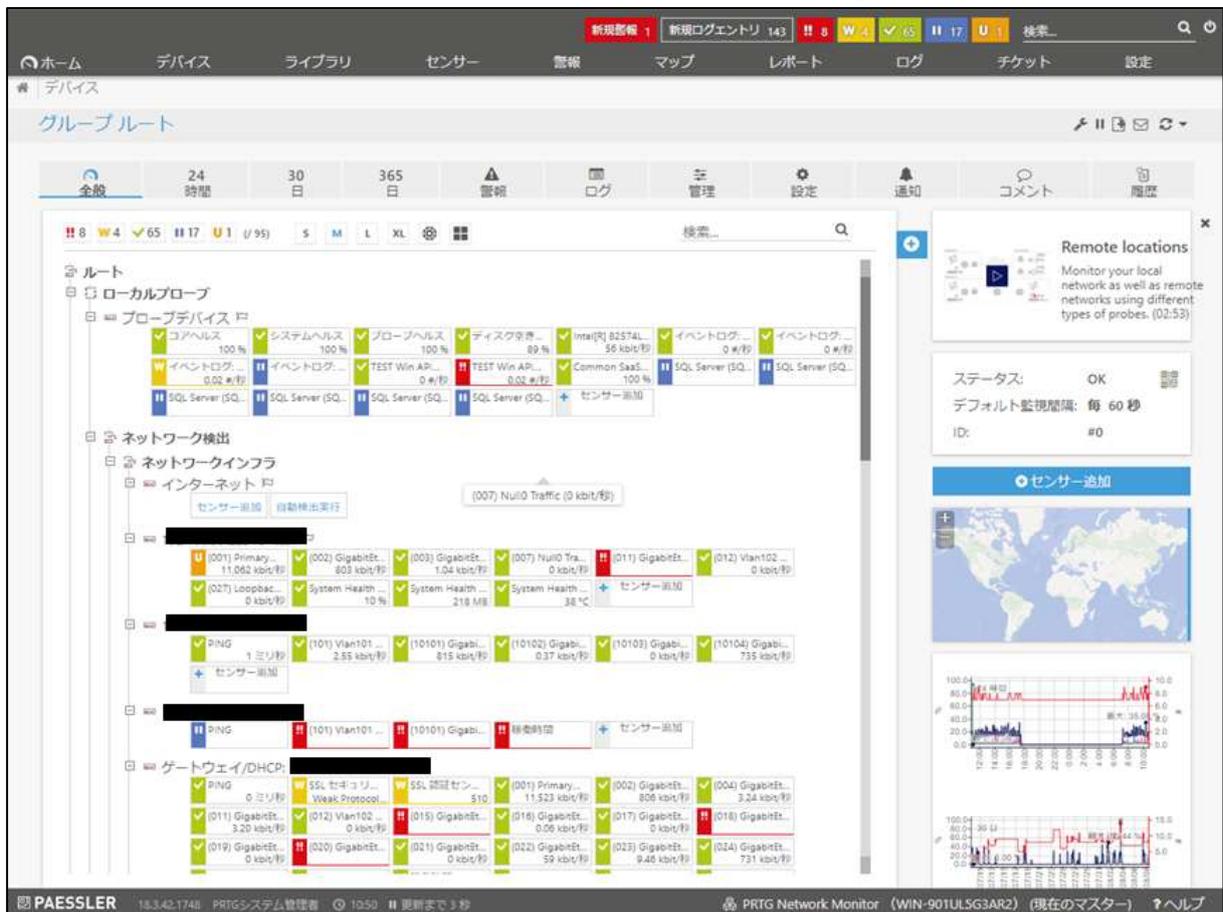


メモ: ログイン直後に表示する画面(ホームページ)は、変更することができます。

「監視結果を確認」をクリックするか、メインメニューの「デバイス」をクリックすると、デバイスツリー画面が表示されます。



デバイスツリー画面では監視対象のデバイスおよびその監視ステータスを一目で確認できます。



## 6 監視登録

ここでは、手動で監視対象を追加する手順について説明します。

**メモ:** インストール時に自動検出(オートディスカバリー)を実行した場合は、すでになんらかのデバイスが PRTG に登録され、監視が開始されています。必要に応じて、監視対象デバイスを手動で追加してください。

以下の内容を含みます:

- ・ [グループの追加\(任意\)](#)
- ・ [デバイスの追加](#)
- ・ [グループまたはデバイス設定の変更](#)
- ・ [センサーの追加](#)
- ・ [デバイスのクローン\(コピー\)](#)

### 6.1 グループの追加(任意)

PRTG では、同種のデバイスやサーバー、特定の場所を監視するために監視対象デバイスをグループ化することができます。例えば、「東京拠点」、「大阪拠点」のように監視拠点別に監視対象デバイスをグループ分けすることができます。

**メモ:**

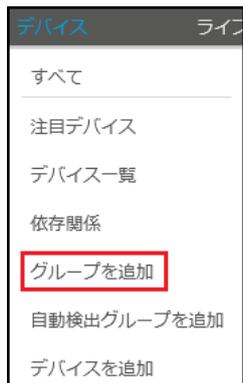
- ・ グループの作成は任意です(作成しなくても構いません)が、グループを作成してデバイスをグループごとに管理するほうが、監視画面が見やすく管理しやすくなります。
- ・ インストール直後の自動検出(オートディスカバリー)が実行された場合、適当なグループが自動作成されています。
- ・ デバイス画面のツリー階層については、「[オブジェクト階層](#)」を参照してください。

グループの追加手順は以下のとおりです:

Step 1. 「デバイス」メニューをクリックして、デバイス画面を開きます。



Step 2. 表示されたメニューの下部にある「グループ追加」をクリックします。



Step 3. グループを追加したい親グループまたはプローブを指定し、「OK」をクリックします。

この例では、「ローカルプローブ」直下にグループを作成します。

**メモ:** グループは別グループの下に作成することができます。

グループ追加 ×

**親オブジェクトを選択する**  
グループの親オブジェクトを選択してください。

PRTGマニュアル: グループの追加

**新規グループ追加**  
グループを使用すると、PRTGシステムのネットワークデバイスをグループ化できます。また、複数のグループやサブグループを作成可能です。

ネットワークデバイスのグループの監視設定を自動化したい場合は、グループまたはプローブに**自動検出グループ**を追加します。グループまたはプローブのコンテキストメニューか、PRTGメインメニューの**デバイス | 自動検出グループ追加**を使用します。

**新規グループを追加するプローブもしくはグループを選択してください**

一覧からプローブまたはグループを選択してください。新規デバイスを簡単に作成するには、デバイスツリーのプローブかグループ上で右クリックして、コンテキストメニューから**グループ追加**を選択します。

検索... Q

- └─ ルート
  - └─ **ローカルプローブ**
    - └─ ネットワーク検出
      - └─ ネットワークインフラ
      - └─ Windows
        - └─ クライアント
        - └─ サーバー

キャンセル OK

Step 4. 「グループ名」フィールドにグループ名を入力します。

ローカルプローブへのグループの追加

**グループ設定の定義**

必要に応じて、グループの資格情報とアクセス権を指定してください。ここでの設定はこのグループ内のすべてのデバイスへ継承されます。

PRTG マニュアル: グループの追加

**新規グループの追加**

グループを使用すると、PRTG システムのネットワークデバイスをグループ化できます。また、複数のグループやサブグループを作成可能です。

ネットワークデバイスのグループの監視設定を自動化したい場合は、グループまたはプローブに自動検出グループを追加します。グループまたはプローブのコンテキストメニューか、PRTG メインメニューのデバイス | 自動検出グループの追加を使用します。

**グループ名とタグ**

グループ名

Step 5. 上位レベル(親)の設定の継承を解除し、このグループに所属するデバイスに対してグループ独自の設定を適用したい場合は、それぞれの「継承元」スイッチをスライドして設定を入力します。



メモ: 「継承元」スイッチを右側のままにすると、上位レベル(親)の設定が引き継がれます。設定は下位レベルのグループまたはデバイスで変更することもできます。

Step 6. 「OK」をクリックします。

グループが登録されました。



複数のグループを追加したい場合は、上記の作業を繰り返し行ってください。

## 6.2 デバイスの追加

ここでは、監視対象デバイスを手動で登録する手順を説明します。

**メモ:** 監視対象デバイスは自動検出(オートディスカバリー)機能を使用して登録することもできます。

デバイスの追加手順は以下のとおりです:

Step 1. デバイスを登録したいグループの「デバイス追加」をクリックします。



**メモ:** デバイスが存在しないグループに「デバイス追加」ボタンが表示されます。

Step 2. 追加するデバイスの「デバイス名」と「IP アドレス」を入力します。

Step 3. 必要に応じて「デバイスアイコン」を選択します。



Step 4. 「デバイスタイプ」の「センサー管理」で「手動設定(自動検出なし)」を選択します。



**メモ:** 「センサー」とは監視項目のことです。PRTG には監視に利用できるセンサーを自動検出する機能があります。自動検出機能を使用してセンサー登録を行いたい場合は、「標準自動検出(推奨)」、「詳細自動検出」または「特定デバイステンプレートを使用した自動検出」を選択してください。

Step 5. 親の設定の継承を解除し、このデバイスに対して独自の設定を適用したい場合は、それぞれの「継承元」チェックボックスのチェックをはずして設定します。



Step 6. 「OK」をクリックします。

デバイスが指定したグループの直下に登録されました。



複数のデバイスを追加したい場合は、上記の作業を繰り返し行ってください。

### 6.3 グループまたはデバイス設定の変更

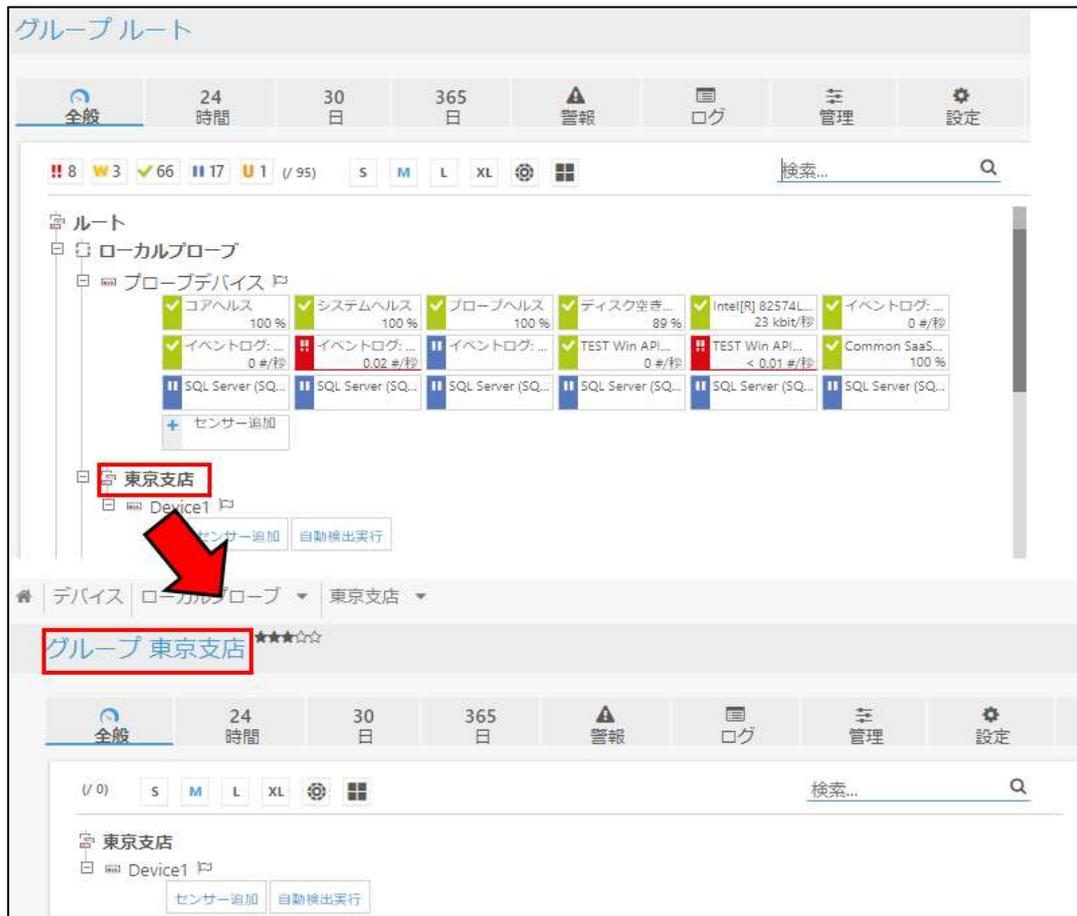
グループまたはデバイスの設定は、いつでも変更することができます。

**注意:** 上位レベル(親)の設定を変更すると、設定が継承されている下位レベル(子)のオブジェクト(グループ、デバイス)に影響が及びます。

グループまたはデバイスの設定を変更する手順は以下のとおりです：

Step 1. デバイスツリー画面で設定を変更したいオブジェクト(ルート、プローブ、グループ、デバイス)を選択し、詳細画面(「全般」タブ画面)を表示します。

例：グループ(東京支店グループ)を選択した場合



Step 2. 「設定」タブをクリックします。



Step 3. 設定を変更します。

Step 4. 「保存」をクリックします。

## 6.4 センサーの追加

ここでは、監視対象デバイスにセンサーを追加する手順を説明します。

センサーを追加する手順は以下のとおりです：

例として、Ping センサーと SNMP トラフィックセンサーを追加します。

- Step 1. (デバイスツリー画面を表示している場合は)センサーを追加したいデバイスの「センサー追加」をクリックします。



メモ: 上部メニュー「センサー」の「センサー追加」ボタンからもセンサーを追加できます。



- Step 2. 上部メニューの「センサー追加」ボタンをクリックした場合は、センサーを追加したいデバイスを選択し、「次へ」をクリックします。



メモ: 「新規デバイスを作成する」を選択すると、デバイスを新規に作成することができます。

Step 3. 追加するセンサーを選択します。ここではまず Ping センサーを追加します。「検索」フィールドに「Ping」と入力するか、「監視方法は？」で「Ping」を選択します。



#### メモ:

- PRTG には 200 種類以上のセンサーが組み込まれています。
- センサーは以下の方法で絞り込むことができます：
  - **直接検索:**  
入力した文字列を含むセンサーのみが表示されます。
  - **監視項目は？/監視対象のシステムは？/監視方法は？**  
選択した条件を満たすセンサーのみが表示されます。

Step 4. 「Ping」をクリックします。



Step 5. 必要であれば設定を変更し、「作成」をクリックします。

センサー基本設定

センサー名

親のタグ

タグ

優先度

---

Ping 設定

タイムアウト (秒)

パケットサイズ (バイト)

Ping 方法  1回のICMP要求パケットを送信  
 複数回のICMP要求パケットを送信

Ping 送信回数

Ping 遅延 (ms)

自動承認  エラー時に「ダウン」状態と表示 (デフォルト)  
 エラー時に「ダウン (承認済み)」状態と表示

作成

---

スキャン間隔

継承元 Device1 (スキャン間隔: 60秒, 1回目で「警告」状態になり、その後「ダウン」状態になる (推奨))

Step 6. センサーが登録されたことを確認します。

デバイス Device1

全般 | 24時間 | 30日 | 365日 | 警告 | システム情報 | ログ | 設定 | 通知 | コメント | 履歴

ステータス: OK | センサー: 1/1 | DNS/IP: 192.168.1.1 | 依存関係: 親

デフォルト監視間隔: 60秒 | 直近の自動検出: (なし) | 直近の推奨検知: 推奨センサー検出 (0%) | ID: #3165

センサー追加

ここにセンサーゲージを表示するには、1つまたは複数のセンサーの優先度を次のように変更してください: ★★★★★/★★★★☆.

位置	センサー	ステータス	メッセージ	グラフ	優先度
+ 1.	Ping	不明	データがありません	Ping の高利ゲージが!	★★★★☆

Step 7. 初回の監視結果が画面に表示されます。センサーアイコンが緑色でステータスが「アップ」と表示されていれば、監視対象が正常に稼働していると判断できます。センサーステータスについては「[センサーステータス](#)」を参照してください。



Step 8. 続けて SNMP トラフィックセンサーを追加します。  
「センサー追加」をクリックします。



Step 9. 追加するセンサーを選択します。「監視方法は？」で「SNMP」を選択します。



Step 10. 候補表示された「SNMP トラフィック」をクリックします。

この PRTG で最も頻りに利用されているセンサー群

**SNMP トラフィック** ?

SNMP 経由で、サーバー/PC/スイッチ等の帯域とトラフィックを監視。

「？」をクリックしてヘルプ記事を調べてください。

センサータイプの一致

**Cisco IP SLA** ?

(SNMP 経由で) Cisco デバイスの IP SLA を使用して VoIP のネットワーク質性を監視。

対象となるデバイスに IP SLA がインストールされている必要があります。

**SNMP APC ハードウェア** ?

APC UPS ハードウェアのパフォーマンスカウンターを監視。

カスタムセンサーを使用して、SNMP をして追加のカウンターと APC UPS を監視できます。

**SNMP Buffalo TS System の状態** ?

RTTA

SNMP 経由で Buffalo TerraStation NAS のシステムヘルスを監視。

Buffalo TerraStation NAS はエラー、警告、リソース使用量、稼働時間を監視します。システムが正常に稼働しているかどうかによって監視する値が異なる場合があります。

**SNMP Cisco ADSL** ?

SNMP を使用して Cisco ルータの ADSL 統計情報を監視。

アップリンクおよびダウンリンクの速度、リモートおよびローカル接続、SNR、および電力を表示します。

Step 11. 監視したいインターフェイスを選択します。  
監視したいインターフェイスのチェックボックスにチェックを付けます。

トラフィックの詳細

接続インターフェイスをすべて選択 | 切断インターフェイスをすべて選択 | インターフェイスをすべて選択解除

インターフェイス番号

名前	状態	速度	種類	64 ビット	内部名
<input checked="" type="checkbox"/> (001) NTT Flets_VPN Traffic wan1	接続完了	1 GBit/s	Ethernet	はい	NTT Flets_VPN
<input type="checkbox"/> (002) wan2 Traffic wan2	未接続		Ethernet	はい	
<input type="checkbox"/> (003) dmz Traffic dmz	未接続		Ethernet	はい	
<input checked="" type="checkbox"/> (004) internal1 Traffic internal1	接続完了	1 GBit/s	Ethernet	はい	
<input checked="" type="checkbox"/> (005) internal2 Traffic internal2	接続完了	1 GBit/s	Ethernet	はい	
<input checked="" type="checkbox"/> (006) internal3 Traffic internal3	接続完了	1 GBit/s	Ethernet	はい	
<input checked="" type="checkbox"/> (007) internal4 Traffic internal4	接続完了	1 GBit/s	Ethernet	はい	
<input checked="" type="checkbox"/> (008) 192.168.74.0/24 Traffic internal5	接続完了	1 GBit/s	Ethernet	はい	192.168.74.0/24
<input type="checkbox"/> (009) 192.168.82.0/24 Traffic a	未接続		Ethernet	はい	192.168.82.0/24
<input checked="" type="checkbox"/> (010) VLAN61 Traffic VLAN61	接続完了	1 GBit/s	Layer 2 Virtual LAN using 802.1Q	はい	
<input checked="" type="checkbox"/> (011) VLAN62 Traffic VLAN62	接続完了	1 GBit/s	Layer 2 Virtual LAN using 802.1Q	はい	
<input checked="" type="checkbox"/> (012) VLAN63 Traffic VLAN63	接続完了	1 GBit/s	Layer 2 Virtual LAN using 802.1Q	はい	
<input checked="" type="checkbox"/> (013) VLAN72 Traffic VLAN72	接続完了	1 GBit/s	Layer 2 Virtual LAN using 802.1Q	はい	
<input checked="" type="checkbox"/> (014) SSL VPN interface Traffic ssl.root	接続完了		Tunnel	はい	SSL VPN interface
<input checked="" type="checkbox"/> (015) 192.168.20.0/24 Traffic internal	接続完了		(not defined)	はい	192.168.20.0/24
<input type="checkbox"/> (016) fortilink Traffic fortilink	未接続		IEEE 802.3ad Link Aggregate	はい	

Step 12. 必要に応じて、「追加チャンネル」、「接続状態の監視」方法を選択します。

追加チャンネル ①

- エラー受信&送信
- 廃棄受信&送信
- ユニキャストパケット受信&送信
- 非ユニキャストパケット受信&送信 (32 ビットのみ)
- マルチキャストパケット受信&送信 (64 ビットのみ)
- ブロードキャストパケット受信&送信 (64 ビットのみ)
- 不明プロトコル

接続状態の処理 ①

- すべての「切断」状態に警報を表示する
- 切断された場合は警報を表示するが、非アクティブ化された場合は無視する
- すべての「切断」状態を無視する

作成

メモ: 「接続状態の処理」では、インターフェイスのアップとダウンを監視できます。

- **すべての「切断」状態に警報を表示する:**  
接続されていない(例: `ifOperStatus` が `up` ではない)インターフェイスを赤色のエラーステータスにします。
- **切断された場合は警報を表示するが、非アクティブ化された場合は無視する:**  
非アクティブに設定されていないが接続されていない(例: `ifAdminStatus` は `up` だが `ifOperStatus` が `up` ではない)インターフェイスをエラーステータスにします。非アクティブに設定されているインターフェイスが接続されていない場合、アップステータスとなります。
- **すべての「切断」状態を無視する:**  
接続されていない場合も警報状態とせず、緑色のアップステータスのままとします。接続断が発生しても通知されません。

Step 13. 必要に応じて、その他項目を編集します。

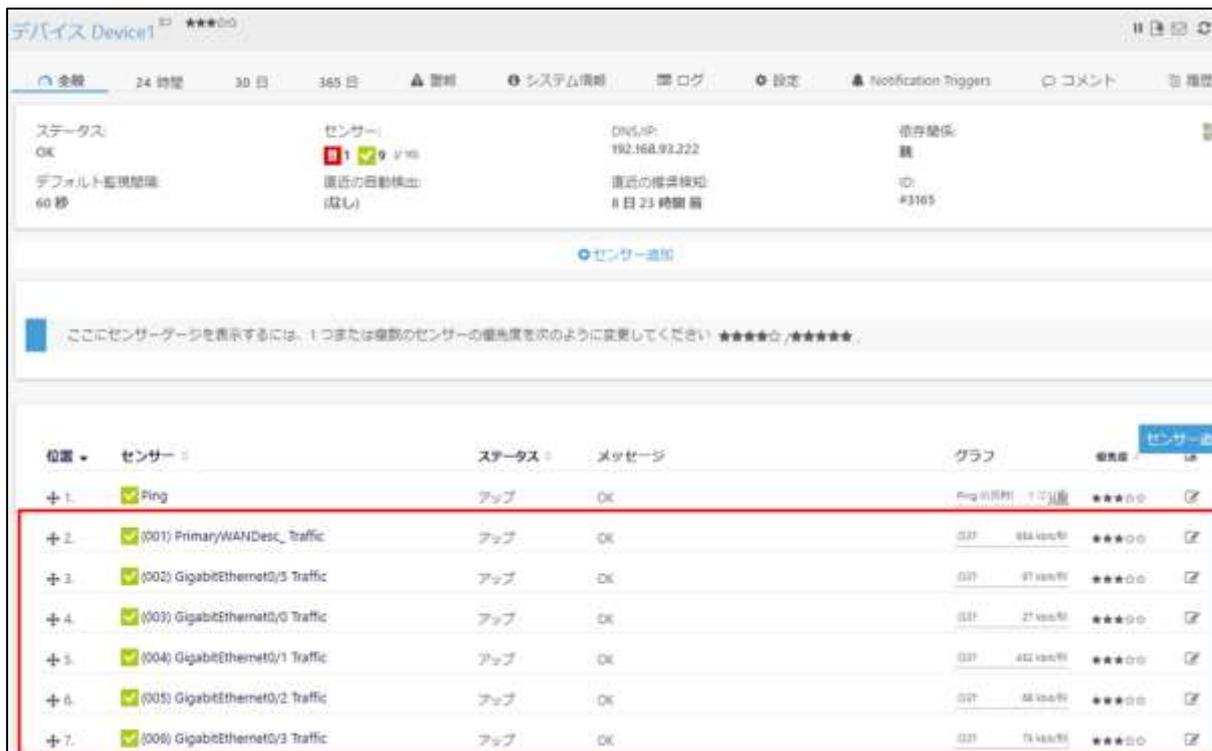
Step 14. 設定が終わったら、「作成」をクリックします。

Step 15. センサーが登録されたことを確認します。

位置	センサー	ステータス	メッセージ	グラフ	優先度
+	Ping	アップ	OK	Ping 1500ms (1ミリ)	★★★★☆
+	(001) PrimaryWANDisC Traffic	不明	データがありません	合計	★★★★☆
+	(002) GigabitEthernet0/5 Traffic	不明	データがありません	合計	★★★★☆
+	(003) GigabitEthernet0/0 Traffic	不明	データがありません	合計	★★★★☆
+	(004) GigabitEthernet0/1 Traffic	不明	データがありません	合計	★★★★☆

センサーの監視が開始されます。

Step 16. 監視結果が画面に表示されます。センサーアイコンが緑色でステータスが「アップ」と表示されていれば、監視対象が正常に稼働していると判断できます。センサーステータスについては「[センサーステータス](#)」を参照してください。



### 6.5 デバイスのクローン(コピー)

既存のデバイス設定をクローン(コピー)することで、新しいデバイスを監視登録することができます。クローンで作成されたデバイスにはクローン元のデバイスに登録されているセンサーが追加されます。

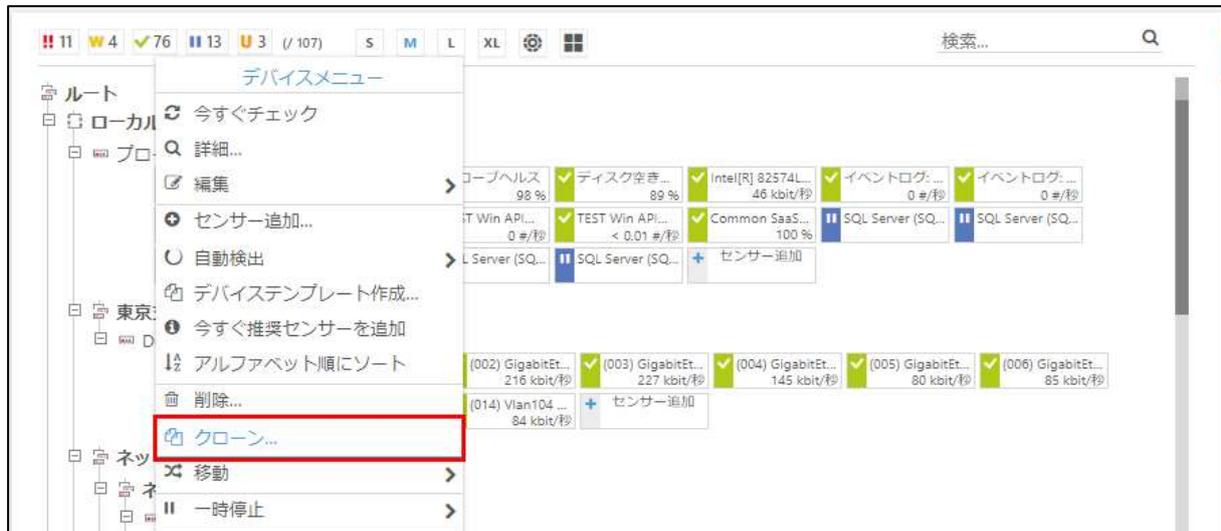
#### クローン元デバイスの「センサー管理」設定を確認してください

クローン元デバイスの「デバイス識別と自動検出 → 自動検出レベル」設定が「自動検出なし」以外の場合、クローンで作成したデバイスの監視を開始するとセンサーの自動検出が実行されます。この結果、クローン元で登録されているセンサー以外のセンサーが自動追加される場合があります。クローン作成するデバイスでセンサーの自動検出を実行したくない場合(クローン元に登録されているセンサー以外を登録したくない場合)は、事前にクローン元デバイスの「設定 → デバイス識別と自動検出 → 自動検出レベル」が「自動検出なし」に設定されていることを確認してください。



デバイスをクローン(コピー)する手順は以下のとおりです:

Step 1. クローンしたいデバイスを選択し、右クリックメニューから「クローン...」を選択します。



※上の例は、デバイス「Device1」を右クリックしてメニューを表示した状態

Step 2. 「新規デバイス名」、「新規 IP アドレス/DNS 名」、「サービス URL」を指定します。

クローンデバイス ファイルサーバー

**クローンの作成によるデバイス複製**

デバイスのクローンを作成して、デバイスの複製を行うには、デバイスの親グループ、新規  
名称、新規 IP アドレス/DNS 名を選択してください。

注：作成後、実際の監視を開始する前に設定を変更できるよう、新規デバイスは一時停止し  
ます。

**クローンを作成するデバイス**

親プロープ  
 ローカルプロープ (ローカルプロープ)

親グループ  
東京本社

デバイス  
ファイルサーバー (192.168.10.27)

**新規デバイスの名称とアドレス**

新規デバイス名

Device1のクローン

新規 IP アドレス/DNS 名

このフィールドに値を入力してください。

サービス URL

http://192.168.10.27

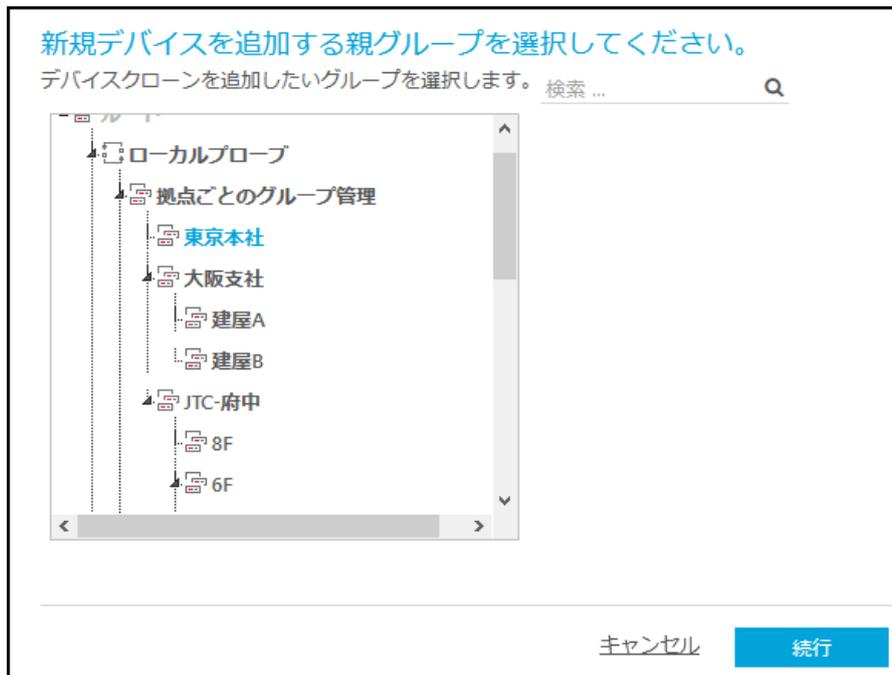
キャンセル 実行

新規デバイスの名前

新規デバイスの IP アドレスまたは、  
DNS 名

デバイスが提供するサービスにアク  
セスするための URL

Step 3. デバイスを追加する場所(プローブまたはグループ)を選択します。



Step 4. 「次へ」をクリックします。  
クローン作成したデバイスが画面上に表示されます。



メモ: クローン機能を使用して作成したデバイスは「一時停止」状態となっています。

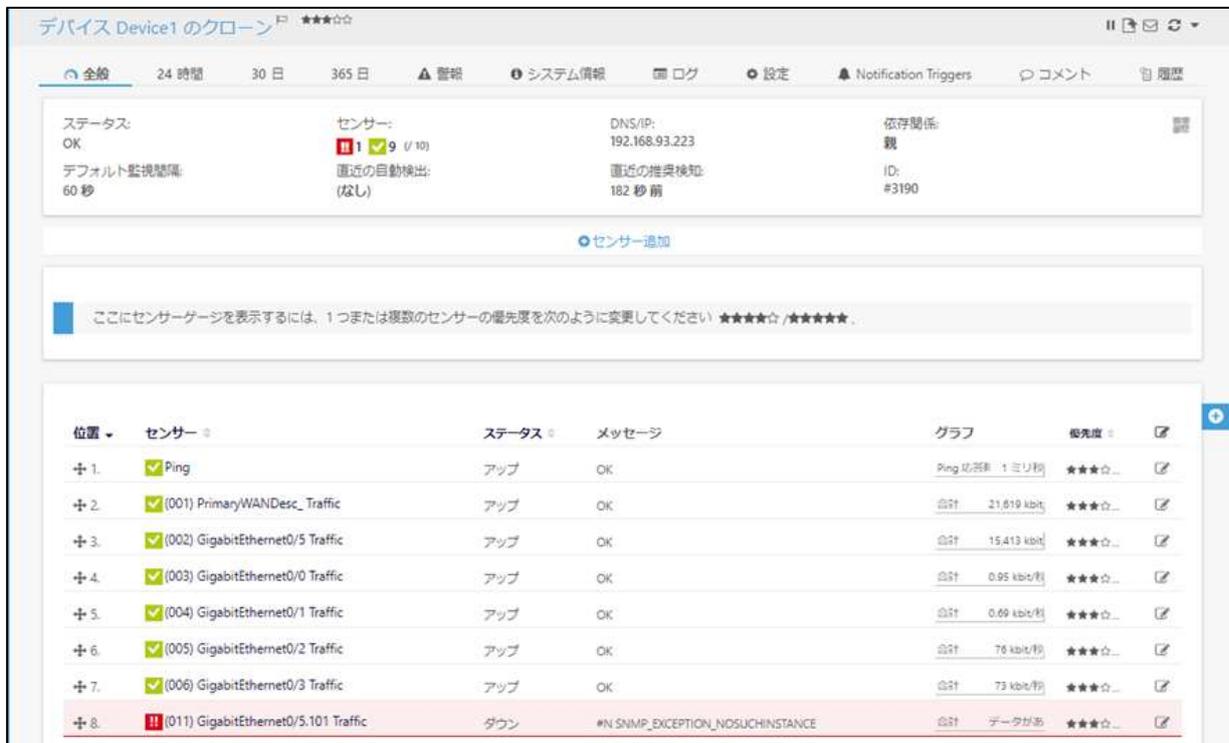
Step 5. デバイスを選択した状態で右クリックし、「再開」を選択して監視を開始します。



**注記:** センサーの自動検出機能が有効な場合、デバイスの監視を再開するとセンサーの検出が開始され、クローン元のデバイスに登録されているセンサー以外のセンサーが自動追加される場合がありますのでご注意ください。

Step 6. 監視結果が画面に表示されます。センサーアイコンが緑色であれば、監視対象が正常に稼働していると判断できます。センサーステータスについては「[センサーステータス](#)」を参照してください。

下図の例の場合、赤で表示されている「トラフィックセンサー」以外のセンサーは正常です。



## 7 監視結果の確認

PRTG は監視結果をステータス別に色分け表示するので、現在の状態を一目で把握できます。また、計測データはグラフやゲージでも表示します。

ここでは、以下の画面の監視結果表示例を紹介します：

- ・ [デバイスツリー画面](#)
- ・ [デバイス画面](#)
- ・ [センサー画面](#)

### 7.1 デバイスツリー画面

デバイスツリー画面はメインメニューの「デバイス」をクリックすると表示されます。この画面には監視登録済みのすべてのデバイスが表示されます。

#### 例：クラシックデバイスツリー

クラシックデバイスツリー画面は、デバイスツリービューオプション(下図)の S から XL のいずれかが選択されている場合に表示されます。



クラシックデバイスツリー画面では、デバイス、グループ、プローブを(オブジェクト名の左にあるマイナスアイコンをクリックすることで)折り畳むことができます。デバイス、グループ、プローブが折り畳まれている場合、センサステータスはサマライズされます。折り畳み表示になっている場合、各ステータスのセンサーの総数が表示されます。



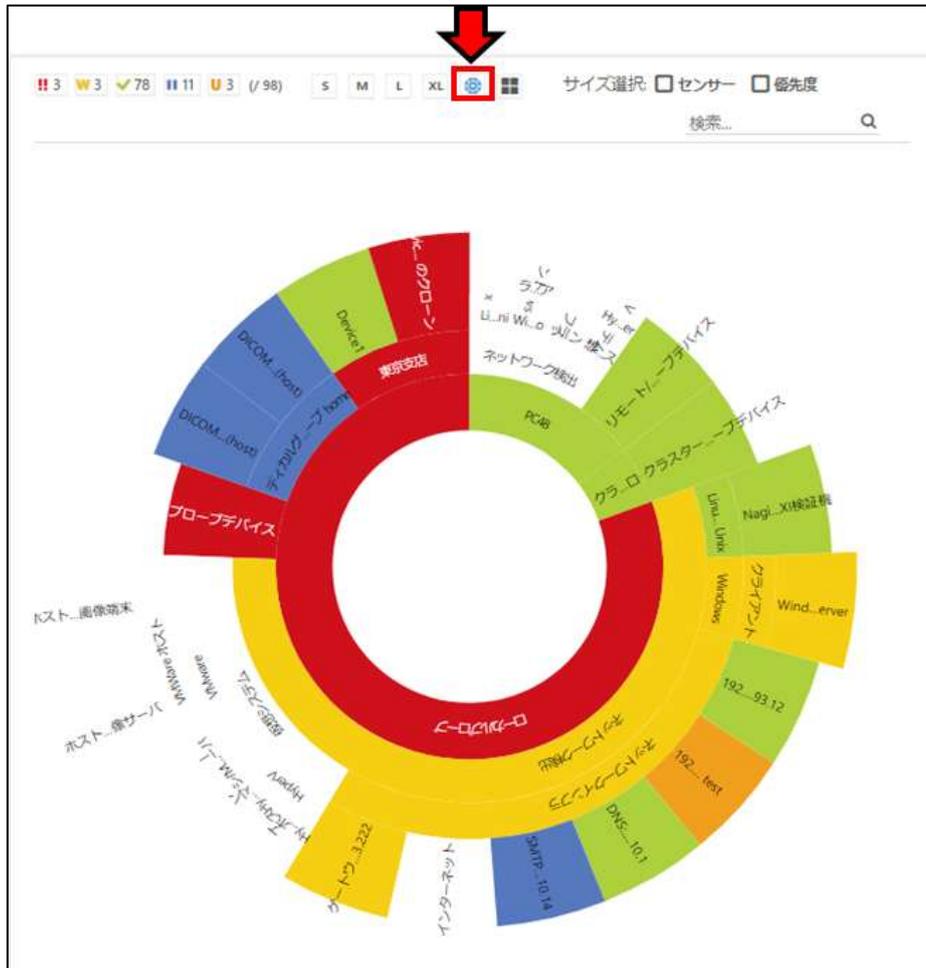
【折り畳み表示】

#### 例：サンバーストビュー

デバイスツリービューオプション(下図)で 下のよう選択されている場合に表示されます。



すべての監視対象を円線図で表示します。グループは円の内側、グループ内の全てのデバイスがその外側に描画されます。

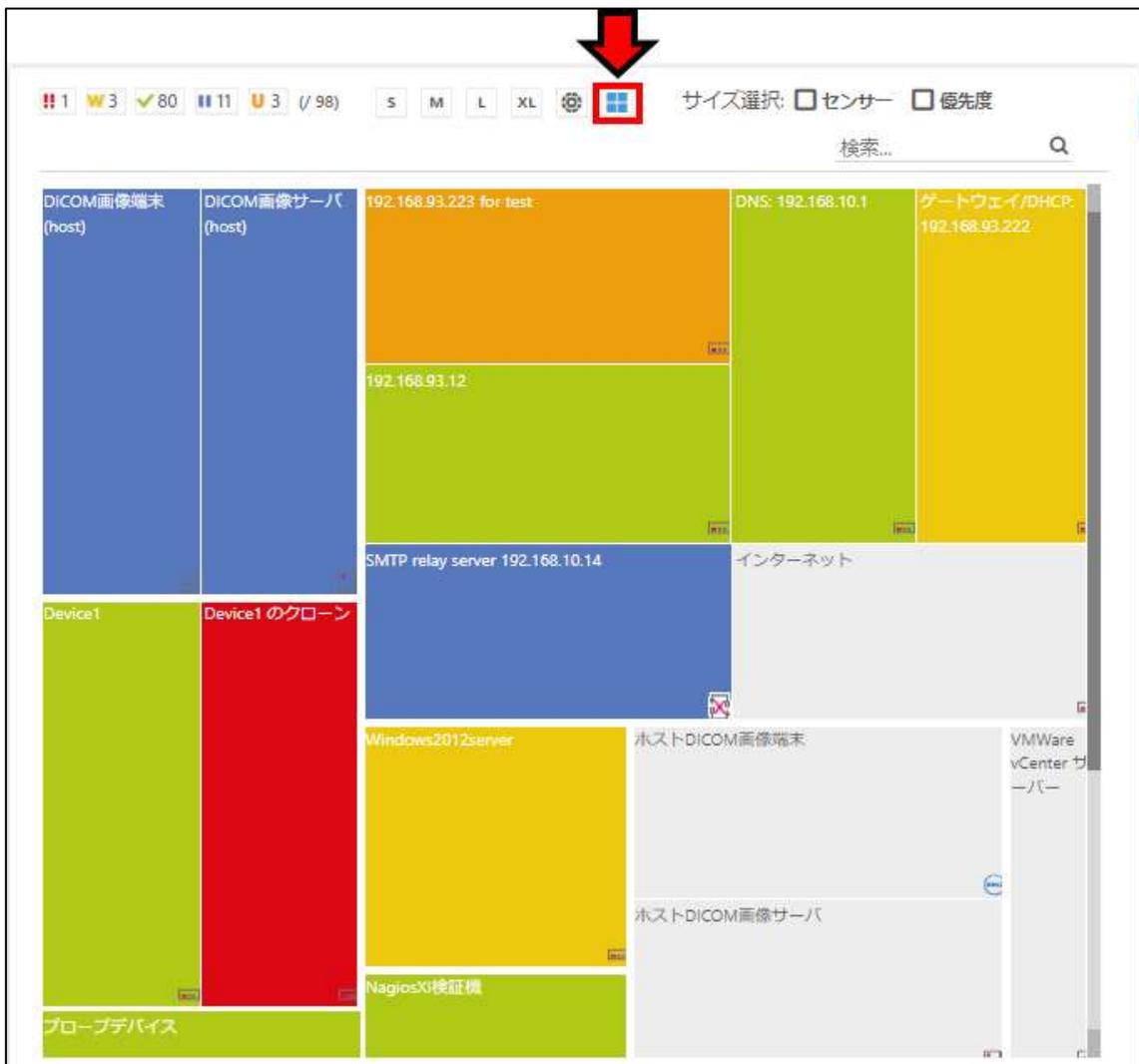


### 例：ツリーマップビュー

デバイスツリービューオプション(下図)で 下のよう選択されている場合に表示されます。



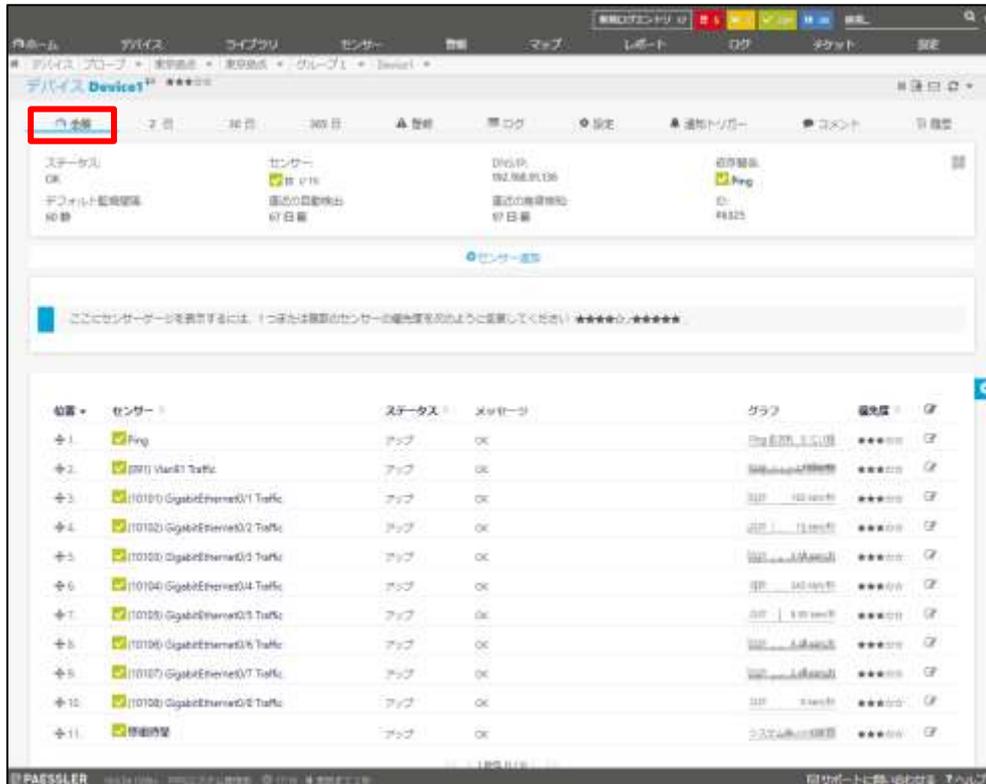
すべての監視対象を四角で表示します。デバイス上のセンサーのステータスに応じて色分け表示されます。四角のサイズはデバイスの優先度(★の数)またはデバイス上のセンサー数、またはその両方によって決定されます。



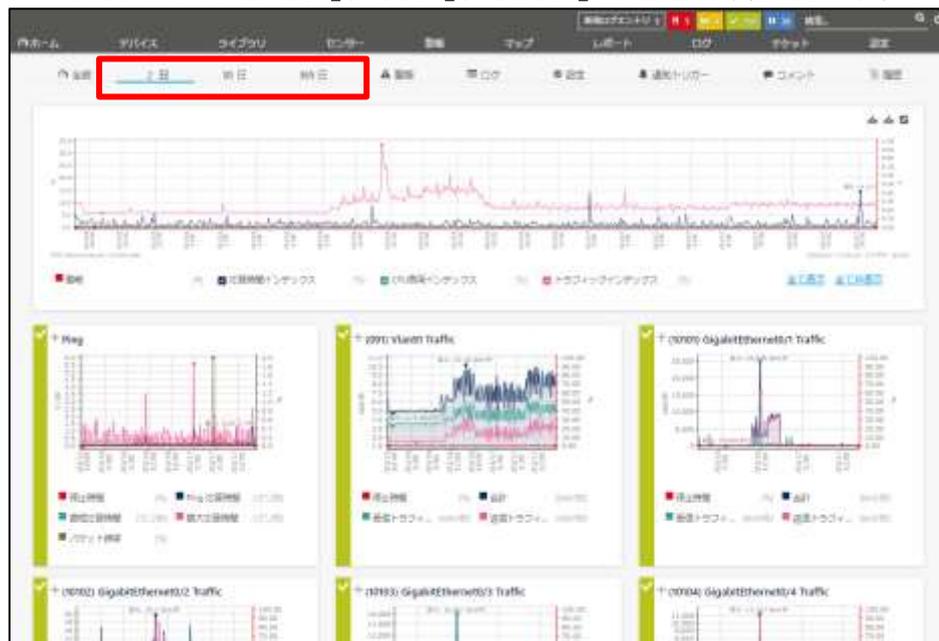
## 7.2 デバイス画面

特定のデバイスをクリックすると、デバイス画面が表示されます。デバイス画面では、このデバイスの監視ステータス(デバイスに登録されている各センサーのステータス)を確認できます。

直近の監視結果は「全般」タブ画面で確認できます。



過去の監視データおよびグラフは「2日」、「30日」、「365日」タブ画面で確認できます。



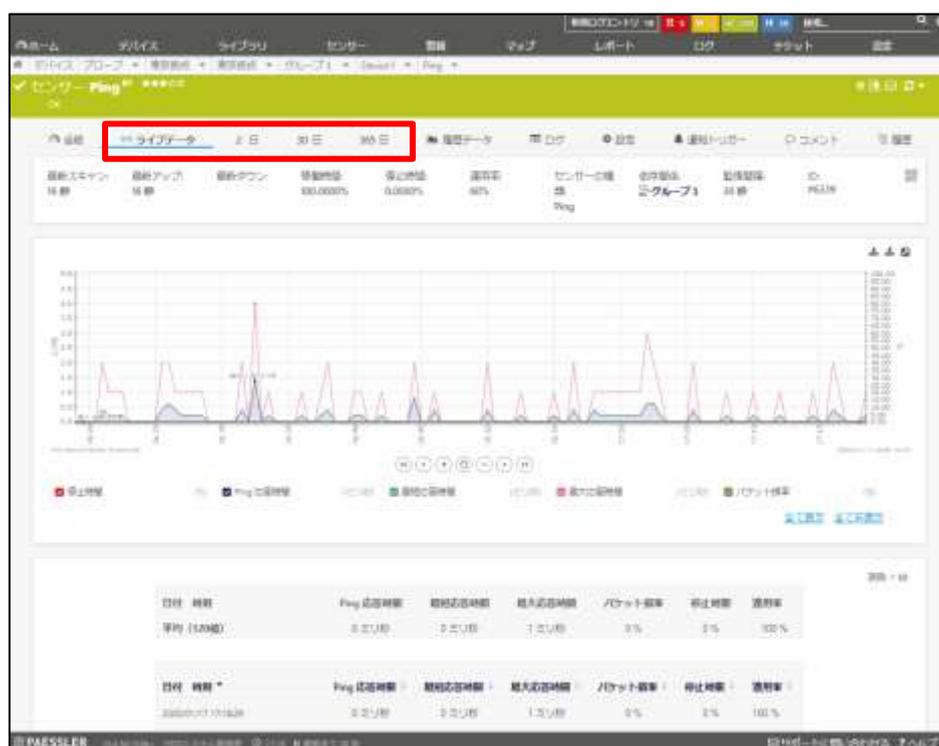
### 7.3 センサー画面

特定のセンサーをクリックすると、センサー画面が表示されます。センサー画面では、このセンサーのステータスおよび各チャンネルのステータスを確認できます。

直近の監視結果は「全般」タブページで確認できます。



過去の監視データおよびグラフは「ライブデータ」、「2日」、「30日」、「365日」タブ画面で確認できます。



## 8 監視の削除

登録済みのセンサー、デバイス、グループを削除する手順について説明します。

### 8.1 センサーの削除

センサーを削除する手順は以下のとおりです：

#### 8.1.1 センサー画面で削除する場合

Step 1. 削除したいセンサー画面を開き、▼をクリックして表示されるメニューで「 削除」をクリックします。



The screenshot shows the PRTG Network Monitor interface for a sensor named 'PING'. The sensor status is 'OK'. The main display area shows a gauge for 'Ping 応答時間' (Ping response time) with a value of 1 ms. To the right, a 'Sensor Menu' is open, listing various actions such as 'Check now', 'Details', 'Refresh', and 'Delete'. The 'Delete' option is highlighted with a red box. Below the gauge, there is a table of sensor statistics:

チャンネル	ID	最新値	最小値	最大値	
Ping 応答時間	0	1 ミリ秒	1 ミリ秒	123 ミリ秒	
パケット損失率	3	0%	0%	80%	
最大応答時間	2	2 ミリ秒	1 ミリ秒	394 ミリ秒	
最短応答時間	1	1 ミリ秒	0 ミリ秒	62 ミリ秒	

Step 2. メッセージを確認し、削除する場合は「オブジェクトの削除」をクリックします。

オブジェクト Ping の削除 ×

### オブジェクトの削除

データベースからのオブジェクトの削除を選択しました。このページでは、PRTG は、データベース内の、削除したいオブジェクトに接続されている可能性のあるその他すべてのオブジェクトを常時表示します。このリストを確認して、他の監視オブジェクトが、意図に反して影響されていないか確認します。

**注：** ユーザーアカウントの削除は、ログテーブルのエントリやオブジェクトの履歴タブのエントリに影響を及ぼします。削除されたユーザーは不明ユーザーまたはオブジェクトとして表示されるので、監視設定の変更はそれ以上当該ユーザーに関連づけできません。

**重要：** マップ、ライブラリ、レポートなど、セキュリティコンテキスト設定によってはリストに表示されない接続オブジェクトもあります。

承認してください

オブジェクト  Ping を削除してもよろしいですか？

### 8.1.2 デバイス画面で削除する場合

Step 1. 削除したいセンサーが含まれるデバイスの「全般」タブページを開きます。

Step 2. 単一のセンサーを削除したい場合は、削除したいセンサーを選択して右クリックし、表示されたセンサーメニュー上で「削除」をクリックします。



Step 3. 複数のセンサーを削除したい場合は、削除したいセンサーの右側のチェックボックスをチェックして  アイコンをクリックします。



Step 4. メッセージを確認し、削除する場合は「オブジェクトの削除」をクリックします。

メモ: 他にも方法があります。詳しくはマニュアルを参照してください。

## 8.2 デバイスの削除

デバイスを削除する手順は以下のとおりです：

### 8.2.1 単一デバイスの削除

単一のデバイスを削除したい場合は、以下の方法で削除できます。

#### デバイス画面で削除する場合

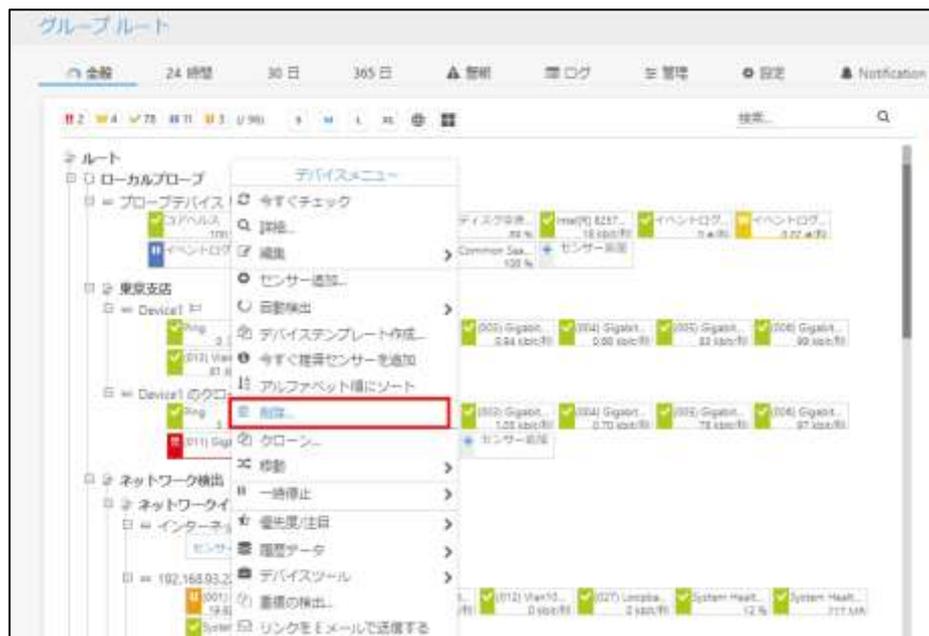
Step 1. 削除したいデバイス画面を開き、画面右上の▼をクリックして表示されるデバイスメニュー上で「 削除」をクリックします。



Step 2. メッセージを確認し、削除する場合は「オブジェクトの削除」をクリックします。

#### デバイスツリー画面で削除する場合

Step 1. 削除したいデバイスが含まれる上位のグループ、プローブまたはルートのデバイスツリー画面を開いている場合は、削除したいデバイスを選択して右クリックし、「削除」をクリックします。



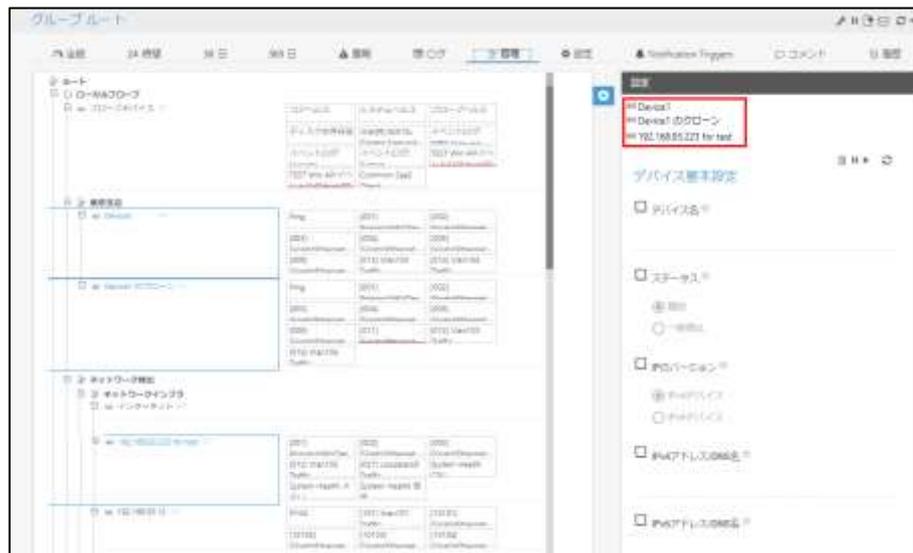
Step 2. メッセージを確認し、削除する場合は「オブジェクトの削除」をクリックします。

## 8.2.2 複数のデバイスを削除する場合

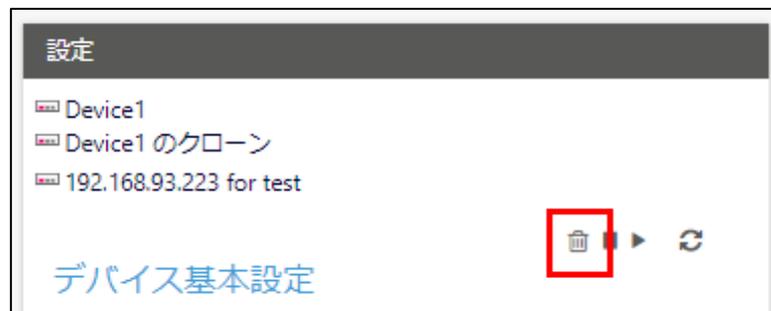
Step 1. 削除したいデバイスが含まれる上位のグループ、プローブまたはルートの「管理」タブをクリックします。



Step 2. 削除したいデバイスを選択します。  
複数選択する場合は、「Ctrl」キーを押した状態でデバイスを選択します。



Step 3. 画面右側にある「削除」 アイコンをクリックします。



Step 4. 確認画面に表示された内容を確認し、「オブジェクトの削除」を選択します。



## 9 閾値の設定

センサー(監視項目)のステータスを決定するための閾値を設定できます。閾値はチャンネルごとに設定します。ここでは閾値の設定手順について説明します。

**メモ:** チャンネルの中には閾値を設定できないものもあります(例: 停止時間)。

閾値の設定手順は以下のとおりです:

Step 1. 閾値を変更したいセンサーの「全般」タブページを開きます。



閾値を変更したいチャンネルの右下にある「設定」アイコンをクリックします。

下図は、「受信トラフィック」チャンネルの設定アイコンをクリックする場合の例です。  
ゲージまたはチャンネル一覧のいずれかの「設定」アイコンをクリックします。



Step 2. 「制限値」で「制限値に基づいてアラートを有効化」を選択します。



チャンネルの編集

受信トラフィック (ID 0)

チャンネル "受信トラフィック" の編集

名前 <sup>?</sup>

受信トラフィック

ID <sup>?</sup>

0

制限値 <sup>?</sup>

制限値を無効化

制限値に基づいてアラートを有効化

Step 3. 「エラー上限」、「警告上限」、「警告下限」、「エラー下限」にそれぞれの閾値を入力します。



エラー上限 (kbit/秒) <sup>?</sup>

値を入力してください。

警告上限 (kbit/秒) <sup>?</sup>

値を入力してください。

警告下限 (kbit/秒) <sup>?</sup>

値を入力してください。

エラー下限 (kbit/秒) <sup>?</sup>

値を入力してください。

エラー時の出力メッセージ <sup>?</sup>

適用 OK キャンセル

Step 4. 「OK」をクリックします。

指定した閾値を超過すると、センサーが「ダウン」(赤色)や「警告」(黄色)ステータスとなります。

### ダウステータス例：チャンネル値が「エラー上限」または「エラー下限」を超過時



### 警告ステータス例：チャンネル値が「警告上限」または「警告下限」を超過時



## 10 アラート通知設定

監視対象がダウンしたときや設定した閾値を超過したときなどに指定した関係者に通知を送信することができます。ここではアラート通知の設定手順について説明します。

### メモ:

- アラート通知設定も上位レベル(親)の設定が継承されます。継承は任意のレベルで解除して固有の設定を行うこともできます。
- 通知アクションは事前に登録しておく必要があります。「[通知設定](#)」を参照してください。

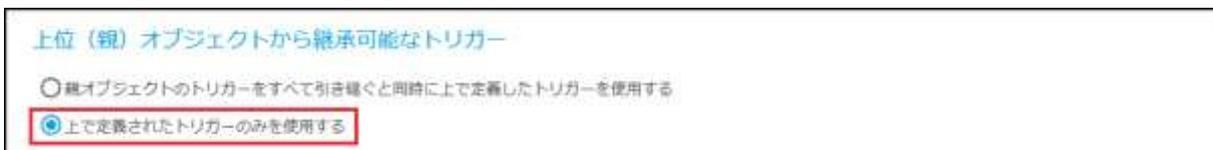
アラート通知の設定手順は以下のとおりです:

メモ: 例としてセンサーが「**ダウン**」ステータスになったときにアラートを通知する手順を説明します。

Step 1. アラート通知を設定したい任意のオブジェクト(ルート、プローブ、グループ、デバイス)の「**通知トリガー**」タブをクリックします。



Step 2. ここで設定するトリガーのみを実行したい(上位(親)オブジェクトで設定されているトリガーを実行したくない)場合は、「**上位(親)オブジェクトから継承可能なトリガー**」の設定で「**上で定義されたトリガーのみを使用する**」を選択します。



メモ: 「**親オブジェクトのトリガーをすべて引き継ぐと同時に上で定義したトリガーを使用する**」を選択すると、継承したトリガーと下で設定するトリガーの両方が実行されます。

Step 3. 右端の+ボタンをクリックし、使用したいトリガーの作成ボタンを選択します。

ここではセンサーが「ダウン」ステータスになったときにアラートを通知させるため、「ステータストリガーの追加」をクリックします。



Step 4. トリガー条件を設定します。

下図は以下の条件の場合の設定例です：

- センサーの「ダウン」状態が「60」秒継続したら、「管理者にメール通知やプッシュ通知」を送信します。
- その後、「ダウン」状態が「300」秒継続したら、「管理者にメール通知やプッシュ通知」を送信し、「10」分ごとと繰り返しメールを送信します。
- センサーステータスがダウンでなくなったときに、管理者に「メール通知やプッシュ通知」を送信します。



Step 5. トリガーの横にある「✓」をクリックします。



Step 6. 必要に応じて、同様の手順でトリガーを追加します。

## 11 通知設定

アラートを通知する方法は複数あります。ここでは、アラート通知方法を登録する手順について説明します。

通知設定を登録する手順は以下のとおりです：

Step 1. メインメニューから「設定 → アカウント設定 → 通知テンプレート」をクリックします。



Step 2. ログイン情報の再入力を促す画面が表示された場合は、「ログイン名」(prtgadmin)と「パスワード」を入力して「ログイン」をクリックします。



Step 3. 「通知テンプレート追加」をクリックします。



Step 4. 「テンプレート名」にこの通知の名前を入力します。

Step 5. 「通知の集約」で集約方法を選択します。

メモ：集約しない場合は、「通知を即送信し、集約しない」を選択してください。デフォルトは「最初のダウンおよびアップメッセージは即送信し、以降は集約する」です。

キャンセル

### 基本設定

テンプレート名

タグ

ステータス  開始  
 一時停止中

時間設定

計画していた一時停止期間中状態における通知の処理  一時停止中の通知を集めておき、再開したときに送信する  
 一時停止中の通知は放棄する

作成

### 通知の集約

通知方法  通知を即送信し、集約しない  
 最初のダウンメッセージは即送信し、以降は集約する  
 最初のダウンおよびアップメッセージは即送信し、以降は集約する  
 すべてのダウンメッセージは即送信し、他のメッセージは集約する  
 すべてのダウンおよびアップメッセージは即送信し、他のメッセージは集約する  
 種類にかかわらず、すべてのメッセージを常に集約する

集約メールまたは SNS メッセージの件名

わかりやすい通知名を指定

スケジュールを指定

通知の集約方法を選択

集約通知送信時の件名を指定

Step 6. アラート通知方法を選択します。使用したい通知方法のチェックボックスにチェックを付けます（複数選択可）。

ここでは例として「メールを送信」を選択します。

**メールを送信**

送信者  デフォルト  
 カスタム

以下の3つの受信設定（ユーザー、ユーザーグループ、メールアドレス）は個別に動作します。いずれかの設定で選択されたすべての連絡先とアドレスが通知を受信します。

受信ユーザー   
値を入力してください。

受信ユーザーグループ   
値を入力してください。

受信者メールアドレス   
値を入力してください。

件名

形式  HTML  
 テキスト  
 本文をカスタマイズする

優先度

作成

Step 7. 選択した通知方法について、それぞれ設定を行います。

以下は、メール送信の設定例です。

Step 8. 「作成」をクリックします。

Step 9. 作成した通知が正常に機能するかテストします。  
作成した通知の「」マークアイコンをクリックします。

オブジェクト	アクション	アクティブ/一時停止	
E-mail通知		アクティブ	
PRTGユーザーグループの全メンバーにメール送信		アクティブ	
ポケットにて通知		アクティブ	

Step 10. 「OK」をクリックします。



**メモ:** PRTG からのメールが受信できれば成功です。メールが受信できない場合、通知設定または[メール配信設定](#)に誤りがある可能性があります。設定を見直してください。作成した通知設定は「[アラート通知設定](#)」で使用できます。

## 12 メール配信設定

PRTG でメールを送信するには、メール配信に関する設定が必要です。ここではメール配信設定を変更する手順について説明します。

**メモ:** PRTG はデフォルト設定で送信者メールアドレスから MX レコードを取得し SMTP サーバーにメールを送信します。MX レコードを取得できない場合は、SMTP リレーサーバーを経由してメール送信を行えるように設定してください。

メール配信設定の変更手順は以下のとおりです：

Step 1. メインメニューから「設定 → システム管理 → 配信設定」を選択します。



Step 2. 「SMTP 配信方法」でメール配信方法を選択し、必要な情報を入力します。

下図は、「SMTP リレーサーバーを使用する(LAN/NAT で推奨)」を選択した場合の画面例です。

**SMTP 配信**

SMTP 配信方法  指定のメールサーバーを使用して直接配信する (デフォルト)

SMTP リレーサーバーを使用する (LAN/NAT で推奨)

2 台の SMTP リレーサーバーを使用する (プライマリとフォールバックサーバー)

送信者のメールアドレス

このフィールドに値を入力してください。

送信者名

HELO ID

SMTP リレーサーバー

このフィールドに値を入力してください。

SMTP リレーの SMTP ポート

SMTP リレーサーバーの認証  認証は不要

標準の SMTP 認証を使用する

SASL 認証が必要

接続セキュリティ  サーバー側がサポートしている場合に SSL/TLS を使用する (デフォルト)

接続セキュリティを使用しない

SSL/TLS メソッド  SSLv2 または SSLv3 (デフォルト)

SSLv3

TLS 1.0

TLS 1.1

TLS 1.2

Step 3. 「保存」をクリックします。

## 13 基本概念の理解

ここでは PRTG Network Monitor を使用するうえでぜひ理解していただきたい基本概念を説明します。PRTG Network Monitor は使いやすいソフトウェアでインストールすればすぐに最初の監視結果を確認することができますが、より効果的にご利用いただくために、監視システムのアーキテクチャ、オブジェクト階層、継承、通知などの基本原則を理解していただくことをお勧めいたします。

PRTG Network Monitor は主に3つのカテゴリに分類されます：

- ・ システム
- ・ ユーザーインターフェイス
- ・ システム管理インターフェイス

タイプ	PRTG
システム部分	<p><b>コアサーバー</b> PRTG インストールの中核であり、データ保管、Web サーバー、レポートエンジン、通知システムなどを含みます。コアサーバーは Windows サービスとして構成され常に稼働しています。</p> <p><b>プローブ(複数可)</b> 実際の監視を行います。ローカルプローブ、リモートプローブ、クラスタープローブを利用できます。すべての監視データは中央のコアサーバーへ転送されます。プローブは Windows サービスとして構成され常に稼働しています。</p> <p><b>メモ:</b> ローカルプローブをもつ PRTG コアサーバーまたはあらゆるリモートプローブが稼働しているすべてのコンピューターは安全であると想定しています。許可された人のみがこれらのマシンへアクセスできるようにしてください。この理由のため、PRTG システム専用マシンをご利用いただくことを強く推奨します。</p>
ユーザーインターフェイス	<p><b>Ajax Web インターフェイス</b> デバイスやセンサーの設定、監視結果の閲覧を行うために使用します。システム管理やユーザー管理もここで構成できます。</p> <p><b>PRTG Desktop</b> Web インターフェイスの代替として監視に使用できる、クロスプラットフォームアプリケーションです。PRTG Desktop では異なる独立した PRTG コアサーバーインストールに接続し、それらのデータを一目で確認できます。</p> <p><b>モバイルネットワーク監視用 PRTG アプリ</b> PRTG と iOS および Android 用アプリで外出先でもネットワークを監視できます。</p>
システム管理プログラム	<p><b>PRTG Administration Tool (コアサーバー)</b> 管理者ログイン、Web サーバーIP/ポート、プローブ接続設定、クラスターモード、システム言語など基本的なコアサーバー設定を構成するために使用します。</p> <p><b>PRTG Administration Tool (リモートプローブシステム)</b> プローブ名、IP、サーバー設定など基本的なプローブ設定を構成するために使用します。</p>

## 13.1 コアサーバー

コアサーバーは PRTG システムの中核であり以下の処理を行います。

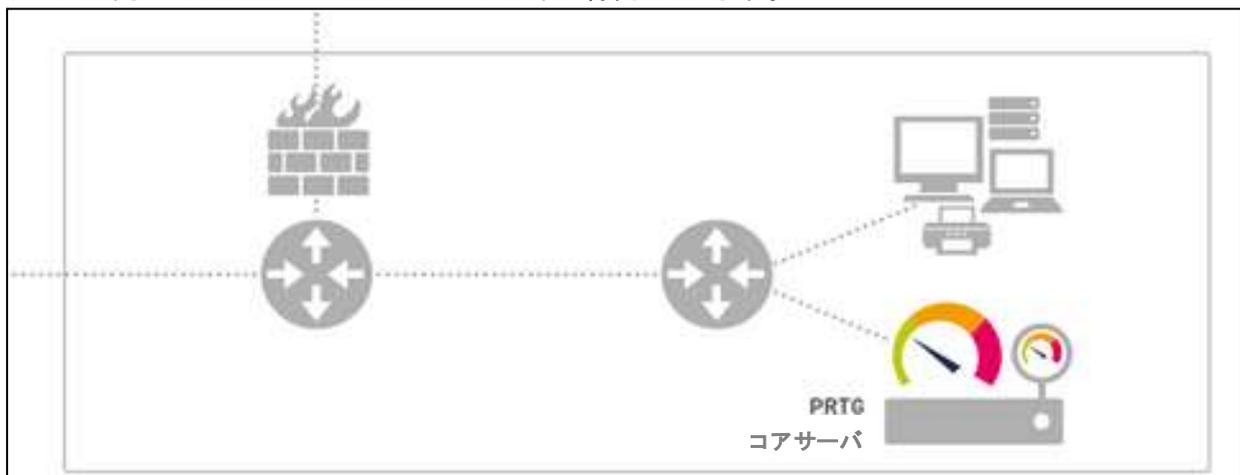
- ・ (サーバー、ワークステーション、プリンター、スイッチ、ルーター、仮想マシン、その他など)オブジェクト監視のための構成管理
- ・ 接続対象のプロープの管理と構成
- ・ クラスタ管理
- ・ 監視結果のデータベース
- ・ メール配信用メールサーバーを含む通知管理
- ・ レポート生成とスケジューラ
- ・ ユーザーアカウント管理
- ・ データ削除(例: 365 日を経過したデータの間引き)
- ・ Web サーバーおよび API サーバー

クラスタ構成の場合、現在のマスターノードがこれらのタスクのすべてを担います。組込みの高速で安全な Web サーバー(追加の IIS や Apache は不要)は HTTP と HTTPS(SSL 経由)をサポートします。ブラウザ経由でアクセスすると Web インターフェイスを提供します。また PRTG Application Programming Interface (API)コール(例: ユーザースクリプトや PRTG Desktop)にも応答します。

**メモ:** コアサーバーおよびプロープ(複数可)は Windows サービスとして構成され Windows システムによって永続的に稼働します。

## 13.2 プロープ(複数可)

プロープ上で、PRTG はデバイス(コンピューター、ルーター、サーバー、ファイアウォールなど)に作成されたセンサーを経由して実際の監視を行います。プロープはこの構成をコアサーバーから受け取り、監視処理を実行して監視結果をコアサーバーへ戻します。PRTG コアサーバーが稼働しているすべてのシステムには同一マシン上にローカルプロープが常に稼働しています。



実際の監視は1つ以上のコンピューター上で稼働している PRTG プローププロセスが実施します。インストール中にシステムは自動的に「ローカルプロープ」を作成します。単一プロープをインストールした環境(デフォルトセットアップ)では、ローカルプロープがすべての監視を行います。

企業 LAN の内側にローカルプローブを持つ PRTG コアサーバー (上図の右下) はローカルエリアネットワーク (LAN) 全体のサービスやサーバーを監視することができます。

複数拠点の監視やその他の理由から、「リモートプローブ」を追加することができます。コアサーバーへの接続は SSL 暗号化されるので、アクセスできないまたはファイアウォールにより保護されていないリモートネットワーク内部のサービスやシステムを安全に監視することができます。

クラスター構成の場合、「クラスタープローブ」がすべてのノード上で稼働します。作成したすべてのデバイスはクラスター内のすべてのノードで監視されます。このため (複数のノードで監視を行うため) 1つのノードに障害が発生してもデバイスの監視は継続します。

PRTG は (正しい監視結果を得られなくなる可能性がある) 過負荷状態を検出するため、自動的に自身のコアサーバーと各プローブのシステム正常性を監視します。プローブコンピューターのシステムステータスを監視するため、PRTG は自動的にいくつかのセンサーを作成します。これには、「コアの正常性」、「プローブの正常性」、「システム正常性」、「クラスターの正常性」、「ディスク空き容量」、インストール済みのすべてのネットワークカード用「帯域」センサー、広く使用されている SaaS プロバイダの可用性をチェックする「Common SaaS Check」センサーが含まれます。

これらのセンサーはそのまま残して使用されることをお勧めしますが、「正常性」センサー以外は任意で削除できます。これらはプローブシステムハードウェアのさまざまな内部システムパラメータやプローブの内部プロセスを測定し結果を算出します。頻繁に繰り返し 100% を下回る場合は調査する必要があります。[弊社までご連絡ください](#)。

## 13.3 クラスター

PRTG クラスターは 2 つ以上の PRTG インストールから構成されます。クラスターノードは高可用性システムを構成するために同時に稼働します。クラスター構成にすることで、PRTG サーバーの場所でインターネットに接続できなくなった、ハードウェア障害が発生した、OS や PRTG そのもののソフトウェアアップデートを実施したなどの理由で監視が止まることはなくなります。

### 13.3.1 PRTG クラスターの動作

PRTG クラスターは 1 つの「プライマリマスターノード」と 1 つ以上の「フェイルオーバーノード」で構成されます。各ノードは PRTG のフルインストールであり、それ自身ですべての監視およびアラートを実行することができます。ノード間は TCP/IP 接続で互いに通信します。これらは双方向に通信し 1 つのノードはクラスターの他のノードに接続できる必要があります。

通常の実行では、「プライマリマスターノード」がデバイスやセンサーを構成するために使用されます (Web インターフェイスまたは PRTG Desktop を使用)。マスターノードは自動的に構成を他のすべてのノードにリアルタイムで配布します。すべてのノードはこの共通の構成によりネットワークを監視し続け、各ノードがその結果を自身のデータベースに保管します。この結果、監視結果の保管場所もクラスター間で分散されることとなります。(このコンセプトの欠点は、監視トラフィックおよびネットワーク負荷がクラスターノード数で乗算されることにありますが、ほとんどの場合これは問題にはなりません。)

ユーザーはどのクラスターノードの Web インターフェイスにログインしても監視結果を閲覧することができます (読取専用モード)。構成の監視は中央で管理するため、構成はマスターノード上でしか変更できません。デフォルトでは、「クラスタープローブ」上に作成されたすべてのデバイスがクラスター内のすべてのノードで監視されます。このため 1 つのノードに障害が発生しても監視は継続されます。「プライマリマスターノード」に障害が発生した場合、「フェイルオーバーノード」の 1 つがマスターノードの役割を引き継ぎ、マスターノードが復旧するまでクラスターを制御します。データの抜けがないフェイルセーフな監視を保証します。

クラスター構成でリモートプローブを使用する場合、各プローブがクラスターの各ノードに接続しデータをすべてのクラスターノード(現在のプライマリマスターノードとフェイルオーバーノード)に送信します。各プローブのクラスター接続はプローブ管理設定で定義することができます。

**メモ:** ノードが停止すると、監視データを収集できなくなります。この単一ノードのデータには空白が生じてしまいますが、この間の監視データは他のノード上には存在します。他のノードのデータで空白を埋める機能はありません。

1 つ以上のノードでダウン時間または閾値超過が検出された場合、プライマリマスターノードまたはフェイルオーバークラスターノードのいずれか1つのインストレーションのみが通知(メール、SMS、テキストメッセージなど)を送信します。このため、すべてのノードから通知が大量に管理者へ送信されてしまうといったことはありません。

**メモ:** 1クラスターにつき 2,500 センサー以下とすることをお勧めします。

## 13.4 オブジェクト階層

PRTG で監視設定された全てのオブジェクトはツリー構造に配置されるので、オブジェクトの位置を容易に特定できます。また、同種のデバイスやサーバー、特定の場所を監視するためにオブジェクトをグループ化することができます。階層構造の上位の設定は下位に継承されます。例えば、「ルート」グループの設定は下位のすべてのオブジェクトに適用されます。

PRTG のオブジェクトは下のような階層構造を持ちます：



- ・ **ルート**：全てのオブジェクトが含まれます。全てのプローブは「ルート」直下にあります。
- ・ **プローブ**：1つ以上のグループを含みます。
- ・ **グループ**：1つ以上のデバイスを含みます。
- ・ **デバイス**：IP アドレス経由で到達可能なネットワーク内の物理または仮想コンポーネント  
1つのデバイスには複数のセンサーが関連付けられます。
- ・ **センサー**：デバイスの1監視項目。すくなくとも1つの**チャンネル**を持ちます。

### 13.4.1 ルートグループ

「ルート」グループは、PRTG の最上位のインスタンスです。「ルート」には、設定したすべてのオブジェクトが含まれます。「ルート」グループに適切なデフォルト設定を指定してください。他のすべてのオブジェクトがデフォルトとして「ルート」グループの設定を継承するので、後の設定が楽になります。(同じ設定であれば)新しくオブジェクトを追加するごとに同じ設定をする必要がなくなります。

### 13.4.2 プローブ

「ルート」以外のすべてのグループは「プローブ」の下に配置され、監視は「プローブ」単位で行われます。プローブは下に配置された全てのオブジェクトを監視します。

PRTG コアサーバーをインストールすると自動的に「ローカルプローブ」サービスがインストールされます。「リモートプローブ」を追加すれば、PRTG コアサーバーのネットワークから離れたサイトを監視することができます。

クラスター構成の場合は、すべてのノードに「クラスタープローブ」が追加されます。「クラスタープローブ」の下に設定されたデバイスは、クラスター内のすべてのノードから監視されます。これにより、もし1つのノードがダウンした場合でも別のノードでの監視が継続します。

### 13.4.3 グループ

プローブには 1 つ以上の「グループ」を追加することができます。同じ設定を継承させたいオブジェクトを同じグループの構成メンバーにすると便利です。グループにはデバイスまたはグループを追加できます。監視対象のネットワーク構造に適したグループを作成することができます。

以下は設定例です。ローカルプローブ、複数のグループ、デバイス、センサーが設定されています。

### 13.4.4 デバイス

監視したい「デバイス」は「プローブ」または「グループ」に追加します。PRTG の「デバイス」はネットワーク上の実際のハードウェアや仮想デバイスを意味します。

デバイス例:

- Web サーバーやファイルサーバー
- クライアントコンピューター (Windows, Linux, Mac OS)
- ルーターやスイッチ
- ネットワーク内で IP アドレスを割り振られたほとんどすべてのデバイス

**メモ:** 多数のセンサーを使用して非常に詳細な監視を行っている場合やセンサーのグループ別に異なるデバイス設定を使用している場合などに分かりやすく表示するため、同じデバイスを PRTG に複数回追加したい場合があるかもしれません。PRTG では同じ IP アドレスまたは DNS 名のデバイスを複数回追加することができます。これらの PRTG デバイス上のセンサーはネットワーク内の同じハードウェアデバイスにクエリを行います。

さらに、PRTG は「**プローブデバイス**」をローカルプローブに追加します。「**プローブデバイス**」は内部のシステムデバイスで、プローブが稼働しているコンピューターの正常性を複数のセンサーでチェックします。デバイスに対してより詳細で優れた監視を行えるようにするため、PRTG は自動的にユーザーが追加したデバイスを分析し適切なセンサータイプを推奨します(デバイスの「**全般**」タブページ)。「**今すぐ推奨センサーを追加**」をクリックすると、推奨センサータイプが作成されます。

**メモ:** 「**今すぐ推奨センサーを追加**」機能は、「システム管理 - 監視」で無効にすることができます。

### 13.4.5 センサー

それぞれのデバイスには複数の「**センサー**」を作成できます。センサーはデバイスの 1 監視要素です。

センサー例:

- SMTP, FTP, HTTP などのネットワークサービス
- ネットワークスイッチポートのトラフィック
- デバイスの CPU 負荷
- デバイスのメモリ使用状況
- ネットワークカードのトラフィック
- NetFlow デバイス
- デバイスのシステム正常性
- その他コンテンツ(例: データベース、メール、HTTP、XML、ファイルなど)
- その他

### 13.4.6 チャンネル

それぞれのセンサーは異なるデータストリームを受信する複数の「チャンネル」を持ちます。利用できるチャンネルはセンサーのタイプにより異なります。

チャンネル例:

- ・ デバイスの停止時間と稼働時間
- ・ デバイス(ルータなど)の受信トラフィック
- ・ デバイス(ルータなど)の送信トラフィック
- ・ デバイス(ルータなど)の合計トラフィック
- ・ NetFlow デバイスの WWW トラフィック
- ・ NetFlow デバイスの Mail トラフィック
- ・ NetFlow デバイスのその他のトラフィック
- ・ デバイスの CPU 負荷
- ・ Web ページのロード時間
- ・ Web ページのダウンロード帯域
- ・ Web ページの先頭バイトまでの時間
- ・ デバイスへの Ping リクエストの応答時間
- ・ リモートデスクトップサービスの応答時間
- ・ その他

## 13.5 設定の継承

階層ツリーはデバイスを整理して分かりやすく表示するのに役立つだけではありません。設定の継承という重要な側面もあります。特に大規模の監視環境においては、上位レベルの設定が下位レベルのオブジェクトに継承されることで管理が簡単になります。例えば、最上位の「ルート」グループで監視間隔を編集するだけで、(個別に設定していない場合は)すべてのセンサーの監視間隔設定を変更できます。

### 13.5.1 子オブジェクトへの設定の継承

特定のプローブ、グループ、デバイス、センサーに異なる値を設定することで、階層の任意のレベルで継承を上書きすることができます。新しい設定は、設定を変更したオブジェクトより下のレベルの全てのオブジェクトに継承されます。以下の設定が継承されます:

- ・ 監視間隔
- ・ 通知トリガー
- ・ いくつかのシステムの認証設定
- ・ (特定のセンサータイプの)互換性設定
- ・ チャンネルおよび単位設定
- ・ ユーザーアクセス権限

- ・ タグ
- ・ 一時停止ステータス(ユーザーまたはスケジュールがオブジェクトを一時停止状態にすると、すべてのセンサーが同様に一時停止します)
- ・ その他

デバイスとセンサーには例外が 1 つあります。デバイスの IP アドレスまたは DNS 名および互換性設定は常にセンサーに継承され、センサーレベルで変更することはできません。

親の設定を継承しない(置換する)場合は、オブジェクトの「設定」タブページで「継承元」をクリックして、フィールドに設定します。以下は設定例です：



### 13.5.2 ルートグループでのデフォルト値設定

パスワードを除くすべての設定について、PRTG はユーザーがソフトウェアをすぐに開始できるようにデフォルト値が設定されています。例えば、以下の設定は「ルート」グループからすべてのセンサーに継承されます。

- ・ 監視間隔 = 1 分
- ・ SNMP バージョン = 2c, コミュニティ文字列 = public(大部分のデバイスのデフォルト値)
- ・ 依存関係の種類 = 親オブジェクトに依存する

いくつかのデフォルト設定を変更する必要があるかもしれませんが、多くの場合最初はこの設定で十分です。センサーをセットアップする前に、「ルート」グループ設定を確認し、必要に応じてデフォルト値を設定してください。監視したいネットワーク内のシステムタイプ(Windows, Linux, 仮想サーバーなど)ごとに認証情報(システムにログインするための情報)を設定してください。詳しくはマニュアルを参照してください。

### 13.5.3 通知トリガーの継承

プローブ、グループ、デバイスレベルで通知トリガーを追加する場合、手動で継承を解除しない限り、それより下位のすべてのセンサーに継承されます。詳しくはマニュアルを参照してください。

## 13.6 監視データのレポート

PRTG を使用すると、特定の期間の監視データを表示、分析、および確認できます。カスタマイズされたデータレポートを作成するには、いくつかの方法があります。ここでは、単一センサーの履歴データの参照および全ての監視データを対象にするレポートの生成方法について説明します。

### 13.6.1 履歴データの参照

センサーの監視データをすばやく確認するには、履歴データレポートを使用します。さらに、センサーの履歴データを .xml ファイルまたは .csv ファイルとしてコンピューターにエクスポートし、サードパーティアプリケーションでデータをさらに処理することもできます。

履歴データレポートを開くには、センサーの [履歴データ] タブをクリックするか、メインメニューバーから [センサー] | [履歴データの表示] を選択するという 2 つの方法があります。



Ping センサーの履歴データタブ

### 履歴データレポートの設定

項目	説明
センサー	<p>この項目は、メインメニューバーから [センサー]   [履歴データの参照] を開いた場合にのみ表示されます。</p> <p>この項目をクリックするとオブジェクトセクターが開き、レポートを作成したいセンサーを選択できます。</p> <p>■ 詳細については、「<a href="#">オブジェクトセクター</a>」を参照してください。</p>
開始	<p>確認したいデータの開始日時を指定します。</p> <p>① 指定した開始日以降に監視データが削除された場合、履歴データレポートを</p>

	生成することはできません。レポートの開始日を、データが利用可能な日付に設定してください。
終了	確認したいデータの終了日時を指定します。
クイック範囲選択	<p>表示されているボタンで、開始日と終了日を簡単に選択できます。次のいずれかのボタンをクリックすると開始と終了が変更できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[1 日間]、[2 日間]、[7 日間]、[14 日間]: 日付の範囲をそれぞれの日数に設定します。終了には、現在の日付と時刻が設定されます。</li> <li>[本日]、[昨日]、[先週(月-日)]、[先週(日-土)]、[先月]、[2 か月間]、[6 か月間]、[12 か月間]: 日付の範囲を最後に一致する期間に設定します。1 日はその日の 00:00 から始まり、翌日の 00:00 に終了します。</li> </ul>
平均間隔	<p>このオプションを使用すると、平均化を設定できます。PRTG が平均値を計算する間隔を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[間隔指定なし(生データを表示)]: PRTG は平均化を実行せず、生データのみを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>① PRTG は生データを最大 40 日間保存します。この期間が経過すると、PRTG は平均を再度計算します。</li> </ul> </li> <li>[15 秒間]、[30 秒間]、[60 秒間/1 分]</li> <li>[2 分間]、[5 分間]、[10 分間]、[15 分間]、[20 分間]、[60 分間/1 時間]</li> <li>[2 時間]、[4 時間]、[6 時間]、[12 時間]、[24 時間/1 日]</li> </ul> <p>① 間隔が短いほど、センサーの履歴データ レポートがより詳細になります。</p> <p>最適な設定は、センサーのスキャン間隔、選択した期間、履歴データレポートの用途によって異なります。さまざまな設定を試して、結果を比較してください。本文書内の「<a href="#">自動平均化</a>」も参照してください。</p>
グラフのチャンネル	<p>この設定は、センサーの[履歴データ]タブから履歴データを表示した場合にのみ表示されます。</p> <p>履歴データレポートのグラフに含めるチャンネルを選択します。それぞれのチェックボックスを使用して個々のチャンネルを選択したり、[すべて表示]または[すべて非表示]ボタンを使用してすべてのチャンネルを表示または非表示したりできます。グラフでは、PRTG は選択したチャンネルのデータのみを表示します。</p> <p>① 履歴データレポートには常にすべてのチャンネルのデータが表示されます。</p>
クラスターノード	<p>この設定は、センサーがクラスタープローブで実行されている場合にのみ表示されます。</p> <p>PRTG が履歴データレポートに含めるクラスターノードのデータを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[すべてのクラスターノード]: レポートにすべてのクラスターノードのデータを含めます。</li> <li>[特定の複数のノード]: レポートには特定のクラスターノードのデータを使用します。表示されるクラスターノードは、セットアップに固有のものです。</li> </ul>
出力ファイル形式	<p>レポートの出力形式を選択します:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[HTML Web ページ]: 結果を HTML Web ページとして直接表示します。これは、結果を別のファイル形式にエクスポートする前に確認する場合にも適したオプションです。</li> <li>[.xml ファイル]: データを .xml ファイルとしてエクスポートします。このオプションを使用すると、通常、ブラウザーにダウンロードダイアログが表示されます。</li> </ul>

- [.csv ファイル]: データを.csv ファイルとしてエクスポートし、たとえば Microsoft Excel にインポートします。このオプションを使用すると、通常、ブラウザにダウンロードダイアログが表示されます。

パーセンタイルの処理

項目	説明
パーセンタイル結果	履歴レポートにパーセンタイルを表示するかどうかを定義します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [パーセンタイルを表示しない(デフォルト)]: PRTG は監視結果を計算するためにパーセンタイル式を使用しません。標準値のみを表示します。</li> <li>• [パーセンタイルを表示する]: PRTG は、各スキャン間隔の値テーブルにプライマリチャネルのパーセンタイル計算を追加表示します。</li> </ul>



パーセンタイルを含む履歴データレポートの例

**パーセンタイルタイプ** この設定は、パーセンタイル結果に[パーセンタイルを表示する]を選択した場合にのみ表示されます。

PRTG が計算に使用するパーセンタイルタイプを入力します。たとえば、95 パーセンタイルを計算することを選択した場合は、ここに 95 と入力すると、ピーク値からの上位 5%は計算に使用されません。整数値を入力します。

**パーセンタイル平均間隔** この設定は、パーセンタイル結果に[パーセンタイルを表示する]を選択した場合にのみ表示されます。

---

	PRTG がパーセンタイル計算の基準とする時間の平均間隔(秒)を入力します。デフォルト値は 300 秒(5 分)です。つまり、PRTG は 5 分間の平均をパーセンタイル計算の基本値として使用します。整数値を入力します。
パーセンタイルモード	<p>この設定は、パーセンタイル結果に[パーセンタイルを表示する]を選択した場合にのみ表示されます。</p> <p>パーセンタイルを計算する方法を選択します:</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• [離散]: PRTG は離散値を使用してパーセンタイルを計算します。</li><li>• [連続]: PRTG は離散値の間を補間し、補間された値を用いて計算を行います。</li></ul>

---

履歴データ レポートを生成するには、[開始]をクリックします。

### レポートについての補足

- レポート内のセンサーグラフには、「チャンネル設定」の[グラフに表示する]オプションで選択したチャンネルのみが表示されます。
- レポートには、[アップタイム統計](アップ状態とダウン状態がパーセントで表示)と[要求の統計](正常と失敗がパーセントで表示)が表示されます。PRTG は、5%から 95%まで、および 0%から 100%までの値を小数点なしの整数に丸めます。その他の値は、小数点以下 3 桁で表示されます。
- PRTG は値を丸めるため、レポートの「センサーステータス履歴」の統計は、「アップタイム統計」の値と数秒程度異なる場合があります。
- PRTG はデータレポートを 1 分あたり 5 件のリクエストに制限します。
- レポートには、「センサーファクトリ」センサーの稼働時間または停止時間のデータは表示されません。
- 適切な量のデータを含むレポートを作成してください。PRTG が短いスキャン間隔で多くのセンサーを処理する必要がある場合、レポートが期待どおりに機能しない可能性があります。必要に応じて、レポートのサイズとレポートがカバーする期間を調整してください。

### 13.6.2 レポートの生成

レポート機能を使用して指定した期間の監視結果やシステム設定の監視結果を表示および分析できます。すべてのセンサーのレポートや特定のセンサーのみのレポートを作成できます。



レポートの例

① 上のレポートは、ローカルプローブ上のデバイスのレポートデータを表示しています。前週のグラフと数値結果を含むデータテーブルを表示できます。

#### はじめに

レポートの生成は、手動またはスケジュールに従って実行できます。レポートは HTML、PDF、CSV や XML といった形式で生成できます。さらに、単一のセンサーまたはすべてのセンサーのレポートを作成できます。さらにシステム設定の HTML レポートを作成することもできます。

レポートテンプレートは、レポートの全体的な外観と、レポートに表示される監視データの詳細設定を行います。

## 事前設定済レポート

PRTG には、いくつかの事前設定済みレポートが用意されています。編集や削除も可能です。

- 全センサー概要レポート
- 上位 100 ビジー/アイドル CPU センサー
- 上位 100 最高速/再低速 HTTP センサー
- 上位 100 最高速/再低速 Ping センサー
- 上位 100 最大/最小ディスク領域センサー
- 上位 100 最多/最少帯域使用センサー
- 上位 100 最大/最小使用メモリセンサー
- 上位 100 アップタイム/ダウンタイムレポート

## レポートメニュー

メインメニューバーの[レポート]をクリックすると、監視データに関するすべてのレポートの概要のリストが表示されます。[レポート]メニューにマウスカーソルを置くと、他のオプションが表示されます。

オプション	説明
すべて	監視データに関するレポートを表示または追加できるレポートリストを開きます。
レポートを追加	新しいレポートを作成するためのダイアログを開きます。
レポートを選択	[レポートを選択]にマウスを合わせると、監視データに関するレポートのリストが表示されます。レポートをクリックして開きます。
設定情報レポート	設定情報レポートにマウスを合わせると、使用可能な設定情報レポートが表示されます。項目を選択して、[マップ]、[レポート]、[ユーザー & ユーザーグループ]、および[システム設定]のレポートを作成し、設定の変更を文書化できます。

## レポートのリスト

[レポート]メニューの[すべて]ビューには、監視データに関するすべてのレポートのリストが表示されます。

オブジェクト	テンプレート	セキュリティコード リンク先	ステータス	次回実行	最終実行	最終実行	<input type="checkbox"/>	
全上位 100 アップタイム/ダウ...	上位 100 アップタイ...	■ PRTG System...	日	なし	アイドル状態	-	0	<input type="checkbox"/>
全上位 100 ビジー/アイドル...	上位 100 最高および...	■ PRTG System...	日	なし	アイドル状態	-	0	<input type="checkbox"/>
全上位 100 最高速/再低速 HT...	上位 100 最高および...	■ PRTG System...	日	なし	アイドル状態	-	0	<input type="checkbox"/>
全上位 100 最高速/再低速 Pi...	上位 100 最高および...	■ PRTG System...	日	なし	アイドル状態	-	0	<input type="checkbox"/>
全上位 100 最多/最少帯域使...	上位 100 最高および...	■ PRTG System...	日	なし	アイドル状態	-	0	<input type="checkbox"/>
全上位 100 最大/最小ディス...	上位 100 最高および...	■ PRTG System...	日	なし	アイドル状態	-	0	<input type="checkbox"/>
全上位 100 最大/最小使用メ...	上位 100 最高および...	■ PRTG System...	日	なし	アイドル状態	-	0	<input type="checkbox"/>
全センサー概要レポート	センサーリスト (デ...	■ PRTG System...	日	なし	アイドル状態	-	0	<input type="checkbox"/>

## レポートのリスト

項目	説明
オブジェクト	レポートの名称です。
テンプレート	このレポートテンプレートの名称です。
セキュリティ コンテキスト	PRTG がレポートの実行に使用するユーザーアカウントです。このユーザーアカウントによって、レポートに表示されるオブジェクトが定義されます。 ■ 詳細については、「 <a href="#">Report Settings</a> 」を参照してください。
期間	レポートがカバーする期間です。
時間設定	定期的にレポートを自動的に実行するようにスケジュールを設定しているかどうかを示します。 ■ 詳細については、「 <a href="#">Report Settings</a> 」を参照してください。
メール	「時間設定」を行い、「レポート設定」にメールアドレスを入力した場合、そのメールアドレスを表示します。
ステータス	レポートのステータスです。
次回実行	「レポート設定」で「時間設定」をした場合、PRTG が次にレポートを実行する日時を表示します。
最終実行	「レポート設定」で「時間設定」をした場合、PRTG が最後にレポートを実行した日時を表示します。
最終実行での センサー数	PRTG が最後にレポートを実行したときにデータが含まれていたセンサー数を表示します。

監視データに関するレポートの名前部分をクリックすると、[今すぐ実行]タブが開きます。

① 設定情報レポートはメインメニューバーからのみ実行できます。

レポートの横にあるチェックボックスを有効にすると、クイックアクションボタンを使用できます。

- [クローン]:このレポートを複製します。
- [削除]:このレポートを削除します。
- [設定]:このレポートの設定を変更します。

新しいレポートを追加するには、メインメニューから[レポートの追加]を選択します。

■ 「テーブルリストの操作」および「マルチ編集」のセクションも参照してください。

## 設定情報レポート

設定情報レポートで PRTG の設定を表示できます。設定には、[マップ]、[レポート]、[ユーザー & ユーザーグループ]、および[システム設定]が含まれます。PRTG は、設定情報レポートを HTML ページとして新しいブラウザウィンドウに直接表示します。設定情報レポートを使用して、たとえば、PRTG の設定変更をファイルとして文書化することができます。

設定情報レポートには、[マップ]の概要、[レポート]の概要、および[システム管理]の[ユーザーアカウント]タブと[ユーザーグループ]タブに表示されるものと同じ情報が含まれます。[設定情報レポート]の[システム設定]には、[ユーザーインターフェイス]、[監視]、[通知配信]、[コア & プローブ]、および[クラスター]タブのシステム管理設定が含まれます。

① 設定情報レポートはインタラクティブです。利用可能なリンクをクリックすると、PRTG Web インターフェイスの対応するページに移動できます。

## 自動平均化

パフォーマンス上の理由から、PRTG は長期間のデータを計算するときに監視データを自動的に平均化します。

レポートの期間	最小詳細レベル(平均間隔)
40 日まで	制限なし
40~500 日	60 分/1 時間以上

① 500 日を超える期間のレポートは作成できません。500 日より長い期間を入力すると、PRTG によって自動的に 365 日に短縮されます。

① 場合によっては、内部の平均化処理が原因で、生成されたレポートに、レポートに定義された開始日と終了日とは異なる期間が含まれることがあります。平均化間隔が 1 時間より長く 24 時間未満の場合、および平均化間隔が特定の期間と組み合わせられている場合、結果のデータポイントは期間に対して同期しない可能性があります。特に、アプリケーションプログラミングインターフェイス (API) 呼び出しを使用してレポートを生成する場合は、この動作を考慮してください。

## 14 センサーステータス

PRTG のデバイスツリーでは、通常デバイス上に複数のセンサーを作成します。センサーを使うことでユーザーはデバイスの異なる側面を監視できます。

センサーには常に現在のステータスが表示されます。デバイスツリー内やマップ上では、階層内のステータスが高ければ高いほど、センサーステータスの表示優先度は高くなります。例えば、特定のデバイスのすべてのセンサーが「アップ」であるが、そのセンサーのうち1つが「ダウン」ステータスになると、このデバイスの全体のステータスは「ダウン」になります。(例えば、ツリーマップビューでは赤で表示されます。)このステータスは階層上上位に表示されます。

**注記:** 「ダウン」および「ダウン(パーシャル)」ステータスは階層上同等です。

センサーのステータスは以下のとおりです:

センサー	色	ステータス名	意味
	赤	ダウン	<p>PRTG がデバイスに到達できないかセンサーがエラーステータスに達しています。詳しくはマニュアルを参照してください。</p> <p><b>注記:</b> 設計ではセンサーはこのステータスを表示している間、このチャンネルでデータを記録しません。</p> <p>このステータスになる他の原因としては、センサーチャンネルに設定されたエラー上限に達したこと、センサールックアップのためエラーステータスになったということがあります。</p> <p><b>注記:</b> この場合、センサーがエラーを表示してもセンサーは全てのセンサーチャンネルでデータを記録し続けます。</p>
	緑/赤	ダウン(パーシャル)	<p>クラスター環境の場合、少なくとも1つのノードがこのセンサーを「ダウン」とレポートし少なくとも1つの他のノードが同じセンサーを「アップ」とレポートしている場合に表示されます。</p> <p><b>注記:</b> このステータスはフェイルオーバークラスターのリモートプローブ上のセンサーでは利用できません。</p>
	ライトピンク	ダウン(確認済み)	<p>ユーザーが確認済みである場合に表示されます。警報が既に認識されていることをマーク付けするのに役立ちます。確認済みの警報については通知が送信されません。このセンサーステータスを設定するには、「ダウン」ステータスのセンサー上で右クリックしコンテキストメニューから「警報確認...」を選択してコメントを入力後「OK」を押します。</p>
	黄色	警告	<p>このセンサーにエラーがあるが、PRTG はもう一度監視します。センサーはすぐに「ダウン」ステータスに変わる可能性があります。詳しくはマニュアルを参照してください。このステータスになる他の理由としては、センサーチャンネルで設定された警告上限に達したことがあります。</p>

	オレンジ	異常	センサーがこの曜日と時刻に異常値をレポートします。異常検出は履歴の平均データがベースであり、システム管理者は設定または無効化することができます。特定のグループの異常検出を無効化することもできます。
	緑	アップ	前回のチェックが OK でセンサーがデータを戻しています。
	青	一時停止	センサーが現在一時停止されています(一定時間、無期限、継承による)
	黒 (灰)	原因不明	このセンサーはまだ PRTG によりチェックされていないか(ネットワーク)接続にエラーがあります。センサーがこのステータスを継続的に示している場合、PRTG の再起動が必要になる場合があります。

#### 14.1 警告及びダウン状態でのセンサーの動作

「ダウン」ステータスは監視対象のデバイスに何か問題が発生していることを示しています。「ダウン」ステータスにはさまざまな原因があります。例えば、デバイス間の接続が物理的に切断されている場合、インターネット接続が停止している場合、サーバーがクラッシュした場合などです。

リクエストに失敗すると、PRTG はセンサーを「ダウン」ステータスに設定する前に再度デバイスへの到達を試みます(ほぼすべてのセンサーに当てはまります。):

- Step 1. デバイスへのリクエストに失敗すると、センサーは「警告」ステータスに変わります。PRTG は即時にリクエストを繰り返し、すぐにデバイスの再スキャンを試みます。
- Step 2. 2 回目のリクエストに失敗すると、デフォルト設定の場合センサーは「ダウン」ステータスに変わります。センサーはデバイスに再度可能になるまで、「ダウン」ステータスとなります。この動作は監視対象オブジェクトの「監視間隔」設定で変更することができます。PRTG は監視間隔ごとにデバイスへの到達を試みます。

この処理により、デバイスやセンサーが一時的な高負荷から復旧できた場合の誤警報を防ぐことができます。また、あらゆる障害発生をすぐに認知することができます。

**注記:** 上記の動作はセンサーチャンネルで設定された警告またはエラー上限に達した場合やルックアップを使用するチャンネルの場合には適用されません。

## 15 ライセンスアクティベーション(ライセンスの有効化)

PRTG をインストールしたマシンがインターネットに接続できる場合(\*)は、インストール後にライセンスアクティベーションが自動実行されます(ユーザーは手動でライセンスをアクティベーションする必要はありません)。

(\*) ライセンスアクティベーションを自動で行うには、PRTG をインストールしたマシンが以下の(サブ)ドメインのいずれかにアクセスできなければなりません:

(サブ)ドメイン	プロトコル	ポート	注記
activation.paessler.com	https	443	IP 62.146.25.20
activation1.paessler.com	https	443	IP 62.146.25.20
activation2.paessler.com	https	443	IP 62.146.25.20
activation3.paessler.com	https	443	IP 62.146.25.20
activation1.paessler.ag	https	443	IP 62.146.25.20
activation1.paessler.eu	https	443	IP 62.146.25.20

### 15.1 自動ライセンスアクティベーションが失敗した場合

インストール時の自動ライセンスアクティベーションが失敗した場合は、「ライセンスを有効にする」画面が表示されます。

ライセンスを有効にする

ライセンスステータス:  
有効になっていません。(Failed to establish secure connection Socket Error # 11001  
Host not found.)

PRTGを開始するには、まずライセンスを有効化する必要があります。

アクティベーションタイプ(自動または手動設定)を選択し、ライセンス名とキーを照合してください。もし PRTG サーバーが Paessler アクティベーションサーバー (activation.paessler.com) に接続できない場合は、手動設定を選択してください。

ステップ1: アクティベーションタイプを選択する

アクティベーションタイプ

自動 (オプションのHTTPプロキシを伴うオンラインアクティベーション)

手動設定 (オフラインでのアクティベーション)

PRTG の使用を開始するには、ライセンスのアクティベーション(有効化)が必要です。以下のいずれかの方法でライセンスを有効化してください。

- ・ [プロキシサーバーを経由してライセンスを有効化する](#)
- ・ [オフライン環境でライセンスを有効化する](#)



### ステップ3: PRTGを有効化する

送信先: Paessler アクティベーションサーバー (activation.paessler.com) への HTTPS 接続が必要です。接続には HTTP プロキシを使用できます。

プロキシサーバーを使用する <sup>①</sup>

- いいえ、インターネットへの直接接続 (デフォルト設定)
- はい、プロキシ経由での外部ネットワークへの接続が必要です

プロキシサーバー <sup>①</sup>

このフィールドに値を入力してください。

ポート <sup>①</sup>

8080

プロキシの資格情報を使用する <sup>①</sup>

- いいえ、必要な資格情報なし
- はい、プロキシサーバーが資格情報を必要とします。

ユーザー <sup>①</sup>

このフィールドに値を入力してください。

パスワード <sup>①</sup>

このフィールドに値を入力してください。

[キャンセル](#)

ライセンスを有効化する

Step 4. 入力が完了したら、「ライセンスを有効化する」をクリックします。

Step 5. ライセンスの有効化に成功すると、ライセンス画面が表示されます。



これでライセンスを有効化することができました。

### 15.1.2 オフライン環境でライセンスを有効化する

Step 1. オフライン環境の場合は、「ステップ1」セクションで「手動設定(オフラインでのアクティベーション)」を選択します。

アクティベーションタイプ ⓘ

自動 (オプションのHTTPプロキシを伴うオンラインアクティベーション)

手動設定 (オフラインでのアクティベーション)

Step 2. 「ステップ2」セクションの画面の表示内容が変わって次のような情報が表示されます。

ステップ2: PRTGライセンスを照合する

ライセンス名 ⓘ

prtgtrial

ライセンスキー ⓘ

000014-1AAAAA-88BB1B-CC2C68-DDDB06-EEEEEE-FF4F6F-GGGGG0-HHHHHH-75JJ88

システムID ⓘ

SYSTEMID-2ZOZMHVX-HSI23HYW-WH6IOBOH-7PKACLUF-JVYOSDQA-VERSION-19.2.50.2842

**TIP** ライセンスデータを.txtファイルとしてここに保存することができます。

ファイルに保存する

ステップ3: アクティベーションデータを要求する

オープン <http://www.paessler.com/activation> 送信先: [www.paessler.com](http://www.paessler.com) に接続可能なシステム上で、ライセンスデータを入力してください。

ステップ4: アクティベーションデータを提供する

- Step 3. 表示された情報から、①「ライセンス名」、②「ライセンスキー」、③「システム ID」、④ライセンス管理サーバーへのアクセス URL、をクリップボードへコピーします。

### ステップ2: PRTGライセンスを照合する

ライセンス名 ⓘ

① prtgtrial

ライセンスキー ⓘ

② 000014-1AAAAA-8BBB1B-CC2C68-DDDB0B-EEEEEE-FF4F6F-GGGGG0-HHHHHH-75JJ88

システムID ⓘ

③ SYSTEMID-2ZOZMHYX-HSI23HYW-WH6JOB0H-7PKACLUF-JVY05DQA-VERSION-19.2.50.2842

**TIP** ライセンスデータを.txtファイルとしてここに保存することができます。

ファイルに保存する

### ステップ3: アクティベーションデータを要求する

④ <http://www.paessler.com/activation> 送信先: www.paessler.com に接続可能なシステム上で、ライセンスデータを入力してください。

### ステップ4: アクティベーションデータを提供する

- Step 4. メモ帳などに貼り付けて、ファイルとして保存してください。

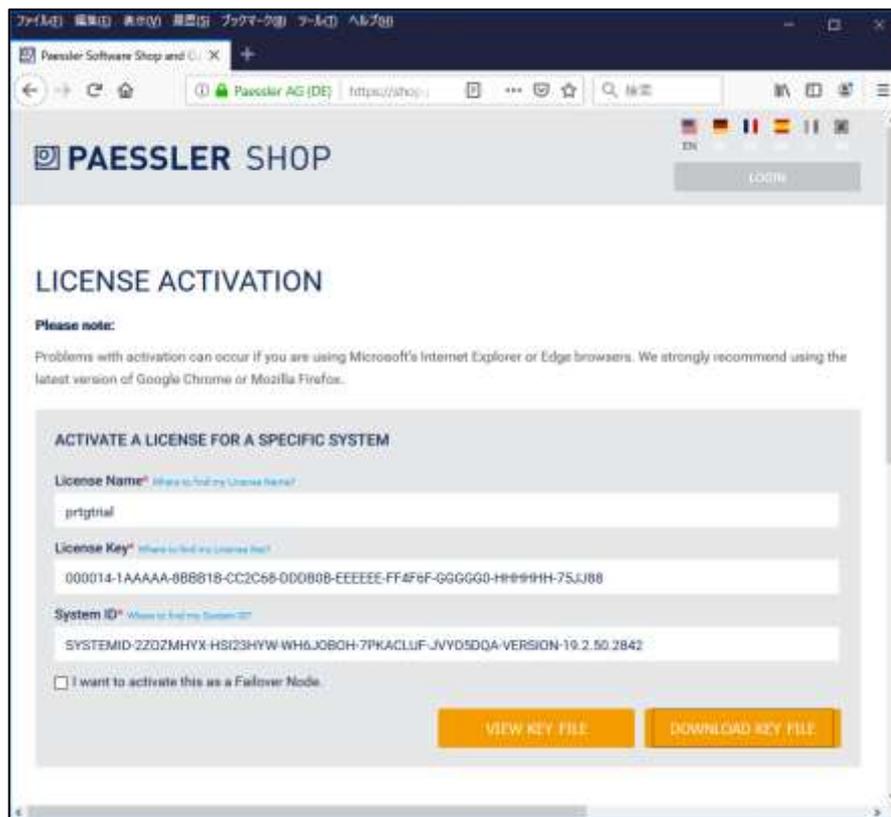
```

オフライン アクティベーションに必要な情報.txt - メモ帳
ファイル(F) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)
ライセンス名
prtgtrial
ライセンスキー
000014-1AAAAA-8BBB1B-CC2C68-DDDB0B-EEEEEE-FF4F6F-GGGGG0-HHHHHH-75JJ88
システムID
SYSTEMID-2ZOZMHYX-HSI23HYW-WH6JOB0H-7PKACLUF-JVY05DQA-VERSION-19.2.50.2842
アクティベーションデータを要求する 送信先
http://www.paessler.com/activation
  
```

- Step 5. インターネットに接続可能な([www.paessler.com](http://www.paessler.com) に接続可能な)コンピューターへファイルを移します。  
ブラウザを起動し、以下のサイトにアクセスします。

<http://www.paessler.com/activation>

- Step 6. **License Activation** ページが開きます。**License name**、**License key**、**System ID** に先ほど保存したファイルから、それぞれ「ライセンス名」、「ライセンスキー」、「システム ID」、の情報をコピー&ペーストで入力します。



※注意 左下のチェックボックスにはチェックをいれないでください。  
チェックをいれて作業を進めた場合、アクティベーションに失敗します。

- Step 7. 「**DOWNLOAD KEY FILE**」をクリックしてファイルを保存します。



※ダウンロードされるファイルのファイル名は activation.dat です。

- Step 8. PRTG の「ライセンスを有効にする」画面に戻ります。
- Step 9. 「ステップ 4」セクションの「ファイルからロードする」ボタンをクリックし、さきほどダウンロードした activation.dat を選択して「開く」をクリックします。

The screenshot shows a web interface for providing activation data. The title is "ステップ4: アクティベーションデータを提供する" (Step 4: Provide activation data). Below the title, there is a text box for pasting clipboard data and a "ファイルからロードする" (Load from file) button, which is highlighted with a red rectangle. A tip box indicates that activation data can be loaded from a file. At the bottom right, there is a "ライセンスを有効化する" (Activate license) button. At the bottom left, there is a "メッセージ" (Message) link.

- Step 10. 「アクティベーションデータ」フィールドにファイルの内容が表示されます。
- Step 11. 「ライセンスを有効にする」ボタンをクリックします。

**ステップ4: アクティベーションデータを提供する**

結果として生じたアクティベーションデータを次のフィールドに貼り付けるか、またはファイルを以下にアップロードしてください。

アクティベーションデータ

```

--- Start Activation ---
3334342d52477272 3166654e45714c46 514a644435346f70 3951376d4d59594e
75574e6466796d35 434657346678584a 3562326477554e49 366330082f41434a
786b76386e4b6a6a 472b4c61422b5a32 4242457039455331 2b4b6f6e39375776
364f6853676a4765 726b4976616d696c 646c534259666e53 5644796138743839
49667854766b6630 7752764749315647 7763544c43593066 746c4b2f36395836
6837332b4b713934 472b6589552f5661 4a7a4b4d68317633 4c4f764f47502b51
61464d56456b4c65 554b4b5963454e59 364638426578594b 6268734e556d7373
6332396541734c5a 3735636259643544 56686a5473696447 4e6b636d6e796476
3645687274496559 6258427869736153 506d6a71586d7945 2b626c39635a6f45
496b564545615972 515a66486e783969 584d663846456f38 6c4f75442b305334
6365447470735463 5041466a6c797936 4446393377704636 34413d3d504b3430
73474a6a2b497933 6531637153357840 59346e39537a4946 743841536b426934
4f51313937723336 6e764f4849445376 4a4a616e4964476c 7677736b30457a7a
6f336d656e695649 4676745361894936 764c415142774666 66334f52357a3277

```

**TIP** アクティベーションページに保存した.txtまたは.datファイルからアクティベーションデータをアップロードできます。

ファイルからロードする  
activation.dat

[キャンセル](#) [ライセンスを有効化する](#)

Step 12. ライセンス画面が表示されます。

ライセンス

ステータス

ログ

ライセンス登録

ライセンスステータス **Activation was successful**

ライセンス名	prtgtrial
ライセンスキー	000014-8f46875d4c0217-307462-7b4c963-7c244f4-1447f44d8b1-3d-02b1d88-75FU88
システムID	SYSTEMID-22323409313323309313323309313323347793093036
ライセンスエディション	PRTG Network Monitor Trial (30 days left) (有効期限 2019/08/09)
直近の更新	2019/07/10 16:46:00
センサー数	無制限

これでライセンスを有効化することができました。

## 15.2 ライセンスステータスの確認

現在のライセンスステータスはライセンスページ(「設定 -> ライセンス」)で確認できます。



または、「ようこそ」画面の「ライセンスステータス」セクションからも保守残日数(「保守期間残り日数」)を確認できます。



## 15.3 ライセンスの差し替え

正規版ライセンスをご購入いただくと、ライセンスキーをメールで送付いたします。

新規インストール時に正規ライセンスキーを登録した場合は、何もしなくて構いません。そのままご利用ください。

新規インストール時にトライアルライセンスキーを登録して評価後、正規ライセンスをご購入いただき、トライアル環境をそのまま本番環境に移行したい場合は、PRTGに登録しているライセンスキーを差し替えていただく必要があります。

**メモ:** トライアル期間が終了すると、自動的に100センサーフリーウェア版に切り替わります。

### 15.3.1 インストールしたソフトウェアの確認

#### **※v16.4.27 以前のバージョンをご利用中の場合のみ**

最初に、正規ライセンス版がインストールされていることをご確認ください。正規ライセンスキーは正規ライセンス版にしか適用できません。

16.4.27 以前のバージョンには以下の2つのインストーラがありました:

- ・ 正規ライセンス版: 正規ライセンスキーを適用できます。
- ・ フリーウェア版: 100センサーフリー版です。正規ライセンスキーを適用できません。

正規ライセンスキーを適用したい PRTG がフリーウェア版である場合は、正規ライセンスキーを登録する前に正規ライセンス版インストーラで上書きインストールしてください。

**メモ:** PRTG のインストーラは v16.4.28 から一本化されました(正規版/フリー版/トライアル版共通)。v16.4.28 以降のバージョンのフリー版またはトライアル版をご利用中の場合は、正規ライセンスキーを適用していただくだけで正規版に切り替わります。

### 15.3.2 ライセンスキーの変更

ライセンスキーファイルを手元にご準備ください。

ライセンスキーは Web ユーザーインターフェイスから変更することができます。

Step 1. 「設定 → ライセンス」をクリックします。



Step 2. 「ライセンスキーを変更する」をクリックします。



Step 3. 「ライセンスを更新する」ページが表示されます。

インターネットへ直接接続できる環境の場合は、「ステップ 2」セクションの「ライセンス名」と「ライセンスキー」フィールドに、ライセンスキーファイルの License Name の値と License Key の値をそれぞれコピー & ペーストします。

メモ: 入力ミスを防ぐため、ライセンスキーファイルの内容をコピー & ペーストで登録していただくことをお勧めします。

## ライセンスを更新する

**ライセンスステータス:**  
Activation was successful

ここでライセンスを変更するか、または手動設定でメンテナンス情報を更新することができます。

アクティベーションタイプ（自動または手動設定）を選択し、ライセンス名とキーを照合してください。  
もし PRTG サーバーが Paessler アクティベーションサーバー（activation.paessler.com）に接続できない場合は、手動設定を選択してください。

### ステップ1: アクティベーションタイプを選択する

アクティベーションタイプ <sup>?</sup>

自動（オプションのHTTPプロキシを伴うオンラインアクティベーション）  
 手動設定（オフラインでのアクティベーション）

### ステップ2: PRTGライセンスを照合する

ライセンス名 <sup>?</sup>  
[REDACTED]

ライセンスキー <sup>?</sup>  
[REDACTED]

インターネットに直接接続できない（プロキシ経由）場合やオフライン環境の場合は、「[自動ライセンスアクティベーションが失敗した場合](#)」を参照してライセンスを更新してください。

Step 4. 「ライセンスを更新する」をクリックします。

### ステップ3: PRTGを有効化する

送信先： Paessler アクティベーションサーバー（activation.paessler.com）への HTTPS 接続が必要です。接続には HTTP プロキシを使用できます。

プロキシサーバーを使用する <sup>?</sup>

いいえ、インターネットへの直接接続（デフォルト設定）  
 はい、プロキシ経由での外部ネットワークへの接続が必要です

[キャンセル](#) [サポートに問い合わせる](#) [ライセンスを更新する](#)

PAESSLER 18.3.43.2323+ © 2018/09/10 14:45:47 © 2018 Paessler AG

ライセンスページが表示されます。  
変更したライセンス情報が表示されていることを確認してください。

## ライセンス

▼ ステータス ☰ ログ

### ライセンス登録

ライセンスステータス	Activation was successful
ライセンス名	NFR-PA - Jupiter
ライセンスキー	[REDACTED]
システムID	[REDACTED]
ライセンスエディション	PRTG Network Monitor 500
直近の更新	2018/09/03 11:40:30
メンテナンス有効期限	2019/01/14 (126 残余日数)
センサー数	500 もっとセンサー数が必要な場合は、ここをクリックするとアップグレードできます。

[ライセンスキーを変更する](#) [更新情報](#) [このライセンスを無効にする](#)

## 16 バックアップと復元

この章では、PRTG の設定のバックアップと復元方法について説明します。

PRTG の設定ファイル「PRTG Configuration. dat」に保存されている内容は、監視設定、プローブサービス、グループ、デバイス、センサー、ユーザー、マップ、レポートなどの設定情報です。

※ PRTG の設定の他に、監視対象デバイスから送信された監視データがあります。

PRTG の監視データのバックアップと復元は、PRTG の移行と同じ意味となります。詳細は KB 翻訳文書「[PRTG を別のサーバーに移行するにはどうすればよいですか](#)」を参照してください。

### 16.1 設定のバックアップ

設定のバックアップを取ることで、障害発生等の迅速な復旧やシステム移行時の手順を簡素化することができます。PRTG は、設定を自動または手動でバックアップできます。

#### 16.1.1 自動バックアップ

バックアップはデータディレクトリに保存されます。デフォルトのパスは以下です。

C:\ProgramData\Paessler\PRTG Network Monitor\Configuration Auto-Backups

ファイル名は PRTG Configuration. dat (Backup yyyy-mm-dd). zip です。

#### 16.1.2 手動バックアップ

現在の設定のバックアップファイルを手動で作成することができます。スナップショットと呼びます。

スナップショットも自動バックアップと同じデータディレクトリに保存されます。

ファイル名は PRTG Configuration (Snapshot yyyy-mm-dd hh-mm-ss). zip です。

作成手順は以下の通りです。

Step 1 [設定] | [システム管理] | [管理ツール]に移動



[設定]の[システム管理]セクションの[管理ツール]

## Step 2 設定のスナップショットを作成



[設定のスナップショットを作成する]画面

[設定のスナップショットを作成する]の[実行]ボタンをクリックします。

## 16.2 設定の復元

PRTG の設定のバックアップを復元する手順は以下の通りです。保存されている監視データには影響はありません。

### Step 1 「PRTG Configuration.dat」ファイルの準備

データディレクトリに保存されている、復元したい時点の「PRTG Configuration.dat」ファイルを準備します。デフォルトのデータディレクトリのパスは以下です。

C:\ProgramData\Paessler\PRTG Network Monitor\Configuration Auto-Backups

バックアップは ZIP 形式となっており、展開すると「PRTG Configuration.dat」が得られます。

インストール時にデータディレクトリを変更した場合、「PRTG Administration Tool」の[PRTG コアサーバー]タブの[データファイルと監視データベースのローカルストレージ]セクションで実際のパスを確認できます。

### Step 2 コアサーバーサービス/プローブサービスを停止

「PRTG Administration Tool」を起動し、[サービスの開始/停止]タブをクリックします。PRTG コアサーバーサービス/PRTG プローブサービスを停止します。

※ PRTG コアサーバーサービス停止期間中、Web インターフェイス、レポートエンジン、通知システムが停止します。

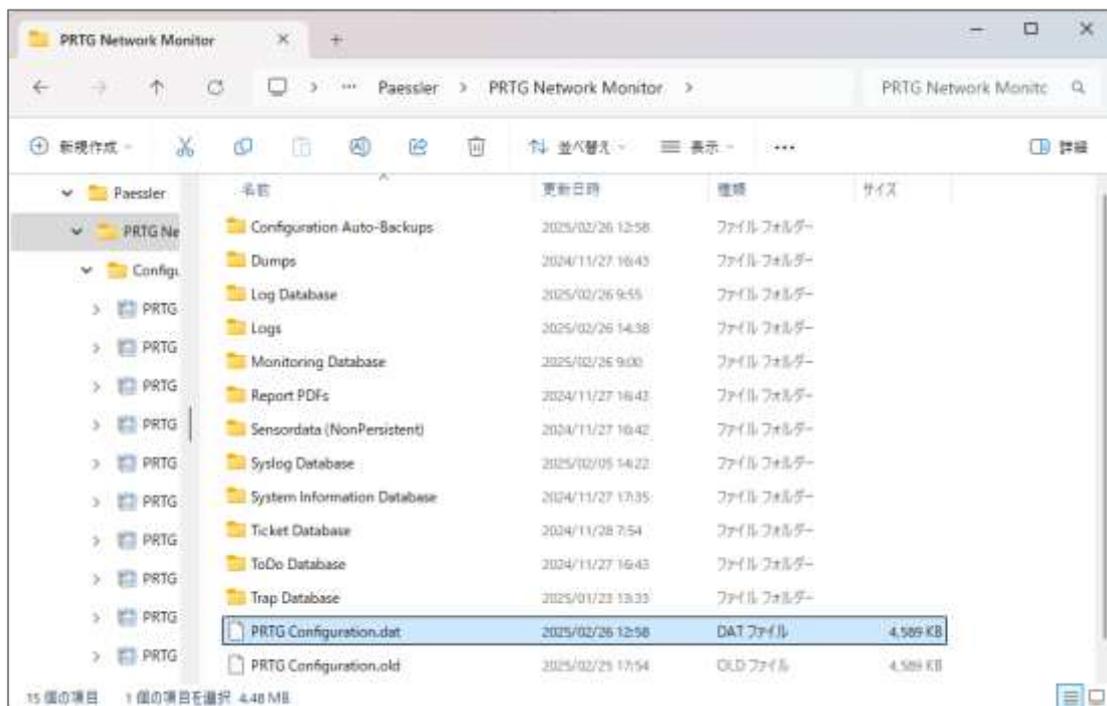


PRTG コアサーバーサービス/PRTG プロブサービスの停止

### Step 3 「PRTG Configuration.dat」ファイルを置き換え

「PRTG Configuration.dat」ファイルを復元したい時点のものに置き換えます。デフォルトのフォルダーは以下の通りです。

C:\ProgramData\Paessler\PRTG Network Monitor



## 「PRTG Configuration.dat」の置き換え

Step 4 「PRTG Administration Tool」からコアサーバーサービス/プローブサービスを再開

「PRTG Administration Tool」を起動し、[サービスの開始/停止]タブをクリックします。PRTG コアサーバーサービス/PRTG プローブサービスを開始します。

Step 5 設定の確認

Web インターフェイスにログインし、監視設定と結果を確認します。  
デバイスツリーの表示やデバイスの監視結果、必要に応じその他のメニューや設定を確認します。

以上の手順で設定の復元ができました。

## お問い合わせ

弊社では、PRTG に関するご意見、フィードバックをお待ちしております。  
PRTG についてご不明な点がございましたら、以下までお問い合わせください。

ジュピターテクノロジー株式会社 (Jupiter Technology Corp.)

住所: 〒183-0023 東京都府中市宮町一丁目 40 番地 KDX 府中ビル 6F

URL: <https://www.jtc-i.co.jp/>

電話番号: 042-358-1250

FAX 番号: 042-360-6221

購入前のお問い合わせ先: <https://www.jtc-i.co.jp/contact/scontact.php>

購入後のお問い合わせ先: <https://www.jtc-i.co.jp/support/customerportal/>

日本語マニュアル発行日 2016 年 10 月

修正日 2025 年 07 月

参考マニュアル: [PRTG Network Monitor - User Manual](#)

ジュピターテクノロジー株式会社